博士論文

# 日中戦争期における中国共産党根拠地の労働英雄運動
## ―陝甘寧辺区・晋西北根拠地・太岳根拠地の比較を中心に―

令和5年3月

広島大学大学院人間社会科学研究科

李芸

博士論文

# 日中戦争期における中国共産党根拠地の労働英雄運動
## —陝甘寧辺区・晋西北根拠地・太岳根拠地の比較を中心に—

令和5年3月

広島大学大学院人間社会科学研究科
人間総合科学プログラム

李芸

目次

**序論** ..... 1
1．陝甘寧辺区・晋西北根拠地・太岳根拠地の地理位置 ..... 1
2．労働英雄運動の先行研究 ..... 9
3．論文の構成 ..... 13
**第1章　晋西北抗日根拠地における労働英雄運動—陝甘寧辺区との比較を中心に—** ..... 15
1．労働英雄運動の展開 ..... 15
1．1　陝甘寧辺区の労働英雄運動 ..... 15
1．2　晋西北根拠地の労働英雄運動 ..... 17
2．英雄の選抜 ..... 21
2．1　陝甘寧辺区 ..... 21
2．2　晋西北根拠地 ..... 22
3．各辺区における特等労働英雄の特徴 ..... 24
3．1　陝甘寧辺区 ..... 24
3．2　晋西北根拠地 ..... 27
3．3　他の根拠地 ..... 30
4．労働英雄運動の主題 ..... 31
4．1　陝甘寧辺区 ..... 31
4．2　晋西北根拠地 ..... 32
5．晋西北根拠地の労働英雄大会における民俗利用 ..... 33
5．1　英雄を「状元」とする呼称の使用(1942年～) ..... 34
5．2　廟会の雰囲気の演出(1942年～) ..... 34
5．3　騾馬大会との結合(1942年～) ..... 35
6．まとめ ..... 36
**第2章　太岳抗日根拠地における群衆英雄運動—前線根拠地における英雄の表象—** ..... 38
1．1940－1943年の群衆英雄運動 ..... 38
1．1　労働英雄の表彰 ..... 38
1．2　薬炎明運動 ..... 39
2．女性労働英雄の表彰 ..... 42
2．1　女性労働英雄 ..... 42
2．2　弱者の模範、革命の模範 ..... 46

３．　陝甘寧辺区における労働英雄運動の手法の太岳根拠地への導入 ..... 48
３．１　陝甘寧辺区と晋西北根拠地の労働英雄運動 ..... 48
３．２　太岳根拠地の労働英雄運動 ..... 50
３．３　太岳区殺敵英雄・労働英雄・模範工作者第一回大会 ..... 51
３．４　太岳根拠地の代表的な英雄 ..... 52
４．　群衆英雄運動の終束 ..... 53
４．１　日中戦争後の英雄選抜 ..... 54
４．２　富農経済の提唱 ..... 54
４．３　土地改革の始まり ..... 56
５．　まとめ ..... 57
**第３章　スタハノフ運動・趙占魁運動と前線根拠地の模範労働者運動** 59
１．　スタハノフ運動 ..... 59
１．１　スタハノフ運動の背景 ..... 59
１．２　スタハノフ運動の概況 ..... 61
１．３　スタハノフ運動の動員手法 ..... 62
１．４　スタハノフ運動の影響 ..... 63
２．　陝甘寧辺区の模範労働者 ..... 63
２．１　スタハノフ運動の受け入れ ..... 63
２．２　陝甘寧辺区の労働英雄運動の背景 ..... 65
２．３　趙占魁の発見 ..... 65
２．４　趙占魁運動の展開 ..... 66
２．５　模範女性労働者 ..... 69
２．６　陝甘寧辺区の模範労働者の特徴 ..... 70
３．　晋西北と太岳の模範労働者 ..... 71
４．　趙占魁運動とスタハノフ運動の比較 ..... 76
５．　まとめ ..... 79
**終章** ..... 81
**参考文献一覧（50 音・ピンイン・アルファベット順）** ..... 86

[図表一覧]

図序－1:陝甘寧辺区 ..... 3
図序－2:日中戦争期の晋西北根拠地 ..... 4
図序－3:晋冀魯豫辺区地図 ..... 6
図序－4:華北抗日根拠地 ..... 8

表 1－1:陝甘寧辺区第一回労働英雄大会の代表的な英雄 .....24
表 1－2:晋西北根拠地四回労働英雄大会の代表的な英雄 .....27

表 3－1:陝甘寧辺区の模範労働者 .....70
表 3－2:晋西北と陝甘寧軍需産業部門の労働英雄 .....74
表 3－3:太行区軍需産業部門の労働英雄 .....75
表 3－4:趙占魁運動とスタハノフ運動の比較 .....78

## 序論

1937年7月、日中戦争が勃発すると、中国共産党（以下、中共）は山西省、河北省、河南省、山東省などの地域に根拠地を樹立して抗日活動を展開していた。根拠地全体の生産を発展させ、戦争に必要な物資を提供して勝利を勝ち取るため、根拠地では様々な経済建設が行われた。労働英雄運動は経済建設の一環である。日中戦争期において、中共中央委員会（以下、中共中央）は陝甘寧辺区に駐在し、中共中央の下に西北局、北方局などが設けられ、各根拠地を指導していた。1940年末まで、中共は晋察冀、晋冀豫、晋西北、山東、蘇南、蘇北など16の根拠地を創立し、北方局は主に華北の根拠地を指導していた[1]。中共中央は北方局を通じて華北の根拠地に指示を伝え、各根拠地の政府が政策を決めるわけである。しかし、1942年9月1日の中共中央政治局「関於統一抗日根拠地党的領導及調整各組織間関係的決定」において、党の指導の一元化を強調し、各根拠地の指導機関が必ず中央の指示に従って政策を決定するよう命じているように[2]、整風運動以前において延安からの統制が弱く、根拠地は分散した状況の中で、中共中央の指示を一方的に待つわけではなく、地域の状況に応じて柔軟性を持って政策を策定していたと考えられる。

本論は、日中戦争期における陝甘寧辺区、晋西北根拠地、太岳根拠地の労働英雄運動を検討し、それぞれの特徴を明らかにして各地域の相互作用を確認し、中共による労働英雄運動の全体像を捉えようとするものである。

### 1．陝甘寧辺区・晋西北根拠地・太岳根拠地の地理位置

陝甘寧辺区は陝西省北部、甘粛省東部、寧夏省南東部を含み、延属分区、綏徳分区、関中分区、三辺分区、隴東分区に分けられる（図序－1）。1944年の辺区政府民政庁の統計によれば、辺区総人口は1,424,786人、延属分区は374,297人、綏徳分区は521,552人、関

[1]中共中央組織部、中共中央党史研究室、中央檔案館編『中国共産党組織史資料第三巻（上）：抗日戦争時期（1937.7-1945.8）』中央党史出版社、2000年、1－21頁。

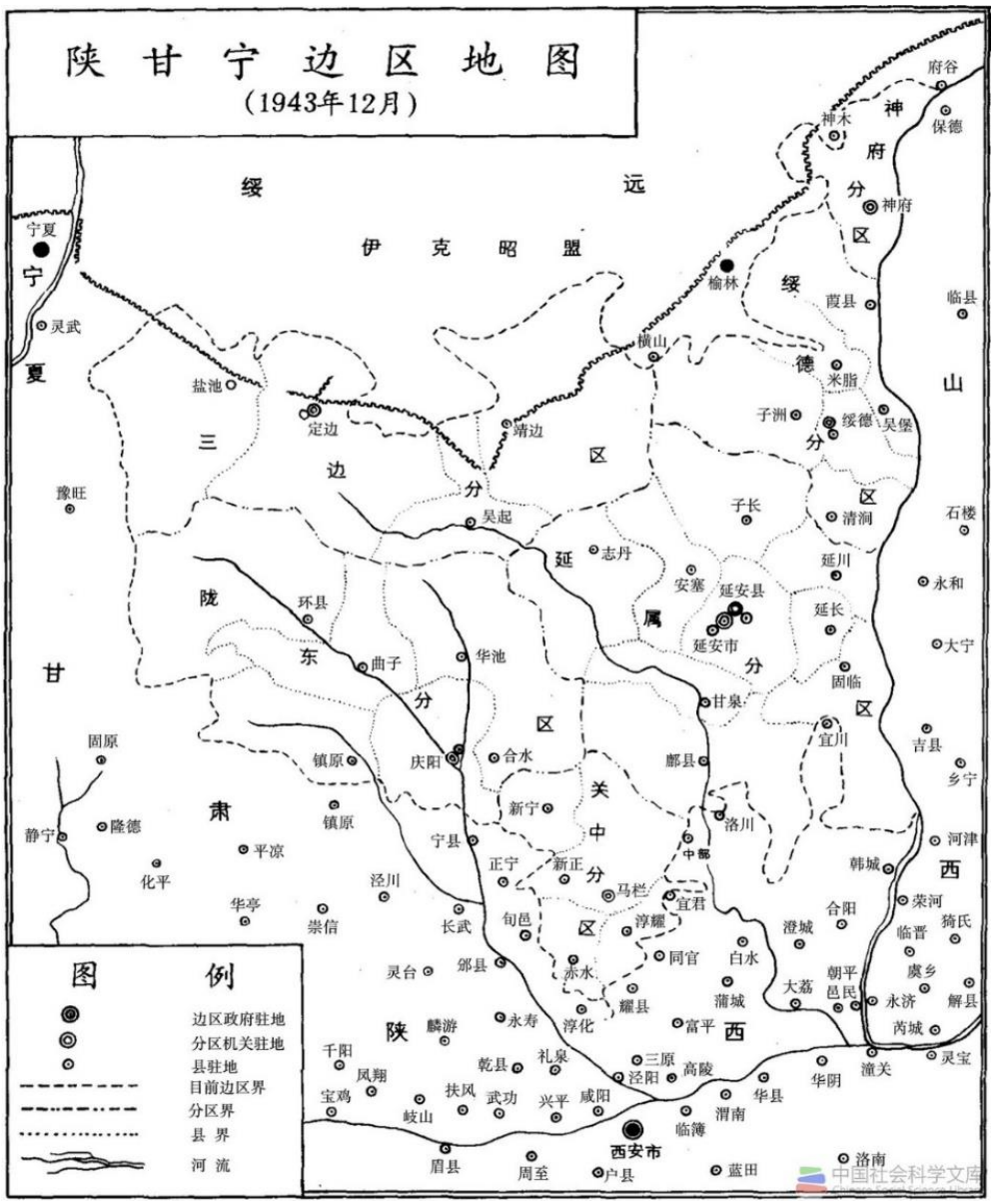
[2]「関於統一抗日根拠地党的領導及調整各組織間関係的決定」（1942年9月1日）中国人民大学中共党史系資料室『中共党史教学参考資料』抗日戦争時期（中）、中国人民大学出版社、1980年、482－490頁。

中分区は 121,200 人、三辺分区は 145,553 人、隴東分区は 262,184 人である。1 平方キロメートルあたりの人口は辺区が 15.2 人、延属分区が 16 人、綏徳分区が 47.4 人、関中分区が 16.5 人、三辺分区が 5.4 人、隴東分区が 10.3 人である[3]。1934 年 10 月、中共は国民政府軍の攻撃を避けて中華ソビエト共和国首都の江西省瑞金を放棄し、各地で転戦しながら、1935 年 10 月に陝西省にたどり着き、11 月に中華ソビエト中央政府駐西北弁事処を樹立した。

日本の華北侵略の深化と国際情勢の変化にともない、国共両党ともに抗日民族統一戦線の結成を模索する動きが始まり、西安事件を契機に国共の敵対関係が解消されて、一致抗日の体制が固まった[4]。1937 年 2 月 10 日、中共は国民党が「一致抗日」を国策として確定することを条件とし、武力暴動で国民政府を転覆させる方針を変更し、ソビエト政府を中華民国特区政府、紅軍を国民革命軍に改称し、南京中央政府と軍事委員会の指導を受けるという政策変更を提起した。それに対し、国民政府は「中国国民党五届三中全会関於根絶赤禍之決議案」を採択し、中共の提起を受け入れた。中共は 5 月 1 日にソビエト政府を陝甘寧特区政府に改め、9 月に陝甘寧辺区政府に改称した[5]。陝甘寧辺区政府は日中戦争と第二次国共内戦を経て行政区画が変動したが、1947 年 3 月の延安陥落まで中共中央の所在地であった[6]。

---

[3]陝甘寧辺区財政経済史編写組編『抗日戦争時期陝甘寧辺区財政経済史料摘編』(1) 総論、1980 年、14－15 頁。
[4]安井三吉「ナショナリズムと抗戦期の地域権力」西村成雄編『現代中国の構造変動』3 ナショナリズム―歴史からの接近、東京大学出版社、2000 年、201－225 頁。
[5]田中仁「路線転換期における中国共産党の根拠地構想」横山英、曽田三郎編『中国の近代化と政治的統合』溪水社、1992 年、57－82 頁。
[6]霍雅琴「陝甘寧辺区政府体制研究」西北大博士論文、2012 年、23－29 頁。



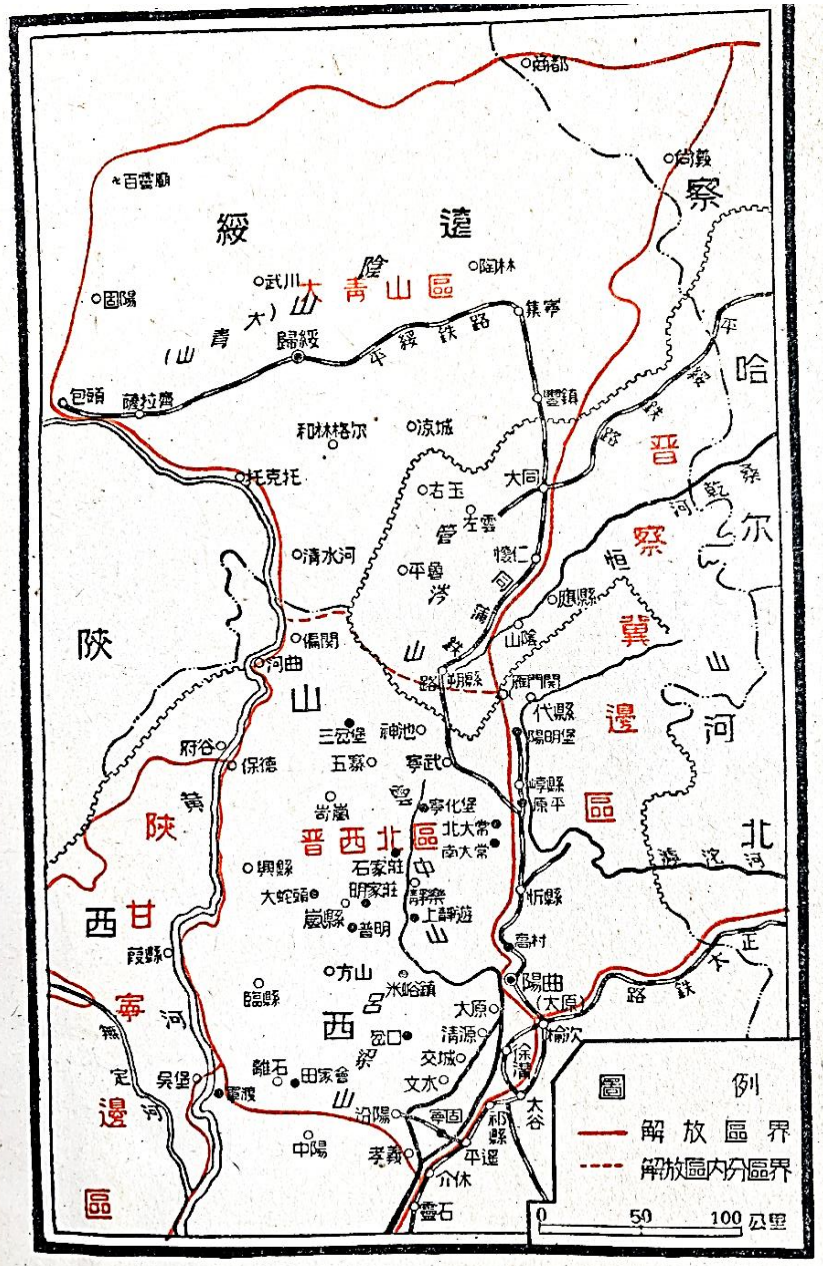

**図序－1：陝甘寧辺区**

出典:霍雅琴『陝甘寧辺区政府体制研究』中国社会科学出版社、2017年。

晋西北根拠地は山西省の北西部に位置し、黄河以東、汾陽以北、同蒲線以西、長城以南の35県の地域である（図序－2)。1940年において全地区35県の人口は約350万人であるが、興県、保徳、臨県など中共の支配下にある地域の人口は100万人余りである[7]。1940年1月15日に中共政権が成立し、「山西省政府第二遊撃区行政公署」と称したが、後に「晋西北行政公署」に改められ、1943年には「晋

[7]晋綏辺区財政経済史編写組、山西省檔案館編『晋綏辺区財政経済史資料選編』総論篇、山西人民出版社、1986年、3頁。

綏辺区行政公署」に変更された[8]。中共政権の行政区画上は晋綏辺区と称するが、実際には綏遠地区に対する中共の支配力が弱く、晋西北での活動が中心となっていたため、検討地域も晋西北に限定する。




抗日战争时期晋綏边区形势图

**図序－2：日中戦争期の晋西北根拠地**

出典：穆欣『晋綏解放区民兵抗日闘争散記』上海人民出版社、1959年。

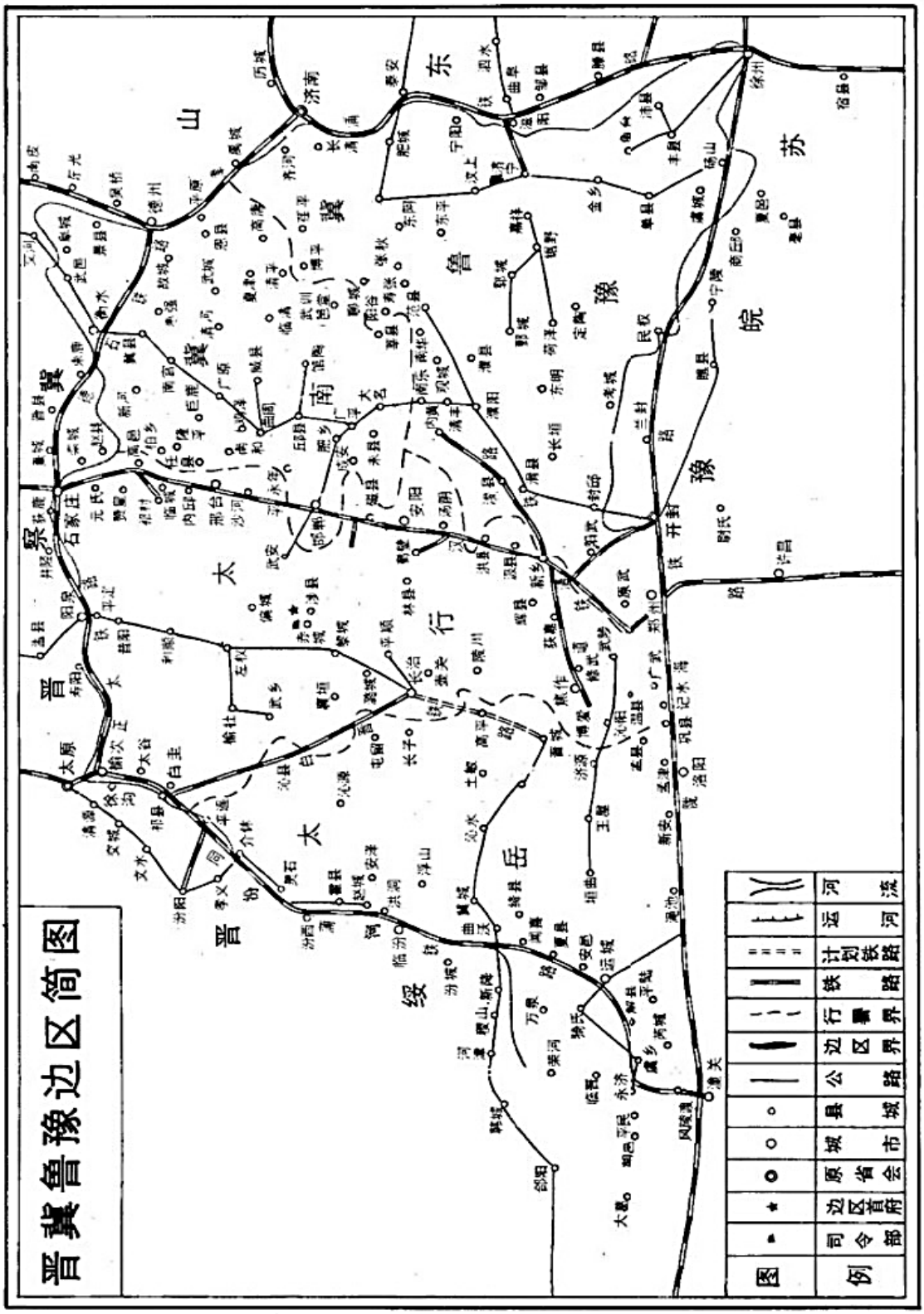
[8]前掲『中国共産党組織史資料第三巻（上）：抗日戦争時期（1937.7-1945.8)』、129頁。

太岳根拠地は山西省の沁源、浮山などの 32 県、河南省の王屋、済源、孟県を含む、同蒲路と汾河以東、白晋路以西、黄河以北の三角地域である（図序－3)。太岳根拠地は四つの専署に分けられ、1946 年時点での人口は約 280 万である[9]。1937 年 10 月、中共中央委員会（以下、中共中央）北方局、八路軍総司令部は中央軍事委員会と毛沢東の指示に基づき、山西省を拠点に遊撃戦争を行うことを華北地域における中共の中心的な任務に定め、129 師団が太行山を基盤として冀豫晋抗日根拠地を樹立し、同時に冀豫晋省委員会（以下、省委）が成立した。この根拠地が後の太岳根拠地と太行根拠地の基礎となるが、太岳根拠地成立の過程は以下の通りである。同年 11 月、太原が陥落すると、冀豫晋省委と 129 師団が晋中、晋東南、冀西、豫北地域へ進駐し、地方武装と党組織の建設に力を注いだ。1938 年 2 月、太岳地域に沁県弁事拠が成立し、武郷県以南の各県を管轄した。同年 7 月、沁県弁事拠を基礎として太岳特別区委員会（以下、特委）が成立し、冀豫晋根拠地の中西部を管轄した。同年 8 月 19 日、中共中央書記拠の通知により、冀豫晋省委は中共晋冀豫区党委に呼称を変えた。1939 年 4 月、各地の特委が地方委員会（以下、地委）に名称を変更し、太岳特委は中共晋冀豫区太岳地委と改名した。

1940 年 1 月、日本軍の攻撃により、晋冀豫区が太岳、太南、晋豫、太北四つの地域に分割され、北方局は上記の四つの地域にそれぞれ区党委を設立し、太北に新たな晋冀豫区党委を建設することを決定し、太岳区委が成立した[10]。同年 5 月には太岳軍区が成立した[11]。次いで 1941 年 9 月に晋冀魯豫辺区第一回臨時参議会が開かれ、晋冀魯豫辺区政府及び太岳行署が成立した。1942 年 5 月の中条戦役で国民政府軍 30 万が敗走し、降伏した者は 2 万人余に上った。中共はその機に乗じて南へ根拠地を拡大した[12]。

---

[9]民主出版社編絵『晋冀魯豫辺区分区詳解地図』華北新華書店、1947 年、17 頁。
[10]前掲『中国共産党組織史資料』第三巻（上）抗日戦争時期（1937.7-1945.8)、559－566 頁。
[11]同上書、593 頁。
[12]前掲『晋冀魯豫辺区分区詳解地図』、18 頁。



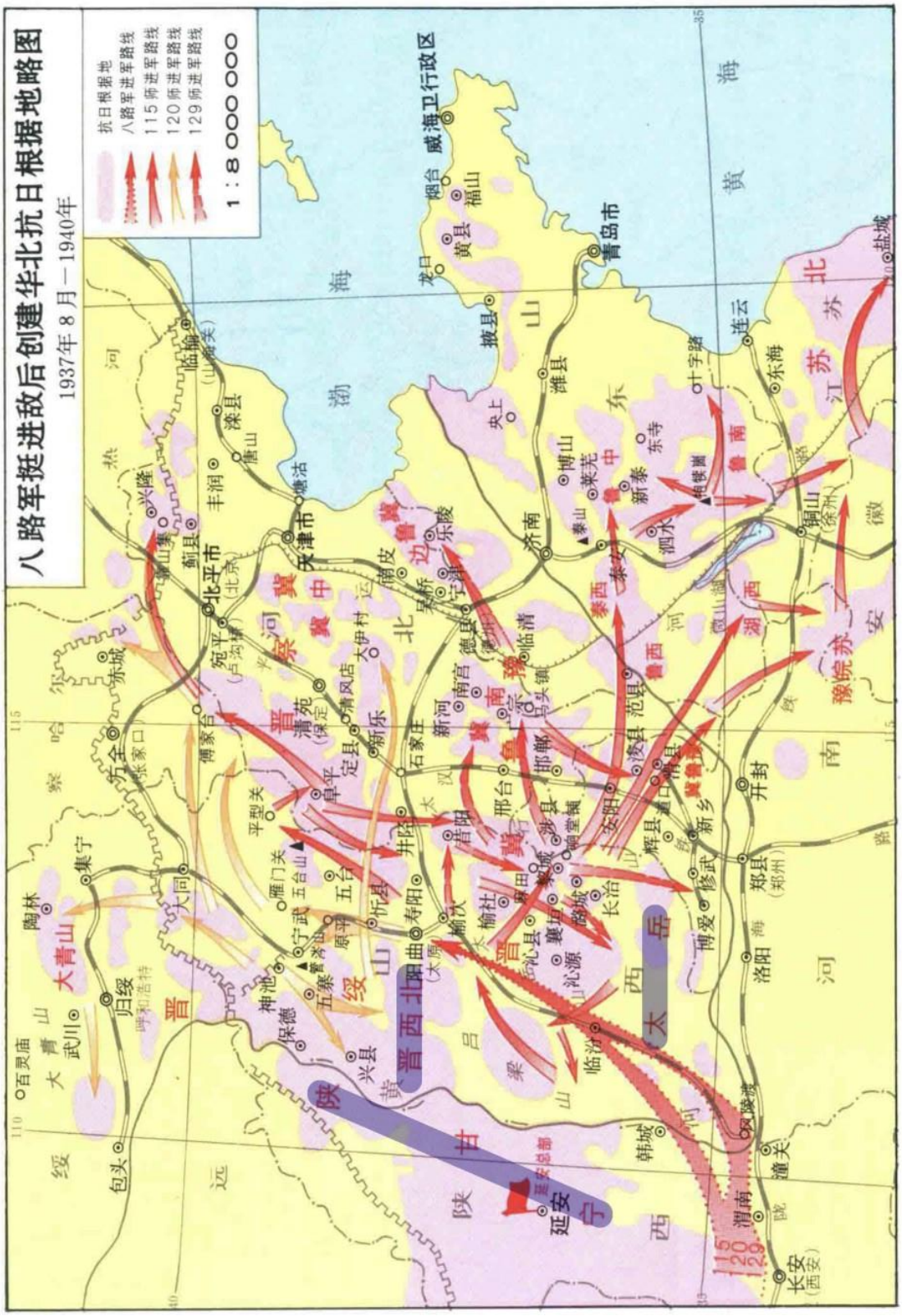

**図序－3：晋冀魯豫辺区地図**

出典：張転芳編『晋冀魯豫辺区貨幣史（上冊）：晋東南革命根拠地貨幣史』中国金融出版社、1996年。

陝甘寧、晋西北、太岳三つの根拠地を選択する理由は以下の通りである。陝甘寧辺区は直接の軍事攻撃を受けておらず、比較的に安定していた地域である。晋西北は黄河を隔てて陝甘寧と隣接し、東に同蒲鉄道があり、特に1940年代に入って日本軍の掃蕩により、面積と人口が減少していた。日中戦争期において、晋西北では、85,810人が殺害され、50,288人が病気で亡くなり、30,071人が日本軍に捕らえられたが、これは総人口の 5.7%を占めた。その他、家畜、食糧、農具などが奪われ、非常に深刻な被害をもたらした[13]。太岳は同蒲線の東、白晋線の西に位置し、日本軍に囲まれ、晋西北より社会状況が不安定だと考えられる（図序－4)。統計によると、太岳では145,248人が亡くなり、92,648人が捕らえられたが、これは総人口の 7.5%を占めた[14]。

後方にある陝甘寧は生産発展を重視する一方で、前線である晋西北、太岳は軍事要員を優先にし、それぞれ優先事項が異なったため、労働英雄運動もそれぞれの特徴があると考えられ、陝甘寧、晋西北、太岳を比較の対象とする。また、本論が各根拠地の比較を主要な分析手法とする理由は、これまでの労働運動の研究が各根拠地の運動の比較や相互作用についての視点を欠いているためであるが、この点については後述する。

[13]中央党史研究室、中央檔案館編『抗日戦争時期中国解放区人口傷亡和財産損失檔案選編』中共党史出版社、2015年、29－37頁。
[14]「太岳区八年来被敵殺傷人口及各種災害統計表」（1946年6月24日）同上書、830－832頁。




**図序－4：華北抗日根拠地**

出典：武月星主編『中国抗日戦争史地図集 1931-1945』中国地図出版社、2015年、81頁の一部を加工。

## 2. 労働英雄運動の先行研究

中共はソ連のスタハノフ運動に倣って 1939 年に労働英雄の制度を設け、「人民生産奨励条例」によって毎年功労の顕著な者を表彰してきた。中共は、このような労働英雄運動を生産運動の中心として 1943 年 1 月から本格的に発動させている[15]。他の根拠地も生産発展のため、1940 年代から労働英雄運動を始めている。

中共根拠地における労働英雄運動に関する研究は既に多く存在し、労働英雄運動の概況、社会改造における役割、労働英雄個人の履歴、労働英雄と基層幹部の関係などが検討されてきた。王彩霞は陝甘寧辺区の労働英雄運動を全面的に考察し、その発展と選抜のメカニズムを紹介する。王は『解放日報』をはじめとするマスコミを中心に、労働英雄運動の宣伝方法とその効果をまとめた上で、労働英雄運動の影響を分析し、その問題点と政府の対応にも言及している[16]。王智、賈莉は晋西北根拠地の労働英雄運動の背景、展開と労働英雄自体を紹介し、代表的な温象栓、張初元、張秋林などの履歴を分析している。また、労働英雄運動の意義と現代の社会に対する啓発的な意味について指摘する[17]。太岳の労働英雄運動を検討する研究は少ないが、韓暁莉は山西根拠地の労働英雄運動を検討する際に、太岳の労働英雄葛河堂と石振明を言及し、彼らが互助組を組織して組対組の労働競争を展開したことを紹介した。また、労働英雄は生産を推進したのみならず、彼らが村のリーダーになって怠け者を教育して生産の参加を促したり、義倉を設けて飢饉に備えたり、迷信を排除したりし、農民社会改造における役割が指摘された。農民出身の英雄たちは容易に民衆の支持を得、政策を順調に実施する保障となった[18]。

また、労働英雄個人の履歴の分析を通し、中共が如何に農村社会を支配できたのかについて、研究が行われてきた。張基輝は晋綏辺区特等労働英雄張初元の履歴から彼の上昇プロセスを分析した。張初元は中共の支持によって炭鉱労働者から基層幹部、特等労働英雄

---

[15]「開展呉満有運動」『解放日報』1943 年 1 月 11 日、第 1 版。
[16]王彩霞『抗日戦争時期陝甘寧辺区労模運動研究』中国社会科学出版社、2014 年。
[17]王智「晋西北抗日根拠地労働英模群体研究」山西大学修士論文、2011 年、賈莉「抗戦時期晋綏労働英雄研究」延安大学修士論文、2017 年。
[18]韓暁莉「抗戦時期山西根拠地労働英雄運動研究」『抗日戦争研究』2012 年第 3 期。

に成長し、地方エリートによって形成された農村秩序を破壊し、伝統的な農村エリートを代替して村の利益を守る一方で、中共政策の支持者と実施者となった、とされる[19]。王建華は呉満有などの農業労働英雄を例として、英雄の選抜と育成のプロセスを考察し、政治儀礼の演出を通じて、中共が目指す理想的な人格が提示されたと指摘する[20]。また、基層幹部の予備軍の視角から、労働英雄を検討する研究がある。佐藤宏は抗日民族統一戦線期中共の経済政策の基本路線の表現、経済建設への大衆動員政策、農村基礎幹部養成の三つの視角から労働英雄運動を分析し、特に基層幹部の養成と労働英雄の関係を論じる[21]。内田知行の研究も労働英雄に言及している。彼は陝甘寧において、富農経済政策が農業生産互助運動を促したことを指摘する。ここで言う「富農」とは共産党政権の下で豊かになった富農であり、中共は彼らを「新型富農」と呼んでいた。内田はこのような富農経済政策を「新富農路線」と定義し、その定着を論じる際に、陝甘寧辺区における労働英雄運動も新富農路線であったと主張する。また、内田は土地革命の徹底度を基準に、陝甘寧の農村を先進農村と後進農村に分け、土地革命の徹底度が低く、「新型富農」の形成の遅れた後進農村の互助運動が 50 年代の農業集団化の源流となったと指摘している[22]。この他、女性労働の視角から、太岳の労働英雄運動が議論されている。高正暁は 1939 年から太岳の女性が家を出て農作業をするようになり、多くの女性英雄が出現し、特に出征兵士の多い村では女性が農作業の主力となったと指摘した[23]。

中共はソ連のスタハノフ運動に倣って 1939 年に労働英雄の制度を設けたため、中国の労働英雄運動を検討する際に、スタハノフ運動に遡ることが必要だと考えられる。スタハノフ運動については、多くの研究が同運動をスターリン体制の形成の一環であると位置づけ、工業化を推進した一方、原材料や燃料の提供が労働者の生産速

---

[19]張基輝「中共重塑下的晋西北郷村―「張初元模式」与郷村権威 1940-1945」山西大学修士論文、2007 年。
[20]王建華「革命的理想人格：延安時期労働英雄的生産邏輯」『南京大学学報：哲学、人文科学、社会科学』2016 年第 5 期。
[21]佐藤宏「陝甘寧辺区の農村労働英雄と基層指導部―延安期の大衆路線」『中国研究月報』第 432 号、1984 年。
[22]内田知行『抗日戦争と民衆運動』、第一章、創土社、2002 年。
[23]高正暁「太岳革命根拠地婦女生産労働研究」山西師範大学修士論文、2014 年。

度に追いつけず、生産に支障をきたしたと指摘している[24]。スタハノフ運動のインセンティブについて、多くの欧米学者は出来高払い賃金制度などの物質奨励に焦点をあて、李燕、何宛昱は精神的奨励を無視することはできず、長い目で見れば精神的奨励（社会名誉、社会主義への憧れなど）の役割の方がはるかに大きいと主張した[25]。スタハノフ運動と中国の関係も検討されてきた。高海波はスタハノフ運動がいかに中国に伝えられたのかを分析し、1940 年代の延安の大生産運動は中国式のスタハノフ運動であると指摘した[26]。余敏玲はスタハノフ運動および日中戦争期の労働英雄顕彰と比べて、中華人民共和国の労働模範顕彰は政治態度をより強調し、物質的な奨励でなく精神的な奨励を中心とするという差異があると指摘した[27]。

陝甘寧の工業部門でも模範労働者[28]が出現し、趙占魁運動が展開されていた。趙占魁運動の背景、過程、辺区の工業生産の推進における役割については、既に一定の研究蓄積がある[29]。游正林は趙占魁運動をめぐり、「革命的労働倫理」の構築について叙述した。それによると、1940 年から 1945 年にかけて、公営工場の労働者の熱意を高め、工場内の良好な秩序を維持するため、中共中央は一連の改革を実施し、労働者の労働態度を正し、工場内の党、行政、工会の相互作用を明確にし、新しい労働倫理が徐々に構築された。この新しい労働倫理は労働者の労働を中共の革命活動に結びつけ、労働者が革命のために働いていることを強調する。游は、趙占魁運動に焦点を当て、この「革命的労働倫理」がどのように構築され、出現し

---

[24]木村雅則「スターリン体制の制度的配置と再生産メカニズム：1930 年代国営工業を中心に」『比較経済研究』第 47 巻第 1 号、2010 年、1－14 頁、田雨「斯達漢諾夫運動：基於政治動員視角的分析」華東師範大学修士論文、2016 年。

[25]李燕、何宛昱「経済学不能完整地解釈歴史―対斯達漢諾夫運動起因的思考」『史学理論研究』2012 年第 2 期、李燕、王立強「社会主義価値観与斯達漢諾夫運動之辨」『檔案与争鳴』2009 年第 5 期。

[26]高海波「斯達漢諾夫運動与典型報道」『国際新聞界』2011 年 11 月。

[27]余敏玲『形塑「新人」：中共宣伝与蘇聯経験』中央研究院近代史研究所、2015 年、261－306 頁。

[28]工業と農業における生産成果の優れた者を奨励する運動を労働英雄運動と称するが、農業では「労働英雄」と称するのに対して、工業では主に「模範工人」の呼称が使用され、まれに「英雄」という呼称が使用されている。そのため、本論では基本的に「模範工人」の訳語として「模範労働者」という語を使用し、史料において「英雄」という呼称が使用される場合は、それに従うことにする。

[29]艾亮「陝甘寧辺区趙占魁運動研究」延安大学修士論文、2011 年、張静「陝甘寧辺区趙占魁運動述論」湘潭大学修士論文、2007 年。

たかを体系的に解明し、さらにその実践的な役割と共和国時期の継続と進化を分析した[30]。このような肯定的な評価に対して、周海燕はジャーナリズムの理論を用いて模範事例の報道とその他の関連資料の解釈を行い、趙占魁運動が労働者を少数の「破壊分子」(正当な権利と利益のためにストライキをした労働者)と大多数の「よい人」に区分し、「破壊分子」を厳しく処罰することによって、労働規律を強化して労働者の思想を改造することに成功したと指摘した。また、忠誠心、自己犠牲、苦労する時は一番先に立ち、楽しむ時は一番最後に回るという人格をもつ模範的労働者像が構築されたと解釈した[31]。

以上の先行研究から見ると、労働英雄運動の展開、英雄の社会改造における役割などが議論された。毛沢東の権力の最終的確立とその指導力を中心とした根拠地史の叙述と関わり、労働英雄運動が陝甘寧から始まり、他の根拠地はその影響のもとに労働英雄運動を展開したという前提で研究がなされた。各根拠地における労働英雄運動を比較した研究はほとんどない。本論では、比較を通じて労働英雄運動の全体像をさらに明確にしたい。中共の革命根拠地に関する研究は、各根拠地の特徴に応じた多様な革命の状況を究明してきたが、高橋伸夫が指摘するように、そのような地域の多様性が明らかになるほど、中共による革命の全体像を単一の物語として描くことが困難になっていった[32]。中共の政権は多様な地域を一つの権力によってまとめる形で成立しており、その実態を理解するためには、多様な地域の相互作用に注目する必要があると考える。また、後方と前線の根拠地の労働英雄運動の特徴を理解することで、労働英雄運動その他の模範顕彰運動の全体像が明らかになり、これら全体像を把握することで中華人民共和国に継承される英雄模範顕彰運動[33]の特徴を理解することにも役立つであろう。

---

[30]游正林「革命的労働倫理的興起：以陝甘寧辺区“趙占魁運動”為中心的考察」『社会』37（5)、2017年、105－138頁。
[31]周海燕「“趙占魁運動”：新聞生産中工人模範的社会記憶重構」『新聞記者』2012年1月。
[32]高橋伸夫『党と農民 中国革命の再検討』、補論一、研文出版、2006年。
[33]中華人民共和国成立後、「労働英雄」の呼称は「労働模範」に変更された。1950年9月25日に北京で全国戦闘英雄代表会議及び全国工農兵労働模範代表会議が開かれ、戦闘英雄、労働模範が顕彰された。

## ３．　論文の構成

論文の構成は以下の通りである。

第１章では、労働英雄運動の流れ、英雄の選抜方法、特等労働英雄の特徴、労働英雄運動の主題、民俗利用との結合の視角から、後方の陝甘寧と前線の晋西北の労働英雄運動を比較し、それぞれの特徴を明確にする。

第２章では、晋西北より不安定であった太岳根拠地の群衆英雄運動を検討する。群衆英雄運動と称したのは、太岳が晋西北と陝甘寧と異なり、労働英雄以外に、殺敵英雄をも表彰したからである。太岳の群衆英雄運動を 1940 年から 1943 年、1944 年以降の二段階に分け、それぞれの特徴を陝甘寧、晋西北との比較を意識して分析し、また太岳の女性労働英雄にも言及する。

第３章では、中共の労働英雄運動の模範となったソ連のスタハノフ運動と延安の労働英雄運動を比較し、運動の背景、過程、動員手法、影響の視角からその差異を明確にする。また、前線根拠地と陝甘寧辺区の軍需産業部門の模範労働者の特徴を分析し、その差異を明らかにする。以上の比較を通じ、各根拠地の労働英雄運動の特徴とその相互作用を明らかにし、労働英雄運動の全体像を捉え、また、共和国の模範顕彰運動との継承関係も明らかにする。

労働英雄運動は陝甘寧から始まったと考えられてきたが、全区規模の労働英雄大会の開催、基層から英雄の序列化、民衆による英雄の選抜、民俗との結合は晋西北が先行して行われ、隣接の陝甘寧に影響を与えた可能性も否定できない。また日本軍の軍事攻撃に直面し、陝甘寧の互助の経験を受け入れて「労働力と武力の結合」という生産と根拠地の防衛を結合する英雄のモデルが創造され、張初元は晋西北の呉満有と評価された。晋西北より不安定な状況にあった太岳では更に軍事闘争を重視し、1941 年初めに民兵の薬炎明が殺敵英雄として表彰され、全区で薬炎明式の英雄の育成が呼びかけられた。また、太岳では女性や児童の英雄顕彰も盛んにおこなわれ、全民抗戦の方針が明示された。1943 年になると、陝甘寧の経験が伝えられ、太岳でも互助が英雄表彰の中心となった。この他、太岳では抗属（出征兵士の家族）、栄誉軍人（傷痍軍人）といった弱者の模範、革命の模範が表彰され、共和国の模範顕彰運動に継承されたと考え

られる。また、共和国において全面的に展開する女性の農業労働への組織化も、日中戦争期の戦時動員の経験を基礎として定着していったと考えられる。以上から、従来の延安を中心とした中共根拠地の歴史叙述を見直すことの必要性が理解できる。

また、延安の工業部門で展開した趙占魁運動は、ソ連のスタハノフ運動と比べて、物質奨励より模範労働者の公正無私の態度、中共に対する忠誠心などの道徳が宣伝されており、共和国の労働模範顕彰にその特徴が継承されていった[34]。その特徴は、先行研究が指摘するよりも早く、すでに趙占魁運動において出現しており、この問題はソ連の経験との比較によって、より明確にすることのできるのである。この他、軍事情勢の厳しい前線の各根拠地では、趙占魁運動に比べて技術革新により重点を置く工業労働者の模範顕彰が展開したと考えられる。

[34]前掲余敏玲書、305－306頁。

## 第 1 章　晋西北抗日根拠地における労働英雄運動—陝甘寧辺区との比較を中心に—

本章では、労働英雄運動の流れ、英雄の選抜方法、特等労働英雄の特徴、労働英雄運動の主題、民俗利用との結合の視角から、後方の陝甘寧と前線の晋西北の労働英雄運動を比較し、それぞれの特徴を明確にする。

### 1．　労働英雄運動の展開

#### 1．1　陝甘寧辺区の労働英雄運動

##### 1．1．1　萌芽時期

生産動員のため、陝甘寧辺区では他の根拠地に先駆けて、1938 年から 1940 年の間に様々な条例を出し、展覧会を主要な形式として功労の顕著な者を奨励する活動が始まった。1938 年 1 月 1 日から 3 日まで延安工人製造品競賽展覧会が開かれ、先進工場と 200 名ほどの個人英雄が表彰されている。1938 年の春耕期には農民労働英雄が創出された。1939 年 1 月 14 日には、辺区農産競賽展覧会（第一回農展会）が延安南関で開かれた。展覧会は辺区概況、農作物、果物、牧畜、薬種、狩猟と林業の六つの展覧室に分かれ、2,000 件の展示物が展示された。展覧会は半月続き、2,000 人余りの農民が受賞し、四等以上の英雄は 1,500 人以上であった。同年 2 月に延安で生産動員大会が開かれ、毛沢東が生産の発展を呼びかけた。その呼びかけに応え、辺区政府は 4 月に「人民生産奨励条例」、「督導民衆生産運動奨励条例」、「機関、部隊、学校人員生産運動奨励条例」を発表し、功労の顕著な団体と個人を表彰した。5 月に辺区第一回工業展覧会が魯迅芸術学院大礼堂で開催され、千種類ほどの工業品が展示され、団体と 50 人余りの英雄が受賞した。1940 年 1 月 16 日には、辺区第二回農工展覧会が延安新市場で 18 日間開かれ、3,000 人ほどの労働英雄が受賞した。2 月 18 日には延安各機関が生産大会を開き、労働英雄甲等 104 人、乙等 252 人、丙等 260 人を表彰している[1]。

1939 年には 1,811 名の労働英雄が創出されているが、当時の文献

[1]王彩霞『抗日戦争時期陝甘寧辺区労模運動研究』中国社会科学出版社、2014 年、28－30 頁。

では、これらは全辺区人口の約 3.3%を占めるとされる[2]。その割合で計算すると、「辺区」人口は 54,879 人となるが、1941 年の辺区の人口は 1,342,166 人である[3]。一方、1941 年延安市の人口は 5,092 人、延安県は 28,301 人、富県は 31,781 人、甘泉県は 11,511 人、固林県は 17,303 人であるから[4]、数字から見れば、1939 年労働英雄の表彰はおそらく延安周辺に限られたものと考えられる。

以上のことから見ると、1938 年から 40 年代初めまで労働英雄の表彰は生産成績という単一の基準によるものであり、その後に見られるような道徳的な要素を入れていないと考えられる。そして、この時期の労働英雄表彰は表彰に止まり、英雄の模範的な役割に注目していないため、大衆運動になっていないと考えられる。

### １．１．２　代表的な英雄の創設

1940 年代になると、国民政府は辺区への援助を中止し、辺区の経済状況がさらに厳しくなった。経済困難を乗り越えるため、辺区政府は大生産運動と精兵簡政を提起した。その政策により、辺区政府はスタハノフのような典型的な積極分子を探し始め[5]、労働英雄運動は第二段階に入った。まずは農民労働英雄を創出する。その典型は呉満有である。呉満有は延安県柳林区二郷の呉家棗園出身で、「模範公民」として英雄に選ばれ、大いに宣伝された。1942 年 4 月 30 日、『解放日報』に初めて呉満有の報道が現れ、「辺区農民向呉満有看斉」という社論も同時に発表された[6]。趙占魁は工人労働英雄に選ばれ、1942 年 9 月 7 日に『解放日報』に「人人都在談説着趙占魁」、9 月 11 日に「向模範工人趙占魁学習」の社論が掲載された[7]。

この段階においては、農民英雄呉満有、工人英雄趙占魁の二人の典型が創設され、そして、彼らの生産成績だけでなく、「道徳模範」という面が重視されている。呉満有は公糧を多く納め、家族が入隊しており、村人の経済発展を熱心に助ける模範公民であると評価さ

---

[2]陝甘寧辺区建設庁農牧「1939 年農業生産総結報告」陝甘寧辺区財政経済史編写組編『抗日戦争時期陝甘寧辺区財政経済史料選編』第二篇農業、陝西人民出版社、1981 年、63 頁。
[3]朱楚珠編『中国人口』陝西分冊、中国財政経済出版社、1988 年、71 頁。
[4]「辺区各県区画人口統計表」（1941 年 2 月 20 日）陝西省地方志編纂委員会主編、曹占泉編『陝西省志』人口志、三秦出版社、1986 年、111 頁。
[5]前掲王彩霞書、30 頁。
[6]「辺区農民向呉満有看斉」『解放日報』1942 年 4 月 30 日、第 1 版。
[7]「人人都在談説着趙占魁」『解放日報』1942 年 9 月 7 日、第 2 版、「向模範工人趙占魁学習」『解放日報』1942 年 9 月 11 日、第 1 版。

れている[8]。一方、趙占魁は一貫性があり、前向きで責任感があり、正直で勤勉、一生懸命で自己犠牲的な人と評価されている[9]。

### 1．1．3 労働英雄運動の高潮

1942 年 10 月、辺区総工会は趙占魁に学ぶ運動をすべての工場で展開しようと呼びかけた[10]。その呼びかけに応え、振華製紙廠が生産競争を 10 月 19 日から 21 日まで展開した[11]。新華廠の工場長は工場成立三周年の記念会において趙占魁運動の成果をまとめた[12]。以上の内容から見ると、1942 年の後半から趙占魁運動が広く展開されていた。農業では、呉満有運動が 1943 年春耕の前から展開され、個人対個人、村対村の生産競争も始まった[13]。

労働英雄大会の開催は労働英雄運動の最高潮である。1943 年 11 月 26 日から 12 月 16 日まで延安で第一回辺区労働英雄大会が開かれ、185 人の英雄が表彰された。大会において、生産建設の経験をまとめ、毛沢東が「組織起来」という報告を行っている[14]。それ以降、労働英雄運動はもう一歩を進め、英雄の選抜も基層から行われるようになる。1944 年 12 月 21 日から 1945 年 1 月 14 日まで第二回辺区労働英雄と模範工作者大会が開催され、463 人の英雄と模範が選ばれた。毛沢東の報告「両三年内完全学会経済工作」においては、労働英雄と模範工作者の指導者的、骨幹的、橋渡し的役割が指摘されている[15]。

## 1．2 晋西北根拠地の労働英雄運動

### 1．2．1 背景

日中戦争が勃発した後、日本軍は根拠地に対して数回の掃蕩を行い、特に 1940 年に春、夏、冬の三つの大規模な掃蕩を実施し、殲滅作戦が行われた。1941 年にさらに 17 回の部分的な掃蕩が行われた。統計によると、1942 年までに根拠地は 1940 年前半と比べて三分の

---

[8]「呉満有―模範公民」『解放日報』1942 年 5 月 6 日、第 1 版。
[9]「向模範工人趙占魁学習」『解放日報』1942 年 9 月 11 日、第 1 版。
[10]「総工会号召開展趙占魁運動」『解放日報』1942 年 10 月 12 日、第 2 版。
[11]「響応趙占魁運動！振華紙厂発起競賽」『解放日報』1942 年 10 月 23 日、第 2 版。
[12]「新華厂成立三周年　生産提高八十四倍　趙占魁運動獲初歩成績」『解放日報』1942 年 11 月 23 日、第 2 版。
[13]「開展呉満有運動」『解放日報』1943 年 1 月 11 日、第 1 版。
[14]陝甘寧辺区財政経済史編写組編『抗日戦争時期陝甘寧辺区財政経済史料摘編』(1) 総論、1980 年、221－223 頁。
[15]「両三年内完全学会経済工作」(1945 年 1 月 10 日) 王冰編『生産文献』山東新華書店、1946 年、17 頁。

一に縮小し、人口は 330 万人から 100 万人に、耕地面積は戦前の 84%に、労働力は三分の一に、穀物生産は三分の一に、それぞれ減少したとされる[16]。1941 年 3 月 4 日から 12 日まで、晋西北行署は金融経済会議を開催した。日本軍の掃蕩、経済封鎖が根拠地に大きな困難をもたらしたことについて、会議は困難を乗り越えるため、農業を中心に生産事業を広く展開していくことを決定した。その後、各地で春耕運動が展開され、部隊も積極的に開墾と生産に参加するようになった[17]。

### 1．2．2 四回の労働英雄大会

1941 年の春耕時期、山西省の各根拠地政府は労働競争を展開し、労働英雄を創出しようと呼びかけた。同年 4 月、晋西北行署と抗日救国聯合会は「300 人の労働英雄を創出するために頑張ろう」というスローガンを提起し、婦女抗日救国聯合会も 40 人の女性労働英雄を生み出すことを宣言した。記事では、労働英雄の奨励方法と選抜方法が言及された。農民労働英雄の条件は以下の通りである。①3 垧(1 垧は陝甘寧、晋西北地区では 3 畝)の荒地を開墾し、季節に応じて種をまく。②河川敷 2 垧以上を整え、季節に応じて種をまく。③同じ生産条件で、1 垧当たりの生産量は平均の 1.25 倍に達する。④精耕細作をきちんと行う。⑤新しい耕作方法を発明し、あるいは農具を改良し、労力を節約する。⑥水利を整備して 5 畝以上の旱地を水地に変え、季節に応じて種をまく。⑦普通の木を 20 本以上、果樹を 5 本以上植え、10 本の中に 8 本を確実に生存させる。⑧家畜を飼育する。⑨自らの生産に積極的であり、かつ他人の生産を推進できる[18]。

晋西北根拠地は山西省の各根拠地の中で一番早く労働英雄大会を開催した地域である。1942 年 1 月 13 日から 16 日まで、晋西北労働英雄検閲及び生産建設展覧会が興県で開かれ、100 人余りの英雄が選ばれた。大会に出席する英雄らの襟には労働英雄栄誉証がつけられ、興県の各商店も提灯をつるし、色絹を飾りつけて英雄を歓迎し

---

[16]郭維明『晋綏革命根拠地政権建設』山西古籍出版社、1998 年、35－36 頁。

[17]中共山西省委党史研究室、中共内蒙古自治区委党史資料徴研委弁公室、晋綏革命根拠地史料徴編指導組弁公室『晋綏革命根拠地大事記』山西人民出版社、1989 年、157 頁。

[18]「行署抗聯指示各級為創造三百労働英雄而奮闘」「創造四十名女労働英雄婦聯指示各級弁法」『抗戦日報』1941 年 5 月 14 日、第 3 版。

た。行署主任の続范亭と行署副主任の牛蔭冠は労働英雄を高く評価した[19]。

1942 年 12 月、辺区は第二回労働英雄大会の準備に着手する。12 月初め、各県は辺区大会へ出席する英雄を選抜して歓送した。興県は 12 月 10 日に英雄歓送大会を開き、英雄らが街を一周した[20]。12 月 12 日に辺区第二回労働英雄検閲大会が開催され、10 県 51 人の英雄が出席した。興県の商店はセールを実施し、民衆は新しい服を着て大会に集い、町中は非常に賑やかであったという[21]。また、第一回大会賞品の予算が 13,140 元であったのに対して、第二回大会においては行署が 5 万元を支給して賞品を購入しており、奨励品はより手厚かったと思われる[22]。大会の閉幕後、『抗戦日報』にコラムが設けられ、特等労働英雄王思良、張秋鳳、宋侯女について紹介された。第二回までの労働英雄大会に出席した英雄は興県、臨県、保徳の代表が多数を占め、春耕、村選挙、秋収、減租減息運動と結合して選ばれていた。しかし、他の県においては、英雄が政府から指名されて連れてこられたこともある[23]。

1943 年 3 月に行署は同年の労働英雄の条件を発表し、11 月に第三回の労働英雄大会を開くことを決定した。その規定によると、春耕時期に労働英雄の条件と奨励方法を広く宣伝し、各自然村で生産競争を展開することとなっていた[24]。春耕以来、労働競争は広範に開始され、労働英雄王思良、温象栓などが挑戦を受ける対象となった。生産競争を通じ、多くの労働英雄が生まれ、「労働英雄をはじめとする模範村を作ろう」というスローガンが提起され、労働英雄運動はさらに新たな進展を見せた。第三回労働英雄大会は 1944 年 1 月 7 日から 15 日まで開催され、約 130 人の英雄が出席し、毛沢東の呼

---

[19]「晋西北生産展覧会開幕　労働英雄検閲同時挙行」『抗戦日報』1942 年 1 月 17 日、第 3 版。
[20]「各地歓送労働英雄　興県慶祝労英大会」『抗戦日報』1942 年 12 月 17 日、第 2 版。
[21]「労働英雄大会開幕」『抗戦日報』1942 年 12 月 19 日、第 1 版。
[22]「行署、抗聯共同規定模範労働英雄産生奨励方法」『抗戦日報』1941 年 7 月 31 日、第 3 版、「生産展覧会定期召開」『抗戦日報』1941 年 12 月 5 日、第 2 版。
[23]「農業生産調査 1940 年―1942 年」(1943 年) 晋綏辺区財政経済史編写組、山西省檔案館編『晋綏辺区財政経済史資料選編』農業篇、山西人民出版社、1986 年、698 頁。
[24]「行署頒布労働英雄条件　号召開展生産競賽」『抗戦日報』1943 年 3 月 20 日、第 1 版。

びかけ―「組織起来」をめぐり議論を展開した[25]。張初元が特等労働英雄に選ばれ、彼の「労武結合」は高く評価された。「労武結合」とは変工組という農業の互助組織と民兵組織を合体させ、民兵が戦闘で耕作する時間がない場合に皆が民兵の土地を耕作するという体制である。民兵は暇な時に農作業に参加する。前二回の大会と比べると、第三回大会の期間と規模が大きく、宣伝にも力が注がれている。

1944 年 10 月初め、群英大会と改称された第四回の大会[26]の準備が始まった。群英大会は 12 月 7 日から 31 日まで開催され、751 人の英雄が出席し、規模がより大きい。大会において、1945 年の任務―抗戦、生産建設、軍事訓練が明確にされ、「労武結合」がさらに強調された[27]。

以上のことから見ると、陝甘寧辺区は他の根拠地に先駆けて労働英雄の表彰を始めるが、実質的な全辺区規模での開催を目指し、「辺区労働英雄大会」の名前を冠して労働英雄大会を開催するのは晋西北根拠地が先である。また、1942 年になると、英雄の選抜は春耕、村選挙、秋収、減租減息運動などの大衆動員と結合して行われている。先行研究は、延安を中心とした生産運動に他の根拠地が呼応することを前提として議論を進めているが[28]、晋西北の事例からわかるように、生産運動や労働英雄運動に関する様々な取り組みのすべて延安から始まるわけではないと考えられる。また、1943 年 11 月から 12 月までの陝甘寧辺区第一回辺区労働英雄大会には晋西北の労働英雄と模範生産工作者 119 名が延安に招待されており[29]、陝甘寧と晋西北の労働英雄らは交流があり、互いに影響を与えた可能性が十分に考えられる。

---

[25]「晋綏辺区第三次労働英雄大会隆重開幕　群衆歓騰鼓舞各界熱烈祝賀」『抗戦日報』1944 年 1 月 11 日、第 1 版。

[26]第三回までの労働英雄大会の呼称を「群英大会」に変更した。韓暁莉は、1944 年以降「群英大会」が使われるようになったのは「群英大会」のほうが民衆の感覚を反映できるからだと指摘している（韓暁莉「抗戦時期山西根拠地労働英雄運動研究」『抗日戦争研究』2012 年第 3 期、6 頁）。

[27]「群英大会中心意志：使労武結合更進一歩」『抗戦日報』1944 年 12 月 8 日、第 2 版、「晋綏辺区労働人民栄典　群英大会隆重掲幕」『抗戦日報』1944 年 12 月 10 日、第 1 版。

[28]小林弘二『二〇世紀の農民革命と共産主義運動―中国における農業集団化政策の生成と瓦解』勁草書房、1997 年、37－89 頁。

[29]今堀誠二『中国の民衆と権力』勁草書房、1973 年、236 頁。

## ２． 英雄の選抜

### ２．１ 陝甘寧辺区

労働英雄運動の展開は中共にとって初めてのことであり、1942 年の段階においても英雄の選定方法や範囲などは、手探りの段階であった。そのため、幹部はこの段階においても、奨励が生産を刺激するためのものであると考え、生産量を基準にして英雄が探し出された。民衆も英雄に選ばれる意味を理解するどころか、誤解まで引き起こしていた。例えば、1943 年春に政府が労働英雄張振財に牛一頭を賞品として与えたが、民衆が「張振財はお気の毒で、政府が牛を賞品として与えたのは彼から牛 2 頭をもらうためだ」という議論があった[30]。その時期において、英雄は上から選ばれ、割り当てられたこともある。呉満有も上から選ばれた英雄の一人である。

> 模範的な、みんなに認められる農村労働英雄を探すのは簡単なことではない。(中略)ついに見つかった。延安県各区の区長会議において、柳林区の区長は呉満有を紹介してくれた。彼によると、呉満有は農作業に頑張って、公糧も積極的に納めて、出征兵士の家族でもあり、模範的な農村労働英雄といえる。それで延安県政府から 30 キロメートル離れた柳林区第二郷呉家棗園に行って呉満有を訪ねた[31]。

1943 年 10 月 14 日の『解放日報』において、労働英雄の選抜条件と方法が発表された。規定では、労働英雄は選挙によって選ばれることになっていた[32]。しかし、実は分配される数によって英雄を探すことが多く、指名して連れてこられたこともある[33]。1943 年 11 月 26 日からの辺区第一回労働英雄大会以降、労働英雄運動が新たな段階に入り、民衆は既に労働英雄の栄誉を感じ取るようになり、労働

---

[30]前掲王彩霞書、61 頁。
[31]莫艾「模範英雄呉満有是怎様発現的」『解放日報』1942 年 4 月 30 日、第 2 版。
[32]「労働英雄与模範生産工作者及其代表選挙弁法」『解放日報』1943 年 10 月 14 日、第 1 版。
[33]王建華「革命的理想人格：延安時期労働英雄的生産邏輯」『南京大学学報：哲学、人文科学、社会科学』2016 年第 5 期。引用元：『関於労働英雄的幾個問題』陝西省檔案館、檔案号；6-1-242。

英雄も第二回大会以降、選挙により選ばれるようになった[34]。以前英雄に選ばれるのを嫌った人は、1944年になってから出馬するようになった。王建華の研究によれば、新正県において、父親が息子のために票集めをしたり、民衆が候補者を批判したり、偽の英雄を摘発したりすることが見られ、選挙を通じて、辺区第一回労働英雄大会に出席した英雄の41.4%が落選した。その内、安塞県は48%、固林は79%の英雄が不合格であった[35]。

### 2.2 晋西北根拠地

晋西北根拠地においては、1941年7月に既に労働英雄の選抜方法が定められ、1942年1月13日には第一回の労働英雄大会が開催され、農民特等労働英雄第一位の楊奴作、第二位の劉有多、第三位の王建栄が表彰された。

#### 2.2.1 第一回労働英雄大会の選抜方法

第一回労働英雄大会の労働英雄の選抜方法は以下のようである。

> まず各編村の村民大会によって村の労働英雄を選び、行政村全体の労働英雄大会で5人から15人の模範を選ぶ。(中略) 区の労働英雄10人から20人は各村の模範英雄、評議委員、民衆代表から作られる大会により選ばれる。(中略) 各県の労働英雄が決められてから、11月末に興県で全晋西労働英雄大会を開き、民主選挙で晋西模範労働英雄200名を選抜する[36]。

興県の世帯数と人口数は1941年において93,833人(世帯数は不明)、1945年7月において21,897戸、94,190人であり[37]、後者の統計で各戸平均約4.3人であった。1940年9月11日、晋西北行署は第二次行政会議を開き、閻錫山時期の閭隣制を廃止し、区―行政村―自然村の行政レベルへ変更することを決め、興県を6区61行政村に分けているため[38]、1941年の人口を基に計算すれば、各行政村

---

[34]前掲王彩霞書、61頁。
[35]前掲王建華論文。引用元:『労模的産生(運動発展簡況)』陝西省檔案館、檔案号:6-1-240。
[36]「行署、抗聯共同規定模範労働英雄産生奨励弁法　生産展覧大会改十一月底挙行」『抗戦日報』1941年7月31日、第3版。
[37]李玉文編著『山西近現代人口統計与研究』中国経済出版社、1992年、459－472頁。
[38]同上書、415頁。

の人口は平均 1,538 人、各区の人口は平均 15,638 人となる。各行政村では 24 戸、103 人から 72 戸、308 人に対し一人の割合、各区では 182 戸、782 人から 364 戸、1,564 人に対し一人の割合で、労働英雄が選ばれたことになる。

### 2．2．2 第三回労働英雄大会の選抜方法

第三回労働英雄大会の労働英雄の選抜方法は以下のようである。

> 行政公署が 1943 年労働英雄の条件を発表し、11 月に第三回の晋西北労働英雄大会を開催すると定めた。(中略)行政村から 3、5 人の労働英雄を選んで区に送り、区はまた 5、6 人を選んで県に送り、県の模範労働英雄大会に参加して生産の経験を交流する。各県の晋西北労働英雄大会に参加する人数の割合は遊撃区において一万分の一、根拠地において一万分の二である。労働英雄大会の影響を拡大するために、各県長は少なくとも一人の労働英雄（大会で選ばれたもの）と頻繁に連絡を取り、助けを与える[39]。

晋西北根拠地においては、1941 年から既に基層から労働英雄を選ぶようになっているが、陝甘寧辺区では 1944 年になってからようやく基層から選挙によって労働英雄の選抜を行うようになっている[40]。行政村レベルから全辺区レベルまでの英雄の序列化も晋西北根拠地が先行していることがわかる。

なお、晋西北が先駆的に基層レベルから英雄の選抜の積み上げにより英雄の序列化を始めることができたのには、1920 年代の閻錫山統治時期の村制改革が関係している可能性が考えられる。閻錫山は辛亥革命から長年山西省を統治し、1920 年代に村制改革を行った。5 戸が 1 隣、25 戸が 1 閭、300 戸が 1 編村となった。編村が必ず 300 戸により構成されたわけでなく、300 戸以上の大きな編村では村長、副村長一人ずつが設けられた。300 戸未満の編村では自然村ごとに、又は全体で、村長が設けられる[41]。他の地域と比べ、閻錫山政権は村

---

[39]「行署頒布労働英雄条件　号召開展生産競賽」『抗戦日報』1943 年 3 月 20 日、第 1 版。
[40]李富春「関於労働英雄模範工作者問題」『解放日報』1945 年 1 月 9 日、第 1、4 版。
[41]李広軍「晋綏根拠地的農村政権建設」中共中央党校修士論文、2007 年。

制改革により、よりきめ細かく農村を管理していたと考えられ、このような基礎に立って晋西北では基層からの労働英雄の選抜が可能になったものと推察される。

## 3．各辺区における特等労働英雄の特徴

### 3．1 陝甘寧辺区

呉満有は、1943年末の陝甘寧辺区労働英雄大会において特等労働英雄に選ばれた。呉満有は1928年に飢饉を逃れるために、延安の呉家棗園に移住し、1934年の土地革命によって約70垧の山地を分配された。1942年になると、77垧の山地を耕作し、42石[42]の糧食を収穫した。1938年、1畝当たりの平均生産量が0.15石に対して[43]、呉満有は山地にもかかわらず、生産量は0.2石に達した。同時に牛5頭、驢1頭、羊200頭、馬2頭を所有し、長工一人、羊飼いの子供一人、牛飼い子供半分の労働力を雇っており、富農と言える[44]。呉満有以外に、1943年特等労働英雄に選ばれた農民には申長林、陳徳発、石明徳、劉玉厚がいる。この他、楊朝臣、孫満福らが甲等労働英雄に選抜された。その中で、呉満有、申長林、陳徳発、楊朝臣が延属分区、石明徳が関中分区、劉玉厚が綏徳分区、孫万福が隴東分区に属する[45]。表1-1から見ると、労働英雄らは党員或いは党の基層幹部を務めていた。また、表1-1に示されたような、耕地面積、年収穫高、所有役畜頭数および労働力雇用の状況からみて、石明徳が貧農である以外は、富農もしくは富裕中農であったことは間違いないであろう。

**表1－1：陝甘寧辺区第一回労働英雄大会の代表的な英雄**

| 名前 | 在住地 | 政治身分 | 土地と家畜 |
|---|---|---|---|
| ①申長林 | 延属分区延安県馬 | 党員 | 1935年に40垧の土地を分配され、1943年に318畝の土地、 |

[42]1929年に中華民国が発表した度量衡法によると、1石は100リットルであるが、現地の度量衡をそのまま使用し続けている例も多く、当時の陝甘寧辺区がこれに従っていたかは不明である。
[43]劉景範「1938年辺区経済建設工作的報告」（1938年1月5日）前掲『抗日戦争時期陝甘寧辺区財政経済史料選編』第二篇農業、61－62頁。
[44]趙元明編『陝甘寧辺区的労働英雄』大衆書店、1946年、121－122頁。
[45]「二十五位特等労働英雄　毎人栄獲奨金三万元」『解放日報』1943年12月19日、第1版。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 8 人家族 | 家溝村 | | 牛 4 頭、驢 1 頭、羊 120 頭を所有し、長工半分の労働力、羊飼い 1 人を雇う。 |
| ②陳徳発 | 延属分区延安県馬家溝村 | 郷政府委員、中共党支部幹部 | 土地革命によって 50 垧の土地を獲得し、1943 年に 31 垧の土地を所有する。1944 年の生産計画において、1 人を雇う予定であると言及する。 |
| ③楊朝臣<br>一人暮らし | 延属分区安塞県小樵湾村 | 党員 | 1943 年に 22 垧の土地を所有し、また 8 垧の土地を夥種により耕作し、長工 1 人を雇う。1941 年から 43 年にかけて 33 石の糧食を収穫する。 |
| ④石明徳 | 関中分区淳耀県白塬村 | 村主任 | 1943 年 50 畝の土地を小作する。 |
| ⑤劉玉厚<br>11 人家族 | 綏徳分区綏徳県塬家橋村 | 党員、村主任、減租会委員 | 1943 年に 61 垧の土地を所有し、記事において衣食が満ち足りた中農と評価される。<br>弟 2 人、従弟、妹の夫と 5 人の変工隊を組織する以外に、長工 1 人を雇う予定である。 |
| ⑥孫万福<br>6 人家族 | 隴東分区曲子県呉旗村 | 郷参議員 | 1943 年に 160 畝の土地、家畜 4 頭を所有する。長工 1 人を雇う。 |

①「模範党員和労働英雄申長林同志」『解放日報』1944 年 1 月 28 日、第 2 版。②「馬家溝和陳徳発」『解放日報』1944 年 1 月 2 日、第 2 版；「「状元」陳徳発回来以後」『解放日報』1944 年 2 月 17 日、第 4 版。③「楊朝臣今年計画開荒五垧鋤草四畝」『解放日報』1943 年 2 月 28 日、第 4

版;「楊朝臣是退伍軍人的旗幟」『解放日報』1944年1月8日、第4版。④「模範的白塬村」『解放日報』1943年12月8日、第1版。⑤「劉玉厚夏田全部下種」『解放日報』1943年4月29日、第2版;「劉玉厚与郝家溝」『解放日報』1944年2月21日、第4版。⑥趙元明編『陝甘寧辺区的労働英雄』大衆書店、1946年、36－37頁。

中国革命の性格と方向性を論じた日中戦争中の毛沢東の代表的な著作と中共の土地政策に関する指示において、中共は富農経済の存在を認めていた。しかし、富農の具体的な基準については言及されていなかった[46]。一方、1933年に発表された二つの文件(「怎様分析階級」「関於土地闘争中一些問題的決定」)によると、地主―富農―中農―貧農―工人と五つの階級に分けられ、土地と生産用具などの所有の程度、搾取の有無―他人の労働に依存するのか、それとも自己の労働により生活しているのか―によって階級を区分し、搾取収入が年間総収入の15%以上(特定の事情があれば30%)を占める場合には富農であると規定していた。搾取方式は主に雇用労働、土地の小作貸付、金貸し、商業を含む[47]。毛沢東によって作成された二つの文件は1934年に入ると留ソ派に批判されたが、毛の指導権の強化とともにある程度復活し、1940年代後半になってから中共の農民政策に全面的に採用された[48]。

また、現実の階級区分においては、1933年の文件のように搾取率を詳細に計算して階級区分を確定することは困難であったと推察される。内戦期の土地改革に関する多くの研究においても、搾取率の適用や計算が困難であったことが指摘されている。田原史起の研究によれば、搾取率の基準が機能しなかった原因は、階級区分に参加した農民や村幹部が搾取率を理解せず、わかりやすい土地や農具の所有程度の基準を受け入れたからである[49]。方慧容は搾取率の計算

[46] 毛沢東『中国革命与中国共産党』新民主出版社、1949年、30頁、毛沢東『新民主主義論』中原新華書店、1949年、15頁、中央檔案館編『中共中央文件選集』(13) 1941-1942、中共中央党校、1991年、280－289頁。
[47]「怎様分析階級」「関於土地闘争中一些問題的決定」『政策選輯』新華書店、1949年、97－111頁。
[48]小竹一彰「中国共産党の農民階級区分論―その生成期に関する一考察」小林弘二編『中国農村変革再考―伝統農村と変革』アジア研究経済所、1987年、99－100頁。
[49]田原史起「中国一九五〇年期土地改革における「階級」と農村社会―階

が必要とした農民の労働日数の情報が農民の記憶により明らかにしにくかったと指摘した[50]。中井明も農民の労働時間を明らかにするのが難しく、工作組が労働時間の調査と搾取率の算出に固執すれば工作の停滞を招くと指摘した。このため、土地調査に有利なように土地の量のみを基準とする傾向を強めたものと推察している[51]。

以上のことから、日中戦争期においても、搾取率を厳密的に計算できず、土地、役畜の所有の程度、収穫高などで階級区分を行っていた可能性があると考えられる。

### ３．２　晋西北根拠地

晋西北根拠地においては、1942 年から 1945 年まで四回の労働英雄大会が開かれ、4 人の農民特等労働英雄が選抜された(表 1-2)。

**表 1－2：晋西北根拠地四回労働英雄大会の代表的な英雄**

| | 労働力 | 所有土地数と生産量 |
|---|---|---|
| 楊奴作<br>5 人家族 | 本人 1 人 | 1941 年に 36 畝の土地を開墾し、果樹 10 本、棗 5 本を植える。粟 6 石、豆 0.3 石、カボチャ 1,000 キロ、ジャガイモ 450 キロを収穫する。農作業以外に、石炭の販売もする。 |
| 王思良<br>8 人家族 | 本人 1 人 | 30 畝の土地を所有し、また 30 畝の土地を小作する。また果樹 92 本を植え、紡織もする。他の人の収穫量の 1.25 倍を収穫する。 |
| 張初元 | | 15 垧の土地を耕作する一方で炭坑で働き、他の人の収穫量の倍に当たる 7 石の食糧を収穫する。 |
| 温象栓<br>8 人家族 | 本人、息子 2 人と短工 1 人、変工組も | 1942 年に 90 垧の荒れ地を購入する。収穫量は不明であるが、1942 年に 10 石の公糧を納める。 |

級区分工作の実施過程についての考察」『アジア研究』第 43 巻第 1 号、1996 年、31－73 頁。

[50]方慧容「“無事件境”与生活世界中的“真実”―西村農民土地改革時期社会生活的記憶」楊念群主編『空間・記憶・社会転型―“新社会史”研究論文精選集』上海人民出版社、2001 年、531－543 頁。

[51]中井明「現代中国農村における政策浸透―1940 年代後半から 1950 年代初期の階級区分基準の操作実態の分析」『アジア研究』第 51 巻第 4 号、2005 年、17－31 頁。

| | | |
|---|---|---|
| | 組織する。 | |

第一回労働英雄大会において、楊奴作が農民特等労働英雄に選ばれている。楊奴作は保徳県出身で、当時 39 歳である。彼は小さい頃から内モンゴルに行って働き、戦争が始まってから地元で働くようになっている。妻と娘二人、息子一人の 5 人家族であるが、労働力は彼一人だけで、家畜もない。1941 年に、辺区政府が生産と開墾を呼びかけ、楊奴作は合計 36 畝を開墾し、果樹 10 本、棗 5 本を植えている。記事において、彼は貧農とされている[52]。1941 年の晋西北の土地所有状況の調査によると、地主一人当たりの平均土地所有面積は 88.2 畝、富農は 33.38 畝、中農は 23.8 畝、貧農は 9.58 畝である[53]。晋西北は土地が痩せているため、華北の平均水準(中農で 4～5 畝)をはるかに上回る土地を必要とすることが理解できる。楊の家庭において、一人当たりの土地面積は 7.2 畝であり[54]、この基準に照らしても貧農と判断できる。彼が労働英雄に選ばれたのは、開墾と植樹に励んだ他、痩せた土地でも生産が可能なカボチャ、ジャガイモを大量に植えて顕著な成績を上げたからだと考えられる。

王思良は第二回労働英雄大会において、農民特等労働英雄に選ばれている。彼も保徳県出身で、8 人家族である。労働力は彼一人で、羊 3 頭、子羊 5 頭を飼っている。1942 年に 5 垧の土地を所有し、10 垧の土地を小作し、11 垧の土地を開墾し、段々畑 3 畝を整えた。生活が苦しかったため、7 垧の土地を売った。また果樹 92 本を植え、労働互助小組を組織し、紡織もする。村農会秘書を 2 年間、区農会

[52]左宣「我看見了楊奴作」『抗戦日報』1942 年 1 月 22 日、第 3 版。
[53]韋文「晋西北的土地問題」(1942 年 4 月 20 日)前掲『晋綏辺区財政経済史資料選編』農業編、63 頁。貧農はこの他に小作地を耕作しているはずであるが、所有地と小作地を含む耕作地全体の規模に関する具体的な統計を見つけることができなかった。
[54]中共の階級区分は世帯ごとの主要な収入の性格によって行われるが(「関於土地闘争中一些問題的決定」前掲『政策選輯』、99－111 頁)、世帯の耕作地所有面積については、世帯の労働力の数ではなく、世帯の消費人数によって 1 人当たりの面積を求め、その生活水準を判断している(大人・子供などで実際の消費量は異なるが、計算の便宜上、捨象されている。晋綏分局調研室「階級関係及土地占有的変化」(1944 年 10 月)前掲『晋綏辺区財政経済史資料選編』農業篇、113－117 頁)。楊は 1 人で 36 畝の土地を耕作したが、生産物が家族 5 人によって消費されたため、1 人当たりの土地面積は 7.2 畝となる。

の宣伝職を1年間勤めている[55]。王の家庭が所有している土地は7垧の売却前は16垧で、一人当たり2垧となり、華北の平均水準では小作地の必要のないやや豊かな中農に相当するが、土地が痩せているため、更に10垧の土地を小作する必要があったとみられる。このような状況から王は貧農であると判断できる。彼は、開墾、植樹、基層幹部としての生産の組織化という業績によって、労働英雄として認められたものと考えられる。

晋西北根拠地において一番有名な英雄は、張初元である。彼は第三回と第四回の労働英雄大会において特等労働英雄に選ばれ、『抗戦日報』において大いに宣伝された。張初元は1913年に寧武県旧堡村で一番貧しい家の三男として生まれ、小さい頃から放牧に従事し、後に採炭工として生計を立てている。1940年春に寧武県中共工会幹部に発見され、旧堡村煤鉱工会主任になる。それ以降、自衛隊隊長、除奸主任などをへて1941年7月に党員になり、日本軍の掃蕩に対して積極的に民兵を組織し八路軍と協力する。民兵活動だけでなく、村において、互助運動、元閭長「周大頭」(周金奎)に対する反汚職闘争、減租運動を指導した。1943年12月21日に寧武県労働模範、1944年1月7日の第三回群英大会において特等労働英雄に選ばれた[56]。1943年に彼は15垧の土地を耕作する一方で炭坑で働き、他の人の収穫量の倍に当たる7石の食糧を収穫した[57]。資料によると、1942年において張初元はまだ貧農とみられている[58]。張初元の履歴から見ると、彼は「農民」というより基層幹部として活動していた。

晋綏根拠地の機関紙『抗戦日報』において大いに宣伝された英雄には張初元以外に、温象栓がいる。温象栓は第三回群英大会において特等労働英雄の第二位に選ばれた。彼は興県温家寨出身の8人家族で、元々小作農であった。減租政策によって1942年に90垧の荒れ地を購入し、1943年4月から10月まで労動力一人を雇っているが、家族労働力は合計で3人であるため、一般的な搾取率から推察すれば富裕中農と考えられる。彼は農業生産に尽力しただけでなく、

---

[55]狄民「大犍牛的獲得者—王思良」『抗戦日報』1942年12月22日、第3版。
[56]張基輝「中共重塑下的晋西北郷村—「張初元模式」与郷村権威1940-1945」山西大学修士論文、2007年。
[57]「張初元的生産戦闘成績」『抗戦日報』1944年1月4日、第2版。
[58]前掲張基輝論文、17頁。引用元:『寧武県新堡村支部工作情況—張初元同志的談話材料』A138-1-29-3、山西省檔案館。

模範的な農民抗日救国聯合会の会員、出征兵士の家族であった[59]。

以上のことから、温象栓を除き、楊奴作、王思良、張初元はすべて貧農、あるいは農民というよりも基層幹部として活躍していた人物と考えてよい。

### 3．3　他の根拠地

各根拠地における労働英雄運動の関連性について考えるため、晋西北根拠地以外の華北の各根拠地の労働英雄の状況について確認する。晋冀魯豫辺区の太行根拠地において、李順達は高く評価された英雄の一人である。彼は 1939 年に西溝村の自衛隊隊長を務め、1940 年に中共に入党した。1942 年に西溝村が晋冀魯豫辺区政府に「労武結合模範村」として表彰され、李順達も平順県政府に「労武結合英雄」として表彰されている[60]。また彼は、1944 年 11 月 20 日の太行区第一回殺敵英雄・労働英雄大会において「生産互助一等英雄」に選ばれ、「辺区農民の方向」と称されている。1946 年 12 月 2 日の第二回群英大会においては「合作労働一等英雄」に選ばれ、「翻身(階級的抑圧からの解放)農民の道」と評価された[61]。彼は 1946 年に既に土地 50 畝、驢 1 頭、牛 2 頭、羊 40 頭を所有しており、労働力の雇用状況は不明であるが、経営規模から見ても富農と認識されたものと考えられる[62]。以上のことから見ると、「労武結合」という用語は、太行根拠地において 1942 年に既に使われていた。しかし、張初元の「労武結合」と異なり、李順達は民兵として活動するとともに、彼自身が本来農民として農業に重点を置く生活をしており、その状況から「労武結合英雄」と評価されている。

晋冀魯豫辺区の太岳根拠地においては、石振明が英雄に選抜されている。彼は 1944 年に浮山県と太岳区労働英雄に選ばれ、6 月に入党する。そして彼は 120 畝の土地、牛 6 頭、驢 1 頭、羊数十頭を所有し、3 人を雇っており[63]、富農と考えられる。

---

[59]「興県二区模範農救会員温象栓当衆受奨」『抗戦日報』1943 年 5 月 25 日、第 2 版。
「温象栓是怎様耕種的」『抗戦日報』1943 年 7 月 3 日、第 2 版。
[60]張松斌『西溝村志』中華書局、2002 年、2 頁。
[61]王湄、張鈺著『金星英雄李順達伝』山西出版集団北岳文芸出版社、2008 年、98－113 頁。
[62]「太行一等労働英雄李順達訂出五年発家計画」『人民日報』1946 年 6 月 19 日、第 2 版。
[63]太岳行署編『発展新式富農経済　向石振明看齊』、1946 年。

晋察冀根拠地においては胡順義が有名な英雄である。1944年に食糧21大石、ジャガイモと野菜それぞれ3,000キロを収穫し、羊30頭、牛5頭、驢2頭、鶏20匹を飼っている。彼は1944年12月に辺区第二回群英大会に出席した[64]。

以上から見ると、晋西北の労働英雄は貧農が多く、呉満有のような「新型富農」ではない。内田知行は土地革命の徹底度を基準に、陝甘寧辺区の農村は先進農村と後進農村に分けられると指摘する。先進農村（延属分区、関中分区、隴東分区）はいわゆる土地革命を徹底的に行い、「新型富農」の形成が最も顕著な地域である。その一方、後進農村（綏徳分区、三辺分区）とは土地革命の徹底度が低く、「新型富農」の形成も遅れた地域である[65]。岳謙厚によれば、晋西北の減租減息運動は、1940年2月―1942年末、1943年初め―1944年8月、1944年8月―1945年8月の三段階に分けられる[66]。晋西北の農村は1940年代の初めには後進農村に当たり、「新型富農」が存在せず、第一、二回の労働英雄はおおよそ貧農である。減租減息の進展とともに、「新型富農」が徐々に現れるようになった。温象栓は減租減息を通じて90畝の山地を購入して豊かになり、半年間労働力一人を雇い、1943年末に陝甘寧辺区と同様の富農経済政策によって選ばれた英雄で、明らかに延安の影響を受けたものと思われる。一方、前線地域の晋西北において、「労武結合」―張初元を農民特等英雄の一位に選んで大いに宣伝するのは自らの特徴である。山西省の他の根拠地の労働英雄大会は1944年から開催されるようになっており、延安の影響を受けたものとみられる。

## 4. 労働英雄運動の主題

### 4.1 陝甘寧辺区

陝甘寧辺区において、労働英雄は政府の政策に協力する模範としても顕彰されているものの、その顕彰は主には生産動員のためのものであり、生産の向上が最も重要な任務であった。高崗は1943年の辺区労働英雄大会において、「労働英雄たちは戻ってから来年の生産

---

[64]「阜平労働英雄胡順義」『晋察冀日報』1945年1月31日、第4版。「大石」については、旧制の容量単位と考えられるが、具体的な数値は不明。
[65]内田知行『抗日戦争と民衆運動』創土社、2002年、49頁。
[66]岳謙厚、張瑋『黄土・革命与日本入侵：20世紀三四十年代的晋西北農村社会』書海出版社、2005年、28頁。

計画をたててほしい」、「来年の生産量が倍増するように頑張ろう」と述べた[67]。陝甘寧辺区政府主席の林伯渠も生産の重要性を強調し、労働英雄大会の閉幕式において、以下のように述べている。

> 労働英雄大会では様々な問題を論じたが、皆さんは最も重要なものをしっかり覚えておき、戻ったら実行していただく。第一、2年間耕作して1年分の食糧を余らせ旱魃に備える。第二、生産事業を普及させる。全辺区で多くの労働英雄を作りあげ、労働英雄が生産の指導者になることを希望する。第三、軍民合作で辺区を守る。民衆が軍隊に協力して自衛力を強める。第四、毛主席の「組織しよう」、高崗同志の「自慢しないでもっと頑張ろう」の呼びかけに応え、労働英雄が民衆の中心になって模範郷村、模範工場、模範連隊を作り、全部の労働力を組織して生産に参加すること、である[68]。

### 4.2 晋西北根拠地

陝甘寧辺区と比べて、前線の晋西北では当初から労働英雄の選抜において、地元の防衛組織の育成と結合した形での生産動員が重視されていた。1941年の五三〇惨案記念日において、離石×区では労働英雄22名を表彰した。甲等労働英雄5人の内、4人は自衛隊の仕事を担うとともに、農作業にも尽力していた[69]。当時、「労武結合」というスローガンは使用されていないが、晋西北の労働英雄運動は、事実上「労武結合」の重要な主題として展開していたといってよい。その後、太行区の李順達の実践が「労武結合」として伝えられ、1944年の第三、四回大会において、張初元は二回続けて「労武結合」の農民特等労働英雄に選ばれている。その理由は以下の通りである。

> 張初元は民兵を率いて闘い、変工隊を組織して民兵と出征兵士の家族の生産を助け、民衆を指導して反汚職と減租運動を行っ

---

[67]「高崗同志在辺区労働英雄代表大会与生産展覧会開幕典禮上的講話」『解放日報』1943年11月27日、第1版。
[68]「林主席在辺区労働英雄代表大会上的閉幕詞」『解放日報』1943年12月29日、第1版。
[69]「春耕簡訊」『抗戦日報』1941年6月22日、第3版。

た。従って一等労働英雄に選ばれたのである[70]。

そして、張初元は晋西北の呉満有であり、「労武結合」が晋西北の方向であると評価されている。

> 生産運動の方向は(中略)陝甘寧辺区の労働英雄呉満有に学ぶことである。呉満有の方向は変工隊を組織して集団で労働するということである。(中略)晋綏辺区においても、呉満有のような労働英雄を作り出した。それは「労武結合」の模範―張初元である[71]。

以上のことから見ると、呉満有が高く評価されたのは毛沢東の「組織起来」に応え、変工隊を組織して集団で労働するからである。張初元が呉満有のような英雄と評価された理由は変工組の組織と民兵組織を合体させて戦闘と生産が両立できるようになったからである。晋西北は後方の陝甘寧辺区と同じく生産の向上と合作経済を重視したが、陝甘寧辺区の合作経済が富農経営と結合したものであるのに対して、晋西北の合作経済は「労武結合」の組織であり、内容には違いがあると考えられる。

## 5. 晋西北根拠地の労働英雄大会における民俗利用

中共が革命において、常に民俗を利用して自分の政策を宣伝したり民衆を動員したりすることは既に多くの研究者によって指摘されている。丸田孝志は中共根拠地における農暦の時間、シンボル、民俗の利用を対象として中共の政治動員を分析している。中華民国が成立してから、新暦の使用が推し進められていたが、農暦に頼って生活している民衆になかなか受け入れられなかった。農暦活動を利用して宣伝と動員を行うのは中共にとって不可欠なことである。陝甘寧辺区において「封建的な」要素（例えば、迷信）を取り除いて農暦活動を全面的に展開したのは 1942 年の整風運動以降であり、

---

[70]「寧武開労働英雄大会　張初元得大犍牛一頭」『抗戦日報』1944 年 1 月 4 日、第 2 版。
[71]「響応毛主席「組織起来」的号召，学習敵後呉満有運動的模範労働英雄張初元同志」『抗戦日報』1944 年 1 月 22 日、第 1 版。

労働英雄運動については 1943 年以降に顕著な民俗利用が確認されている[72]。しかし、晋西北根拠地は陝甘寧辺区に先駆けて全辺区規模を目指して労働英雄大会を開催している他、労働英雄運動における民俗利用も先行していると見られる。

### 5．1　英雄を「状元」とする呼称の使用(1942 年～)

状元は中国の科挙制度において最終試験（唐朝では省試、宋朝では殿試）で第一等の成績を修めた者に与えられる称号である。中共根拠地では労働英雄を状元と称しており、民衆の心理をうまく利用したと考えられる[73]。陝甘寧辺区においては 1944 年 2 月に英雄を状元と呼ぶ記事が初出するが[74]、晋西北では 1942 年 12 月の第二回労働英雄大会からこのような呼称が確認できる。『抗戦日報』の報道によれば、「労働英雄大会は午前 10 時から始まり、3,000 人余りが出席した。大会の主席張処長は挨拶をして大会の意義を説明した。(中略）労働英雄は工人の状元、農民の状元、皆労働英雄を学ばなければならないとも述べた」という[75]。

### 5．2　廟会の雰囲気の演出(1942 年～)

労働英雄大会においては、民衆の関心を引き起こすため、廟会の雰囲気を演出した。陝甘寧辺区の労働英雄大会は、1943 年から各地の集市・廟会を利用しながら開催されるようになるので[76]、このような民俗利用も晋西北が先行している。晋西北ではやはり第二回労働英雄大会から廟会の雰囲気の演出が行われている。『抗戦日報』は以下のような街の雰囲気を伝えている。

> 大会に参加した英雄らの服には赤い労働英雄栄誉証をつけている。興県の店舗は道に看板をかけて英雄を迎える[77]。
>
> 街中は賑わっている。(中略)店舗に飾り提灯を懸けて、労働英雄を迎える標語、大きな文字で書かれた「大安売り」の看板が

---

[72]丸田孝志『革命の儀礼―中国共産党根拠地の政治動員と民俗』汲古書院、2013 年。
[73]同上書、60 頁。
[74]「「状元」陳徳発回来以後」『解放日報』1944 年 2 月 17 日、第 4 版。
[75]「労働英雄大会開幕　生産展覧同時挙行」『抗戦日報』1942 年 12 月 19 日、第 1 版。
[76]前掲丸田書、56－60 頁。
[77]「晋西北生産展覧会開幕　労働英雄検閲同時挙行」『抗戦日報』1942 年 1 月 17 日、第 3 版。

人の目を引いている。普段最も賑やかな道に松や檜で建物を建てた。その上に「労働英雄は最も光栄である」の提灯が飾られている。人々は廟会よりも賑やかだといっている[78]。

1944年の臨県での労働英雄の歓送会は以下のように行われた。

12月24日に臨県で盛大な労働英雄の歓送会が開かれた。2万人余りの人が来て英雄を歓送した。街中は賑わっており、冬訓班、寺家塔学校は秧歌隊を組織してその盛会を祝っていた。城関の民衆は状元橋を建てて、拍手と銅鑼の音の中で英雄を状元橋に迎え、高県長と張政委が英雄に賞を与えて、一緒に写真を撮った[79]。

### 5.3 騾馬大会との結合(1942年～)

陝甘寧辺区において労働英雄運動が騾馬大会（家畜などの取引を行う大規模集市）を利用して行われるのは、1943年農暦9、10月の各分区区における労働英雄大会からであるが[80]、晋西北ではこれに先んじて1942年から労働英雄が騾馬大会に参加する形での生産動員が行われている。1942年3月11日から17日まで、保徳県では騾馬大会が開かれ、労働英雄の楊奴作も賞品の牛を連れて参加し、生産動員を行った[81]。なお、翌18日は、春耕の開始を告げる龍擡頭（農暦2月2日）であり、このような日程も意識されていたと考えられる。1943年3月、保徳県では騾馬大会と県労働英雄大会を開催し、王思良が賞品の牛を連れて出席し、演劇も上演された[82]。その後も興県において、1944年2月24日から29日（龍擡頭）まで騾馬大会が開かれ、労働英雄温向栓が変工、生産、労働力と武力の結合を提唱し、八路軍を擁護しようと訴えた。戦闘劇社、七月劇社の講演も

---

[78]「労働英雄們走過的時候」『抗戦日報』1942年12月19日、第2版。
[79]韓暁莉『革命与節日—華北根拠地節日文化生活1937-1949』社会科学文献出版社、2019年、163頁。引用元：「労働的人是光栄的，各県歓送群英赴会」『晋西大衆報』1944年12月10日。
[80]前掲丸田書、59－60頁。
[81]「保徳挙行騾馬大会　繁栄市面幇助春耕」『抗戦日報』1942年3月21日、第3版。
[82]「歓迎王思良準備春耕　保徳籌備開騾馬大会」『抗戦日報』1943年2月27日、第1版。

行われ、舞台の前には毛沢東と労働英雄張初元の肖像が掲げられた[83]。

## ６．まとめ

労働英雄運動は陝甘寧辺区から始まり、生産を発展するために行われた運動であり、次第に他の辺区でも展開されるようになったと考えられてきた。日本軍の軍事行動などで経済的に窮地に追い込まれた晋西北根拠地も労働英雄の選抜を始めるが、延安と全く同様の方法で行ったわけではない。

晋西北根拠地は陝甘寧辺区よりも早く、1941 年から全辺区規模での労働英雄大会の開催を目指し、「辺区労働英雄大会」の名前を冠して翌年 1 月に大会を開催した。英雄の選抜においても、晋西北根拠地は陝甘寧辺区より早く、第一回の労働英雄大会の時から基層から選挙により英雄を選ぶようになっており、英雄を序列化して、全辺区の模範となる特等労働英雄の選定に着手している。第一、二回の労働英雄大会において選ばれた英雄らはおおよそ貧農であり、陝甘寧辺区の富農経済政策とは異なる。張初元は第三、四回の労働英雄大会において「労働力と武力の結合」の代表として選ばれた特等労働英雄であった。前線である晋西北は生産の発展も重視するが、陝甘寧辺区と比べて「労武結合」に力点を置いた運動を展開していた。廟会の雰囲気の演出、騾馬大会との結合などの民俗利用も陝甘寧辺区に先んじていた。

晋西北と陝甘寧の労働英雄運動の比較を通じて、晋西北の労働英雄運動は延安とは異なり自らの特徴があることが理解できる。すべて延安から始まるのではないと考えられる。晋西北根拠地の労働英雄運動は延安をモデルとしながらも、基層のレベルの選挙、英雄の序列化、特等労働英雄の選定、民俗利用などに関して、1943 年以降の陝甘寧辺区の労働英雄運動に先行する形で様々な取組みが展開していた。晋西北根拠地は陝甘寧辺区と隣接しており、晋西北の労働英雄は延安にも招かれており、また、晋西北の代表的な労働英雄が『解放日報』によく報道され[84]、晋西北の経験が陝甘寧に伝えられ、

---

[83]「積極準備生産　興県挙行騾馬大会」『抗戦日報』1944 年 3 月 11 日、第 2 版。

[84]「晋西北労働英雄大会　王思良栄獲特等奨」『解放日報』1942 年 12 月 23 日、第 2 版、「晋西北労働英雄王思良計画生産」『解放日報』1943 年 2 月 16

互いに影響を与えた可能性が高いと考えられる。そして、李順達の履歴から見ると、「労武結合」という言葉自体は先に太行根拠地に使われており、晋西北は太行の経験を受け入れた可能性があると考えられる。その上で、1943年の延安の「組織起来」の呼びかけに呼応する形で、張初元の活動が「労武結合」の模範として顕彰されるようになったと推察できる。ここから従来の延安を中心とした中共根拠地の歴史叙述を見直すことの必要性が理解できる。

日、第2版、「晋西北労働英雄温象拴」『解放日報』1944年3月29日、第3版、「晋西北労働英雄大会閉幕　張初元等獲得栄奨」『解放日報』1944年1月26日、第1版。

## 第 2 章　太岳抗日根拠地における群衆英雄運動―前線根拠地における英雄の表象―

本章では、晋西北より不安定であった太岳根拠地の群衆英雄運動を検討する。太岳の群衆英雄運動を 1940 年から 1943 年、1944 年以降の二段階に分け、それぞれの特徴を陝甘寧、晋西北との比較を意識して分析し、また太岳の女性労働英雄にも言及する。

### 1．　1940－1943 年の群衆英雄運動

#### 1．1　労働英雄の表彰

中共が 1940 年 8 月から 12 月にかけて発動した百団大戦を受けて、1941 年以降、日本軍による根拠地に対する掃蕩が頻繁に行われるようになった。その上、国共関係が悪化して国民政府からの援助が中断し、根拠地の経済状況はさらに厳しくなり、多くの農具と耕牛が失われて民衆の生産意欲は低下した。辺区政府は春耕の重要性を宣伝し、労働英雄を表彰し、民衆の生産意欲を高めることが重要であると認識し、男性労働力のみならず、女性と児童も農業生産に参加することが求められ、労働英雄の育成が始まった[1]。労働英雄は「春耕組」によって決められ、「春耕委員会」に審査され、労働英雄に選ばれると、物質的、精神的な奨励が与えられることになった[2]。

1942 年春、各抗日救国連合会（以下、救国会）が春耕競争を始め、10 人の労働英雄の選出を決定した[3]。青年救国会も 5 月 1 日から 7 日を「労働英雄突撃週」と定め、青年労働英雄を育成しようとしていた[4]。

1942 年 3 月 31 日、太岳根拠地では沁源騾馬大会（騾馬大会は家畜の売買を中心とした大規模集市）と同時に烈士追悼大会を開き、それを機に労働英雄の表彰式を行っている。このような労働英雄運動における集市を利用した民俗利用は、陝甘寧辺区より早く、晋西北と

---

[1]「社論　春耕到了，大家動員起来吧！」『太岳日報』1941 年 3 月 15 日、第 1 版。

[2]「村春委会応該作些什麽？」『太岳日報』1941 年 4 月 10 日、第 4 版。春耕組は村の春耕組織、春耕委員会は基層幹部から構成される委員会と考えられる。

[3]「沁県擬定春耕標準　増産糧食両万石」『太岳日報』1942 年 4 月 6 日、第 2 版。

[4]「迎接五四青年節　七区青年開始整風」『太岳日報』1942 年 4 月 21 日、第 2 版。

ほぼ同時期である。この大会において、安澤県一区出身の尚恒初が第一位の英雄となり、牛一頭を賞品として授与された。彼は 50 歳で、家族全員が生産に熱心であった。1941 年に彼は数十畝の土地を耕作し、6 畝の荒地も開墾した。自分の土地を耕作した他、抗属（出征兵士の家族）の生産を熱心に手伝った。第二位は女性労働英雄の李某で、彼女は 57 歳であったが、自力で 10 畝の土地を耕作した。第三位は沁源五区出身の杜某で、彼は労働英雄だけでなく、模範幹部でもあり、村の生産委員を担い、村の生産を積極的に推し進めていた。第四位は張明元であり、彼は家畜を持っていないが、互助を通じて 150 畝の土地を耕作した[5]。烈士追悼大会において英雄の表彰を行うのはまさに前線の特徴を現わしたものといえる。そして、個人の労働英雄を評価するだけでなく、全員が生産に尽力した模範的な家族も「模範農家」として表彰された[6]。また、後述するように、女性も含む様々な労働力を組織して生産を向上させるという全民抗戦が提唱されていた。

農業だけでなく、工業においても英雄の育成が開始された。1941 年に工人救国会の区の分会は生産競争を展開し、労働英雄の選抜を予定していた[7]。そして、双十節開催予定の工農業生産展覧会に向けて、工場と農村の労働英雄の選抜と、生産展覧品の収集が行われた[8]。

### １．２　薬炎明[9]運動

陝甘寧辺区と比べて、前線地域の太岳根拠地は生産を推し進めるとともに、戦争英雄を積極的に評価し、独自の歩みが見られる。1940 年 1 月、中共中央は「関於在山東、華中発展武装建立根拠地的指示」を発表し、既に人民武装の人数が正規軍と地方軍の十倍に当たるべきだと強調している[10]。太岳根拠地においても、同様に民兵組織の強化が図られたものと考えられる。

---

[5]「本区軍民三千追悼殉難忠烈」『太岳日報』1942 年 4 月 3 日、第 2 版。李某、杜某の二人とも原史料の文字が一文字不明。
[6]「行署公布春耕奨励弁法」『太岳日報』1943 年 2 月 25 日、第 4 版。
[7]「工救区分会規定労働規律六条」『太岳日報』1941 年 7 月 27 日、第 1 版。
[8]「工農業生産展覧会雙十節挙行」『太岳日報』1941 年 9 月 18 日、第 2 版。
[9]『太岳日報』では「薬彦明」と記載されているが、『沁源県史』と『沁源県党史資料』第 3 集では「薬炎明」と表記されている。戦時の不安定な状況において、情報の伝達が難しく、誤記の可能性があり、建国後の安定した環境において作られた資料はより信憑性が高いと考え、「薬炎明」にした。
[10]「中央関於在山東、華中発展武装建立根拠地的指示」（1940 年 1 月 28 日）中央檔案館編『中共中央文件選集』(12) 1939-1940、中共中央党校、1991 年、252－254 頁。

薬炎明は綿上県綿上村出身で、貧しい農民家族に生まれ、地主の羊を放牧してかろうじて生活を維持していた。1939年に中共に入党し、日中戦争中に民兵に参加して綿上村の民兵隊長を担い、積極的に敵と戦っていた。1940年から日本軍が燼滅作戦を実施し、根拠地に対して残酷な掃蕩を行った。旧暦 12 月に日本軍が再び綿上村に侵入した際、薬炎明は怒りを抑えられず、武器を持たずに母親の杖で一人の日本兵を殺した。太岳行署は 1941 年の元宵節（新暦 2 月 10 日）に殺敵英雄大会を開き、薬炎明を「殺敵英雄」として評価して 2 丁の銃を彼に奨励品として与えた。そして、太岳区党委は全区に薬炎明運動を展開することを決定した[11]。

『太岳日報』において、薬炎明の事績が大いに宣伝された。彼は片手に鋤、もう片手に銃を持ち、揺るがず勇敢に根拠地を守る群衆英雄だと評価された[12]。記事において、薬炎明の民兵の身分は敢えて強調されておらず、全ての民衆が敵と戦う全民抗戦を推し進めようとしたと考えられる。綿上県三区では、春耕を守るためには武装を強化しなければならないと強調され、薬炎明運動が始まった[13]。農業だけでなく、工業においても片手に斧、片手に武器を持つ薬炎明式の労働者英雄を育成しようと呼びかけた[14]。

1941 年春からの日本軍の治安強化運動にともなう根拠地の危機を契機として、中共は武装組織の改編に着手し、主力軍の精兵化と地方軍、人民武装の強化を進めていった[15]。1941 年 11 月 7 日、中共中央は「中央革命軍事委員会関於抗日根拠地軍事建設的指示」を発表した。同指示において、地方軍と人民武装の強化が強調され、山地根拠地では主力軍と地方軍の比が 2：1 であり、平原根拠地では 1：1 であり、極端に困難な地域では主力軍を地方軍化すると決定した。また、人民武装は大多数の民衆を含め、中核である民兵、模範自衛隊及び青年自衛隊が主力軍と地方軍の和を超えるべきであるこ

---

[11]山西省沁源県史志弁公室『沁源県党史資料』第 3 集、山西省沁源県史志弁公室、75－82 頁。
[12]「社論　創造薬彦明式的群衆英雄！」『太岳日報』1941 年 4 月 6 日、第 1 版。
[13]「綿上三区開展薬彦明運動」『太岳日報』1941 年 4 月 21 日、第 1 版。
[14]「社論　記念五一節」『太岳日報』1941 年 4 月 30 日、第 1 版。原文は「一手拿着斧頭，一手拿着武器」である。斧は手工業者が使う道具であり、近代的工業のない日中戦争期の社会状況に適応したものと考えられる。
[15]山東根拠地の状況については、馬場毅『日中戦争と中国の抗戦―山東抗日根拠地を中心に』集広舎、2021 年、第七章を参照。

と、各根拠地では生産に携わらない専従幹部が総人口の 3%を超えないようにすることなどが指示され、大衆に依拠した民兵組織の強化が目指されていた[16]。

1941 年の抗戦建国記念日において、沁県では民兵検閲大会を開き、婦女自衛隊を含めて約 1,000 人の民兵が検閲を受けた。会議において、軍区代表は薬炎明に学び、労動力と武力を結合しようと呼びかけた[17]。1942 年 4 月 3 日の社論においても労働力と武力の結合が強調された[18]。太岳根拠地は 1941 年に既に「労働力と武力の結合」という言葉を使っており、管見の限り、この語の使用は太行と晋西北根拠地の報道より早いが、民兵組織と農業互助組を結合させる方法の実践は、晋西北が最も早い[19]。模範の名前を冠した運動が展開されるのも、やはり管見の限り太岳根拠地が初めてである。

日本軍の掃蕩において、部隊と民衆の中に多くの抗日英雄が出現した。1941 年 12 月に太岳行署、軍区及び各救国会は、全区群衆英雄大会を五日間開催し、民兵の仕事と英雄の「殺敵経験」を報告して英雄を表彰し、同時に抗日烈士記念碑の竣工式を行うこととした[20]。1941 年 11 月 28 日、霊石で群英大会が開かれ、200 人余りが出席した。大会において、英雄 12 人が敵との戦闘経験を語った[21]。12 月 12 日から 14 日にかけて、沁源驃馬大会と同時に全区の群英会が開かれ、薬炎明などの 27 人の群衆抗日英雄が出席した。会場には「多くの薬炎明式の群衆英雄を作ろう」というスローガンが掲げられた[22]。

1940 年から 1943 年にかけて前線の太岳根拠地において展開された群衆英雄運動では生産も当然重視されたが、比較的安定した陝甘寧辺区と比べ、民兵組織を強化する方針に従い、勇敢に敵と戦って根拠地を守る戦争英雄がより評価されたと考えられる。

---

[16]「中央革命軍事委員会関於抗日根拠地軍事建設的指示」(1941 年 11 月 7 日) 前掲『中共中央文件選集』(13) 1941-1942、212－214 頁。
[17]「沁県空前集会民兵千人検閲」『太岳日報』1941 年 7 月 15 日、第 1 版。
[18]「社論　打破旧観念」『太岳日報』1942 年 4 月 3 日、第 1 版。
[19]第一章参照。
[20]「群英大会明日挙行」『太岳日報』1941 年 12 月 9 日、第 2 版。
[21]「霊石挙行群英大会」『太岳日報』1941 年 12 月 12 日、第 2 版。
[22]「震動全区的薬彦明式群英会」『太岳日報』1941 年 12 月 18 日、第 2 版。

## 2． 女性労働英雄の表彰

### 2．1 女性労働英雄

中国の伝統的な価値観では、男女にはそれぞれ天から与えられた自然な職分があり、つまり「男耕女織」が求められる。また、華北地域では人口が多く、一人当たりの耕地面積が少ない。このような状況も、「男耕女織」の性別役割分業を支えていた。1930 年代に入り、人口の増加により、一人当たりの耕地数が 3 畝となり、半分近く（河北 40%、山東 49.7%）の農家の耕地面積が 10 畝以下に減少した。1930 年代の農業技術を考えると、一人の成年男性は約 15－30 畝の土地を耕作できる。畑作を中心とする華北では、家庭全ての労働力を農作業に投入しても、生産量がそれほど上がらず、インボリューション（involution,内旋化）[23]の現象が起こる。農業だけで家族の生計を維持できない場合は、余剰労働力（女性、児童）を紡織などの手工業に投入し、収入を増やそうとする[24]。

しかし、戦争で男性が軍隊に入隊するなどして労働力が減少すると、各根拠地では早くから女性の生産参加が提唱され、農業に従事する者も含めた女性労働英雄が顕彰されるようになった。1938 年 5 月、鄧穎超、孟慶樹は陝甘寧の女性運動の概況を報告し、全辺区の農村女性の半分が既に生産に参加し、4,000 垧（1 垧は陝甘寧、晋西北地区では 3 畝）あまりの荒地を開墾し、植樹の面でも大きな成果を上げたと言及した。また、開墾に積極的に参加した二人の女性英雄も言及された[25]。陝甘寧では、1938 年から既に女性の労働参加が

---

[23]クリフォード・ギアーツはインドネシアジャワ島の農業事情を分析した際に、インボリューションに言及している。1870 年から 1940 年の間のジャワ島では、農業人口が増え続け、労働集約的な投入が行われたが、生産量はそれほど上がらなかった。一方、同時期の日本では、工業化の発展と急速な都市化により、農業人口がほとんど増加せず、肥料の投入や機械化を伴い、以前 3 倍の生産量を得るようになった。ギアーツは日本と比べ、インドネシアの農業が質的な変化を伴わず、インボリューションが発生したと指摘した（クリフォード・ギアーツ著、池本幸生訳『インボリューション：内に向かう発展』NTT 出版株式会社、2001 年、172－182 頁）。黄宗智はさらに議論を一歩進め、インボリューションが農業近代化を妨げたと指摘した。家族の余剰労働力はほぼ無償で労働集約的な農業生産に投入され、乏しい土地の生産量を最大化することが求められる。これは農業賃金の低下をもたらしたが、1 畝当たりの生産量が高まり、労働力を節約する農業機械化を拒むと考えられる（黄宗智「農業内巻和官僚内巻：類型、概念、経験概括、運作機制」『中国郷村研究』第 18 輯）。

[24]黄宗智『華北的小農経済与社会変遷』中華書局出版、1986 年、193－202 頁。

[25]鄧穎超、孟慶樹「関於陝甘寧辺区婦女運動概況的報告」（1938 年 5 月 18 日）『婦女運動的理論与実践』1939 年、219－220 頁。

顕彰されるようになったと考えられる。1939年2月に中央婦委が各領域の女性英雄と模範、及び女性の仕事を支える男性を表彰するよう呼びかけた。ただし、資料が不足しているため、その実態を明確にできない。1940年の国際婦人デーには大会が開かれ、「模範婦女」と「模範婦孺（女性と子供）工作者」386人が表彰された[26]。1940年の表彰名簿から見ると、これらの女性は農民ではなく、学校、政府機関、工場の幹部や職員であった[27]。1940年以降は、ソビエト革命期以来の男女の生理上の差異を無視する政策が変更され、女性に重い肉体労働にさせなくなった[28]。女性は室内の日常の仕事を任されるようになり[29]、女性の農業参加は顕彰されなくなった。1943年2月26日、「関於各抗日根拠地目前婦女工作方針的決定」（以下、「決定」）が発表され、女性の生理状況と家庭事情を考え、女性は家庭を離れず、個人生産を家庭の生産計画と結びつける必要性が強調され、紡織が提唱されるようになった[30]。

太岳根拠地が分離する以前の晋冀豫区でも女性の労働参加が早く見られる。許淑賢によれば、武郷県（後に太行根拠地に所属）では1939年国際女性デーにおいて、晋東南婦救総会常務委員浦安修が小規模の紡織工場を建設したりし、村ごとに女性を組織することを呼びかけ、女性を生産に動員した。1939年7月、八路軍総司令部と中共北方局婦委が武郷に到着し、朱徳が女性の生産を組織しようと呼びかけた。それに応じて、女性は昼に農耕、夜に紡織を行い、積極的に生産に参加するようになった[31]。

中共根拠地における女性労働英雄について検討した張瑋・王瑩の論文は、中共による女性の生産参加奨励の契機を、1943年2月26日に発表された「決定」に求めたが[32]、各根拠地ではこれ以前から女

---

[26]延安市婦女運動志編委会編『延安市婦女運動志』陝西人民出版社、2001年、145頁。
[27]「模範婦女名単」『新中華報』1940年3月29日、第5、8版。
[28]李富春「生産運動総結与新的任務」（1940年2月18日）陝甘寧辺区財政経済史編写組編『抗日戦争時期陝甘寧辺区財政経済史料摘編』（8）生産自給、119－120頁。
[29]陳学昭『延安訪問記』北極書店、1940年、310頁。
[30]「中共中央関於各抗日根拠地目前婦女工作方針的決定」（1943年2月26日）羅瓊編『婦女運動文献』東北書店、1948年、1－3頁。
[31]許淑賢「抗日戦争時期婦女紡織運動及其意義—以山西省武郷県為例」『婦女研究論叢』第3期総第111期、2012年。
[32]張瑋、王瑩「華北及陝甘寧抗日根拠地女性英模的生活」『安徽史学』2016年第5期。

性の労働参加が奨励されていた。整風運動を通じて毛沢東の権威が確立し、中共の歴史は彼の活動を中心に叙述されるようになり、労働英雄運動の叙述もまた、毛の指導した 1943 年の大生産運動を起点として描かれるようになったのである。

後方の陝甘寧と比べ、前線の太岳根拠地では、男性が軍隊に入隊した他、敵に徴用、殺害され、男性労働力が減少しており、女性の労働参加がより重視されたと思われる。沁源県を例にすれば、1946 年時点で人口が 85,000 人であり、日中戦争期に 10,269 人が殺され、3,794 人が負傷して障害を負い、2,200 人が捕虜になり、21,325 人が各種の病気にかかった。牛、騾馬、驢馬の損失は 21,130 頭に上った[33]。太岳根拠地全体では、1937 年から 1945 年までで総人口の 4.5%にあたる 145,248 人が敵に殺された（晋西北では 2.9%）[34]。このような状況の下、労働力の不足に際して、女性の農業生産への参加が推奨されるようになった。

太岳根拠地では、1940 年、積極的に戦争に協力した張国栄と農業生産に参加していた韓芝蘭などの女性英雄が顕彰された。張国栄は沁県出身であり、よく人を率いて白晋鉄道（祁県白圭から晋城まで）を破壊したり、電線を切断したり、橋を焼いたりして、女性の戦争協力の記録を樹立した。韓芝蘭は一年中休まずに生産に尽力していた[35]。女性のゲリラ戦への参加が評価されたのは前線の特徴だと考えられる。太岳根拠地だけでなく、他の根拠地においても女性民兵の活躍が見られる。1941 年の統計によると、各根拠地で活動していた女性民兵は 209 万人に上った[36]。

1941 年には多くの女性が春耕に参加し、政府は女性労働英雄の条件を三つ設けた。一つ目は農業生産を手伝い、二つ目は抗属の生産を支援し、三つ目は兄弟に生産を促すことである[37]。抗属の生産支

---

[33]「沁源県抗戦時期各種損失調査表」（1946 年 8 月）、中央党史研究室、中央檔案館編『抗日戦争時期中国解放区人口傷亡和財産損失檔案選編』3、中共党史出版社、2015 年、847 頁。

[34]「晋冀魯豫辺区太岳行署関於抗戦損失的調査統計」（1946 年 7 月 5 日）同上書、830－832 頁。

[35]「大批婦女英雄湧現在武装民主生産戦線上」『太岳日報』1941 年 3 月 15 日、第 1 版。

[36]呂美頤、鄭永福「近代中国：大変局中的性別関係与婦女」杜芳琴、王政主編『中国歴史中的婦女与性別』天津人民出版社、2004 年、492－293 頁。引用元：柳勉之、李静之「解放区婦女支前参戦情況」『婦運史研究資料』1985 年第 3 期。

[37]「綿上婦女児童巻入春耕中」『太岳日報』1941 年 4 月 27 日、第 2 版。

援は、戦時動員の負担を社会が支えようとするものであるが、特に女性が主体となる抗属家庭の支援において、女性独自の役割が注目されたものと思われる。また、「兄弟に生産を促す」という条件によって、女性の家庭での位置づけを利用して生産の促進が図られた。伝統的な価値観では女性は家族親睦、勤勉節約、育児などの役割が求められており[38]、女性労働英雄の条件もそれに合わせたものだと思われる。常明秀は沁源一区崔庄村の婦女救国会会員であり、勤勉で婦女互助隊長に選ばれた。彼女は女性を率い、除草したり肥料を運んだりして積極的に農業生産に参加し、労働英雄に選ばれた[39]。

1944年春、趙淑英は綿上県の労働英雄大会において模範婦女として表彰された。以前は家族から見下されていたが、一生懸命に働き、舅姑を敬い、村の仕事に積極的に参加するようになってから、家族の中での地位も社会的地位も大きく向上し、婦女救国会の秘書にも選ばれた。この一年の間に、彼女は農作業の技術を学び、県労働英雄大会で「牛の足一本」(四人で牛一頭を贈られた)、糸車、鉛筆、メダルを授与された。1944年の春耕において、彼女は前年の経験を活かし、村の女性を変工に参加させるべく動員を進めた[40]。

1944年4月16日、沁源県一区の労働英雄座談会において、18歳の胡譲牛が第一位の英雄に選ばれ、驢馬一頭を得た[41]。胡譲牛の夫は1942年8月、掃蕩中に日本軍に捕えられ、消息が途絶えた。当時15歳の胡譲牛は生活の重荷を担い、農作業に参加するようになった。彼女は農作業に尽力し、70畝の山地で35.5石の食糧を収穫し、公糧をもきちんと納めた[42]。彼女は自ら積極的に農作業に参加するだけでなく、村全体の生産を推進するのに大きな役割を担っていた。

以上のように、女性は家を出て徐々に農業生産に従事するようになった。胡譲牛の住む沁源県は太岳根拠地の中心に位置し、1942年10月に日本軍が同県を掃蕩して駐在するようになった。日本軍の残酷な掃蕩に直面して、民衆のナショナリズムが高まり、軍隊に入隊

---

[38]鄭永福、呂美頤『近代中国婦女与社会』大象出版社、2013年、5頁。
[39]「春耕線上　労働英雄榜」『太岳日報』1941年5月12日、第1版。
[40]「努力生産学習本領趙淑英家庭社会地位提高」『新華日報』太岳版、1944年5月28日、第2版。
[41]「十八歳少女胡譲牛当選頭名労働英雄」『新華日報』太岳版、1944年5月7日、第2版。
[42]「女英雄胡譲牛」『新華日報』太岳版、1945年1月21日、第6版。

した者が 7,563 人に上り、総人口の 8.5%、労働力の 49.5%を占めた[43]。男性の不在に際して女性の農業生産を推進するため、沁源は胡譲牛を区の第一位の農業労働英雄として表彰したと考えられる。また、胡譲牛が戦争の犠牲者であり、救済されるべき対象でありながら、自力で生産に参加して困難を克服し、模範となるという構造が確認できる。中共は経済的な自立を宣伝して「女性解放」[44]を進めた一方で、女性を戦争に動員するようになった。中共根拠地においても、戦時動員が女性の社会進出を促すという状況が生じていたのである。

### 2．2　弱者の模範、革命の模範

前線である太岳根拠地においては、一般的な英雄が表彰された他、子供、抗属、栄誉軍人（傷痍軍人）などが表彰され、全民抗戦を推進する状況が確認できる。

劉顯徳は 10 歳であり、二人の兄弟がいた。彼らは田畑に水をまき、草取りをし、四日間で 4 畝の土地を耕作し、1941 年春、労働英雄に評定された[45]。1943 年の春耕時、太岳行署は「春耕奨励弁法」を発表し、労働英雄を奨励し、民衆の生産意欲を高めようとしていた。その際、生産を動員し、肥料を田畑に送り、抗属の生産を手伝い、見張りに立つ児童が模範児童として顕彰されると言及した[46]。13 歳で労働英雄に選ばれた張子香は、五人家族で、両親が病気で妹と弟が幼く、農作業を任された。1944 年の春耕において、彼女は 20 畝の土地を耕作し、民衆の議論を経て労働英雄に選ばれた[47]。

1945 年元日に開かれた殺敵英雄・労働英雄・模範工作者第一回大会において、沁源県出身の模範抗属李桂貞が表彰された[48]。1946 年

---

[43]衛鍇、張文俊「抗日戦争時期沁源県的参軍動員」『山西高等学校社会科学学報』第 30 巻第 8 期、2018 年。

[44]中共は女性解放というスローガンを利用して女性を戦争のために動員していた。1942 年の延安整風運動以前では、女性が家を離れて社会生活に参加すべきだと呼びかけた知識人がいたが、整風運動以降になると、それらの知識人がブルジョアとして批判されるようになった。根拠地の社会の安定のため、「走出家庭」（家庭から出る）より「鞏固家庭」（家庭を強固にする）の方が強調されるようになった。女性が紡織などの労働で現金収入を得たが、その支配権が限定され、女性解放は限定的なものとしかいえないのである（趙超構『延安一月』上海書店出版社、1992 年、171－174 頁、張文燦『解放的限界』中国政法大学出版社、2013 年、275 頁、286 頁、287 頁）。

[45]「春耕線上労働英雄榜」『太岳日報』1941 年 5 月 12 日、第 1 版。

[46]「行署公布春耕奨励弁法」『太岳日報』1943 年 2 月 25 日、第 4 版。

[47]「十三歳小女孩当選労働英雄」『新華日報』太岳版、1944 年 8 月 1 日、第 3 版。

[48]「金榜題名」『新華日報』太岳版、1945 年 1 月 21 日、第 4 版。

の初めには、沁源二区出身の劉秀英が抗属 25 戸の中から模範抗属に評定された。彼女は婦女救国会の生産主任を担い、女性幹部とよく話し合い、時局学習にも熱心であった。1944 年に彼女は沁源に駐在した日本軍を追い払った八路軍の姿を見て、夫に軍隊に入隊するよう説得した。同年 7 月に夫が入隊し、彼女は婦女を変工隊に組織して農作業をした。劉秀英は農作業のみならず、副業生産にも尽力した。8 月から 10 月までの三か月間で彼女は 10 斤の綿花を布に織り、1,200 元余りを稼いだ。秋収後、彼女はカボチャの種を集めて更に 450 元を稼いだ。このように、劉秀英は生産に尽力して政府と軍隊を擁護し、よく民衆に褒め称えられたという[49]。前述の沁源県の例で明らかなように、前線の根拠地では出征兵士が多いため、抗属が多く、政府の負担を減らし、生活を維持するためには彼らを生産に動員する必要がある。その後、正規軍の拡大とともに、誰でも抗属となる可能性があるため、模範抗属の奨励を通して抗属を生産に動員することは更に重要だと思われる[50]。

1944 年春の綿上県の労働英雄大会では、栄誉軍人王金柱が特等労働英雄に選ばれ、驢一頭を授与された。王金柱は 38 歳の河北省出身者で、平型関戦役と百団大戦に参加し、拡兵連連長[51]を務めた。彼は 1942 年に河南省輝県の戦闘で左目と右足を負傷し、二等傷痍栄誉軍人として退役した。退役してから、彼は雇農として働く一方で、土地を積極的に開墾した。体の不自由にもかかわらず、王金柱は 1942 年に 14.5 畝の荒地を開墾し、3.7 石の食糧を収穫した。1943 年の冬から翌年の春まで、彼は再び 20.5 畝の土地を開墾した。1944 年、王金柱は 15 石の食糧を収穫し、民衆の開墾を推し進め、政府の救済糧を受給せず、公糧をきちんと納めるという目標を設定した[52]。国共内戦期における中共の栄誉軍人の対応を研究した丸田孝志によれば、栄誉軍人は政府に救済された一方で、栄誉軍人学校で引き続き

---

[49]「模範抗属劉秀英」『新華日報』太岳版、1946 年 1 月 19 日、第 4 版。

[50]なお、後方の陝甘寧辺区においても、出征兵士がおり、模範抗属が評定されていた。1943 年 1 月 15 日に辺区政府は「関於擁護軍隊的決定」を発表し、抗属を生産に動員して模範的な抗属を表彰すると決定した。(「関於擁護軍隊的決定」(1943 年 1 月 15 日) 陝甘寧辺区財政経済史編写組編『抗日戦争時期陝甘寧辺区財政経済史料摘編』9 人民生活、532 頁)。

[51]兵員を補充して拡大編成された連の連長である。

[52]「栄誉軍人王金柱一個人開荒二十畝」『新華日報』太岳版、1944 年 4 月 7 日、第 3 版。

革命に奉仕させる教育と訓練を受けていた。体の不自由にも関わらず、栄誉軍人は民衆のために働き続け、更なる自己犠牲が求められた。それは「人民に奉仕する」政権としての中共の権威を基層において支えるものとなった[53]。王金柱は革命戦争において負傷して退役した。彼は政府と民衆の負担を減らすため、自力で生産に従事して民衆の困難を手伝い、公糧を納めており、中共が求める栄誉軍人像を体現しているといえる。

## 3. 陝甘寧辺区における労働英雄運動の手法の太岳根拠地への導入

### 3.1 陝甘寧辺区と晋西北根拠地の労働英雄運動

陝甘寧辺区では生産を発展させるため、他の根拠地に先駆けて1938年から展覧会を主要な形式として生産に尽力した者を奨励していた。1939年1月に辺区農産競賽展覧会（第一回農展会）、1940年1月に辺区第二回農工展覧会が開催され、多くの労働英雄が表彰された[54]。

百団大戦以降の根拠地の困難を乗り越えるため、各根拠地は生産を呼びかけ、その中で晋西北根拠地が先駆的に労働英雄運動を展開した。1942年1月13日、晋西北労働英雄検閲及び生産建設展覧会が開かれ[55]、同年12月12日には辺区第二回労働英雄検閲大会が開かれた。晋西北根拠地では中共根拠地で初めて全辺区規模を目指して労働英雄大会が開催され、基層から序列化した英雄選抜を行った。そして、二回の労働英雄大会において、廟会の雰囲気を演出したりし、騾馬大会と結合するなど、民俗利用が明確に見られた。以上のことから見ると、1942年まで晋西北根拠地は陝甘寧辺区に先んじ、労働英雄運動の様々な取り組みが展開し、隣接した陝甘寧辺区に影響を与えた可能性が考えられる[56]。

1943年になると、陝甘寧辺区は労働英雄の表彰を大衆運動にして

---

[53]丸田孝志「人民に奉仕する身体―中華人民共和国成立前夜の華東栄誉軍人学校における兵士の生活」、笹川裕史編『現地資料が語る基層社会像―20世紀中葉東アジアの戦争と戦後』汲古書院、2020年、31－62頁。
[54]王彩霞『抗日戦争時期陝甘寧辺区労模運動研究』中国社会科学出版社、2014年、28－30頁。
[55]岳謙厚は1943年11月に陝甘寧辺区に開かれた労働英雄大会が中共根拠地で最初のものであると指摘したが、晋西北では1942年に既に第一回の労働英雄大会を開催している（岳謙厚『辺区的革命（1937-1949）：華北及陝甘寧根拠地社会史論』社会科学文献出版社、2014年、106－107頁）。
[56]第一章参照。

大生産運動を展開するようになった。陝甘寧辺区の労働英雄には、晋西北の労働英雄運動の要素が見られる一方で、新たに変工互助が提起された。それは戦争で労働力、家畜、農具などが不足し、従来の小規模の私有経済では生産の発展を妨げるようになったためである。変工互助により、労働の効率と意欲が高まり、労働力を節約することができ、農業技術の向上と副業の発展にも役に立つと考えられた[57]。変工互助は以前から存在したが、民衆の自発的なものであり、政府の指導はなかった[58]。1943 年末の辺区第一回労働英雄大会において、毛沢東は改めて互助の重要性を強調した[59]。労働英雄の選抜においても互助が重要な条件の一つになった。1943 年 11 月 26 日から 12 月 16 日にかけて開催された第一回辺区労働英雄大会において、185 人の英雄が表彰され、呉満有、申長林、陳徳発、石明徳、劉玉厚が特等労働英雄に選ばれた。彼らの事績から見ると、互助が重要な部分の一つだと考えられる。

呉満有は延安県柳林区二郷呉家棗園出身である。呉家棗園では土地革命以前、僅か 4 戸であったが、綏遠、河南からの難民が移住し、1943 年には 18 戸、58 人に増えた。政府の呼びかけに応じて、呉家棗園は旧暦 2 月 25 日に村民大会を開き、22 人が出身地別で三つの変工隊を成立させることに合意した。呉満有が隊長を担当して各変工隊の問題を解決することとなった。呉満有の統計によると、1943 年に全村が 256.75 石の食糧を収め、1942 年の 141.5 石と比べると 125.55 石増加した。それは変工隊を組織して 140 垧の土地を開墾したからである。民衆が変工の長所を理解し、1944 年には変工を更に進め、男性労働力だけでなく、女性、役畜も全て変工隊に組織することを決定した[60]。

申長林は 1943 年春に政府の呼びかけに応じて民衆に変工を宣伝した。変工の長所と方法を説明すると、全村 19 戸の大多数が組織され、八つの変工隊が作られた[61]。陳徳発は 1943 年春に安塞県群衆大会に出席し、その場で英雄表彰を見ると、自分も英雄になろうと決

---

[57]陝甘寧辺区財政経済史編写組、陝西省檔案館編『抗日戦争時期陝甘寧辺区財政経済史料摘編』7 互助合作、陝西人民出版社、1981 年、30－40 頁。
[58]房成祥、黄兆安主編『陝甘寧辺区革命史』陝西師範大学出版社、1991 年、182－183 頁。
[59]毛沢東『組織起来』1949 年、1－7 頁。
[60]趙元明編『陝甘寧辺区的労働英雄』1946 年、128－137 頁。
[61]「模範党員和労働英雄申長林同志」『解放日報』1944 年 1 月 28 日、第 2 版。

意した。彼は自分の生産に尽力するだけでなく、14戸の労働力と役畜を四つの変工組に組織し、生産量を高めた[62]。

### 3．2　太岳根拠地の労働英雄運動

太岳根拠地では1944年以降、陝甘寧辺区の経験が紹介されて、変工互助を中心とした労働英雄の表彰が始まった。各地で代表を選出し、全区の大会を開く形式も陝甘寧辺区と同様に導入された。

1944年春、安沢県において労働英雄の選抜が始まり、趙金林が第一位の英雄に選ばれた。彼は七人家族であり、息子と長工を含めて三人の労働力があった。31畝の土地を所有し、1944年には更に19畝の荒地を開墾する予定であった。農作業以外に、紡織などの副業を積極的に進めていた。また、抗属、栄誉軍人、貧しい農民の生産を手伝い、模範的な互助組を作り上げた[63]。1944年3月24日、屯留県農会は第一回県代表大会を開き、農会代表210人が出席した。三日目の会議において葛河堂が生産競争を提起した[64]。沁県労働英雄郭満仁がその挑戦に応じ、葛河堂に挑戦書を送った。彼は自分の生産に尽力した他、互助組を組織し、貧しい農民の生産を手伝い、政府と軍隊を擁護し、公糧をきちんと納めようとしていた[65]。陽南五区においては、地域ごとに区レベルの労働英雄の選挙が行われた。女性労働英雄鄭小如が生産に尽力し、他人を助け、政府を擁護し、第一位の英雄に選ばれた。第二位は西交村の呉固生である。彼は豊富な農作業経験があるが、欠点が多くて特に人に対する接し方が下手なため、民衆に好まれず、互助組をもきちんと組織できなかった[66]。

1944年12月10日、四分区群英大会が開かれた。主席の郭専員は主席台に上がって遠くから来た英雄たちに敬意を表し、大会の目的は一年間の戦闘と生産の成果をまとめてその経験を交換することだと言及した。11日から13日にかけて各英雄と模範工作者がグループに分かれて自らの戦闘と生産の成果と経験を報告した。英雄の選

---

[62]「馬家溝和陳徳発」『解放日報』1944年1月2日、第2版。
[63]「経過全家討論後安澤状元擺擂台」『新華日報』太岳版、1944年4月1日、第3版。
[64]「農代大会上挑起生産比賽　葛河堂大戦衆英雄」『新華日報』太岳版、1944年4月13日、第2版。
[65]「沁県労働英雄郭満仁書信向葛河堂挑戦」『新華日報』太岳版、1944年5月4日、第2版。
[66]「陽南五区労働英雄競選熱烈」『新華日報』太岳版、1944年11月19日、第2版。

挙は 20 日に行われた。生産において、自主的結合と平等交換の原則によって大多数の民衆を互助組に組織し、政府と軍隊を支持し、法律と政策を守り、生産と戦闘を結合できる人が評価された。戦闘英雄は民衆の利益を守るために率先して敵と断固として戦い、規律を守って技術を向上させ、政府を支持し、戦闘と生産を結合すべきであるとされた。民衆に英雄を印象づけるため、英雄に戦闘と生産の事績を改めて紹介させた。詳細な質疑応答、議論、比較などを経て、主席団が民兵戦闘英雄李士生、労働互助英雄薛秉乾などを選出した[67]。

### 3.3 太岳区殺敵英雄・労働英雄・模範工作者第一回大会

太岳根拠地では一年間の戦闘と生産の成果を振り返り、経験をまとめ、生産と戦闘においてよい成績を収めた者を表彰し、全区労働英雄、戦闘英雄、模範工作者代表大会及び戦闘生産展覧会を定期的に行うと定めた。軍区と行署の規定によると、各種英雄代表は 300 人で、その内、労働英雄、戦闘英雄、模範工作者がそれぞれ 150 人、105 人、45 人とされた。展示内容は戦闘と農業生産を中心としていた[68]。戦闘英雄が全体の 3 分の 1 以上を占めており、陝甘寧辺区の経験を導入しながらも、前線の独自性を維持していることがわかる。

1945 年元旦に太岳区殺敵英雄・労働英雄・模範工作者第一回大会及び太岳区戦績生産展覧大会が開幕した。『新華日報』太岳版は、大会の様子を以下のように伝えている。英雄模範 254 人が出席し、一年間の成績を総括してその経験を宣伝した上で、今年の仕事を熱心に議論した。会場の前に白銀の円形アーチが立ち、左上には木彫りの騎馬姿の勇ましい殺敵英雄が見られ、右上には鋤を担いで大きな牛を駆る農民が微笑んでいた。それらは英雄たちの偉大な功績の永遠不滅を象徴していた。アーチをくぐると、毛沢東の大きな肖像画がすぐに目に入った。横には呉満有の像が掛けられていた。会場の中央に中華民国の国旗が高く掲げられている。主席台の上部にスターリン、毛沢東、朱徳などの指導者の大きな肖像画が見られ、その脇に民兵英雄と労働英雄の色鮮やかな版画の肖像画が飾られていた。主席台の左右には「労働者と農民は世界の創造者である」、「労働者は社会の主人である」という大きな対聯が書かれていた。

---

[67]「四分区群英会慎重選挙」『新華日報』太岳版、1945 年 1 月 1 日、第 2 版。
[68]「検閲一年生産戦闘成績　本区定期召開群英大会」『新華日報』太岳版、1944 年 11 月 1 日、第 2 版。

会場には大勢の人が集まり、その興奮と熱気は隅々まで行き渡っていた。12時になると太鼓と音楽に合わせて英雄たちが会場に入った。牛主任が元旦を祝い、殺敵英雄、労働英雄及び模範工作者に敬意を表した。その後、英雄らが政府と軍隊への支持を表明し、生産と戦闘に尽力することを決意した[69]。十数日間の議論と交流を経て、1945年1月19日の午後、「群英榜」が街に掲げられた。殺敵英雄31人、農業労働英雄25人、女性労働英雄6人、模範抗属1人、擁軍模範1人、模範女性幹部1人など合計99人が選出され[70]、規定された人数を大幅に下回った。最後に、根拠地を拡大し、軍隊を訓練し、減租減息を実施し、民兵を発展し、組織してさらなる生産運動を展開する、という今年の任務が提起された[71]。

### 3.4 太岳根拠地の代表的な英雄

農業労働英雄に選ばれたのは薛秉乾、石振明、葛河堂などである。

石振明は元々河南省林県出身であり、煉瓦焼きを生業とし生活は貧しかった。1920年に旱魃に遭って家計が破綻し、山西省冀氏に辿り着き、妻と一緒に土地20畝を開墾して生活を維持し、1940年には浮山県に移住した。浮山県では、石振明は地主の荒地を借りて開墾し、20石の食糧を収穫し、小作料と国民政府軍への負担を納めると3石しか余らなかった。1941年に抗日政府が成立して減租減息を呼びかけ、民衆の一年間の税金を免除し、また新たに土地を開墾するとその土地の税金を徴収しないと決定した。石振明は土地25畝を開墾して食糧30石を収穫し、0.6石の公糧を納めた。1942年の時点において、石振明の村では、耕地が304畝、一年間の収穫量が135.2石であるため、1畝当たりの生産量が0.4石である。石振明の耕地では1畝当たりの生産量が1.2石であり、村の平均生産量の3倍となった。1943年になると、中共の減租減息政策を通じて、石振明は小作地として開墾した土地の所有権を手に入れ、生産意欲が更に高まった。1943年、1944年の二年間において、石振明は荒地を更に55畝開墾し、97石の食糧を収穫した。彼は1944年に9戸、18人を組織し、前年より食糧345石を増産した。石振明は県群英大会に第一

[69]「太岳軍区的空前盛典」『新華日報』太岳版、1945年1月11日、第1版。
[70]「金榜題名」『新華日報』太岳版、1945年1月21日、第1版。
[71]「群英大会連続三天総結去年成果提出今年任務」『新華日報』太岳版、1945年1月25日、第1版。

位の英雄に選ばれて牛一頭をもらい、村農会の執行委員を担っていた。1946年までに311戸（全村345戸、1,494人）が48個の互助組に組織された。これらは、男性互助組31個、241人、女性互助組17個、81人から成っていた。1945年の反攻と旱魃にも関わらず、自給自足が達成された[72]。葛河堂は1937年に河南林県から山西屯留に辿り着いた難民であり、生活は苦しかった。1943年の徹底的な減租政策によってようやく生活が改善されると、彼は積極的に増産の呼びかけに応じ、荒地を開墾したり肥料を施したりして生産を伸ばし、既に235畝の土地を所有する富裕中農になった。さらに土地を増やして人を雇い、富農になる可能性があった。また、彼は他人の生産を手伝って互助を組織し、互助大隊長を務めた。葛河堂の今後の発展の方向はまさに「呉満有式の富農の方向」であり、彼は自分の生産に尽力するだけでなく、互助を組織し、政府を擁護し、新民主主義社会の公民の模範であると報道された[73]。

57歳の韓金虎は民兵殺敵英雄に選ばれた。彼は趙城県出身であり、射撃の名手とされる。1944年10月3日、敵が××村（原文伏字）に拠点を建てようとした際、韓金虎は敵を撃ち殺して彼らの銃弾を奪い、翌日には近くの村に行って食料を探す日本兵を殺した。一ヶ月の間に彼は9人の日本兵を射殺し、敵の計画を破綻させた[74]。

趙金林(上述)、石振明、葛河堂の事績を見ると、三人とも陝甘寧辺区の労働英雄と同様に、互助を組織して全村の生産を促進したことがわかる。互助が英雄評価において一つ重要な基準だと考えられる。そして、他の根拠地と異なり、殺敵英雄が表彰されるのも太岳根拠地の特徴であり、1940年からの群衆英雄運動を継承したものだと思われる。

### 4. 群衆英雄運動の終束

1945年8月に日本が降伏し、日中戦争が終了した。その後、中共と国民政府との間には局地的な摩擦があったが、1946年6月まで一時的な平和を維持した。その時期において、中共は引き続き群衆英

[72]太岳行署編『発展新式富農経済向石振明看齊』1946年、6－12頁。
[73]「社論：向労働英雄葛河堂看齊」『新華日報』太岳版、1944年4月10日、第2版。
[74]「神銃手―「老套筒」」『新華日報』太岳版、1945年1月21日、第7版。

雄運動を行い、根拠地の建設に力を注いだ。

### 4．1　日中戦争後の英雄選抜

1945年元日に太岳区殺敵英雄・労働英雄・模範工作者第一回大会及び太岳区戦績生産展覧大会が開催され、石振明、葛河堂など代表的な英雄が選抜された。他の根拠地と異なり[75]、太岳根拠地では英雄により新しい英雄を育成する方法を採用した。

石振明は1945年に男女労働英雄10人を育成した。彼は減租減息運動の検査に参加し、実際の仕事において、民衆に奉仕できる積極分子を探し、「新英雄主義」の精神(民衆に奉仕する新しい時代の英雄の精神)を宣伝した。運動において、石振明は樊村の王徳栄、院頭村の胡徳林などを見出し、彼らとよく個別に話をして思想教育を行った。検査の終了後皆が互助組を組織して生産を始めた。王徳栄は樊村の互助大隊長に選ばれた。他の者も互助を組織して積極的に生産に参加した。彼らが問題にぶつかった時、石振明は彼らの代わりに問題を解決するのではなく、一緒に相談して解決方法を見つけ、実際の仕事を彼らに任せた。このようにして、新英雄の能力と威信を高め、よりよく民衆を組織して生産を推し進めた。石振明は民衆闘争において積極分子を探し、実際の仕事を通じて彼らの思想覚悟と能力を高め、春耕と夏鋤によい生産成果を収めたとされる[76]。

### 4．2　富農経済の提唱

1920年代後半以降のソビエト革命期、中共は中農、貧農の権益を擁護して地主富農の封建的搾取を排除する土地革命に着手した[77]。1930年代に深まる民族的危機に際して、中共は政策を変更し、1935年12月に「関於改変対付富農策略的決定」を発表して、富農を含めた農民統一戦線を形成すべきだと主張した[78]。翌年7月、中共は「関於土地政策的指示」を提出し、富農の土地に手を付けず、地主の土地を没収して必要な土地と生産資料を再び地主に配分すると決定した[79]。中共は富農経済を肯定しなかったが、その存在を認めたと考

---

[75]第一章参照。
[76]「石振明怎様培養新英雄」『太岳日報』1945年8月7日、第4版。
[77]「中華蘇維埃共和国土地法令」(1931年12月1日)前掲『中共中央文件選集』(7) 1931、777－781頁。
[78]「党中央関於改変対付富農策略的決定」(1935年12月6日) 同上書 (10) 1934-1935、583－588頁。
[79]「中央関於土地政策的指示」(1936年7月22日) 同上書 (11) 1936－1938、57－59頁。

えられる。1937年2月に中共は「中共中央給中国国民党三中全会電」を発表し、地主の土地没収の停止を宣言し、地主の存在も認められた[80]。

1940年代の陝甘寧辺区の労働英雄運動において、「呉満有の方向」が提起された。呉満有は1942年の時点に77垧の土地を所有して長工を雇い、中共の階級区分によると富農だと判断できる。その直後に「呉満有の方向」について疑問を提起した党員がいた。中共は呉満有が土地政策に恵まれて富農に上昇したが、彼が政府と軍隊を擁護して党員でもあり、従来の農民を搾取した富農と異なって「新富農」だと強調した。また、辺区全ての農民が生産に尽力し、雇農が貧農に、貧農が中農に、中農が富農に上昇することは発展の方向であり、いわゆる「呉満有の方向」だと指摘した[81]。中共が新富農経済を提唱していることが分かる。

太岳根拠地においても1944年に「呉満有式の富農の方向」として労働英雄葛河堂が表彰された。ただし、当時の葛河堂はまだ中農であり、後に土地を増やして手伝いを雇って富農に上昇できるとしている[82]。石振明は、1944年12月の報道で長工を雇っており、すでに富農であったことが指摘されているが、彼の顕彰の文脈は民衆に奉仕する「新英雄主義」というものであり、富農経営そのものが推奨されているわけではなかった。石振明の富農経営が大いに宣伝されるのは、1946年4月からであり、陝甘寧辺区と比べて遅れていた[83]。1944年には太岳根拠地において減租減息及びその検査が行われており、この間富農経済は十分に提唱されず[84]、戦後の平和な環境の中で、中共の方針が経済の発展に変更されたものと思われる。1946年の太岳区中央局生産会議では平和民主建設の段階に入り、生産の重要性が強調された。また、薄一波（晋冀魯豫中央局副書記）は新

---

[80]「中共中央給中国国民党三中全会電」（1937年2月10日）中央檔案館編『中国共産党関於西安事変檔案史料選編』中国檔案出版社、1997年、376頁。
[81]「関於呉満有方向問題」『解放日報』1943年3月15日、第1、2版。
[82]「社論　向労働英雄葛河堂看齊」『新華日報』太岳版、1944年4月10日、第1版。
[83]「石振明買地百多畝　雇長工三個変成富農」『新華日報』太岳版、1944年12月15日、第2版。
[84]「太岳区一九四五全区工作方針計画提綱」（1945年）、山西省史志研究院『太岳抗日根拠地重要文献選編』中央文献出版社、724－725頁。

富農経済を発展させると呼びかけた[85]。1946年4月23日の『新華日報』太岳版において、「走石振明的道路」という社論が掲載された。記事において、石振明は中共の政策の恩恵を受けて「翻身」(階級的圧迫から解放されること)できた農民であり、農民が豊になるよいモデルだと指摘した。また、同記事では、石振明式の富農は減租減息政策によって開墾地の所有権を手に入れ、互助を通じて収入を増やし、更に土地を購入し、その土地を経営するために人を雇う必要があり、それは農村新式資本主義であり、将来の発展方向であり、その発展方向は提唱されるべきである、と主張された[86]。

### 4.3 土地改革の始まり

1946年6月、第二次国共内戦が勃発すると、中共は民衆動員のために土地改革を本格化させ、同年5月4日に「関於土地問題的指示或関於清算減租及土地問題的指示」(以下、「五四指示」)を発表した。同指示は、富農の土地に手を付けず、工商業ブルジョア階級に反対せず、中小地主に一定の配慮を払い、中農を味方にすることが提起されており、穏健な政策だといえる。しかし、劉少奇が起草した「五四指示」に対して毛沢東は不満を表した。毛沢東は、左傾政策の採用によって統一戦線に悪影響を与えるという劉少奇の憂慮を批判し、民衆を動員するために土地を均分しても構わないと指摘した。薄一波はその真意を理解して、9月下旬に開かれた幹部会議において、闘争果実の分配が不合理で富農路線だと批判し、「翻身大検査」を展開した。それ以降の土地改革において、「五四指示」の規定を超えて富農の土地も分配された[87]。このような状況下、8月以降の『新華日報』太岳版では新富農の宣伝がなくなり、土地改革に重心を変更し、群衆英雄運動にも言及されなくなった。

---

[85]「太岳区1946年生産工作方針与計画」(1946年)太岳革命根拠地農業史編写組『太岳革命根拠地農業史資料選編』山西科学技術出版社、1991年、282－288頁。

[86]「社論　走石振明的道路」『新華日報』太岳版、1946年4月23日、第1版。

[87]智効民『劉少奇与晋綏土改』秀威資訊科技、2008年、49－56頁。中共の1933年の文件によると、搾取収入が年間総収入の15%以上(特殊な事情があれば30%)を占める場合には富農であると規定していた(香港新華分社編『怎様分析階級』中国出版社、1949年、1－9頁)。薄一波が闘争果実の分配が不合理であることを富農路線であると指摘したのは不可解であるが、彼は意図的に富農の定義を曖昧にすることで富農経済の提唱を棚上げしたのではないかと考えられる。

## ５． まとめ

晋西北より不安定な状況にあった太岳根拠地の英雄運動は、陝甘寧、晋西北の二つの根拠地と比べて、群衆抗日英雄が重視されていた。1940 年の掃蕩において、民兵であった薬炎明は一人の日本兵を殺して殺敵英雄と評価され、薬炎明運動が展開された。薬炎明式の英雄は片手に鋤、もう片手に銃を持ち、揺るがず勇敢に根拠地を守る群衆英雄であり、農作業に従事するのみならず、必要な時に敵と戦うことが求められた。工業においても薬炎明式の労働者英雄が奨励されていた。1945 年元日に太岳区殺敵英雄・労働英雄・模範工作者第一回大会及び太岳区戦績生産展覧大会が開催され、31 人の殺敵英雄が表彰された。厳しい軍事状況に直面し、太岳根拠地では生産の発展を重視するのみならず、勇敢に敵と戦う抗日英雄が評価された。

また、女性が一部の県の区レベルで第一位の労働英雄に選ばれるなど、女性労働英雄の活躍が重視され、ゲリラ戦への協力が顕彰されることもあった。陝甘寧辺区では、1938 年に先駆的に女性の農業労働英雄の顕彰が開始されており、1940 年になると、政府、学校などの公的機関の女性が表彰する対象となり、農業における女性労働英雄が見られなくなった。その原因は中共が女性の生理的差異を配慮し始め、彼女らが開墾のような重い肉体労働でなく、室内の仕事を任されたという女性運動の方針の変更にあると考えられる。それに対して、太岳では男性労働力の減少により、女性が農業に従事せざるを得ないという状況があり、女性の農業参加が顕彰されていた。また、前線のため、女性のゲリラ戦の協力も評価された。

従来の研究の多くは 1943 年以降の大生産運動を神格化する毛沢東を中心とした歴史観の影響により、初期の延安における女性労働の重視や前線における群衆英雄運動を根拠地全体の運動の中に位置づけることができなかった。戦時動員が女性の社会進出を促進することは、第一次世界大戦以降の先進資本主義国において認められるが[88]、中共根拠地においてそれは男性に代わって女性が農作業やそ

[88]杉村使乃「工場と戦場における女性―第二次世界大戦下のイギリスにおける女性の戦時奉仕」『敬和学園大学研究紀要』（15）2006 年、167－187 頁、林田敏子『戦う女、戦えない女―第一次世界大戦期のジェンダーとセクシュアリティ』人文書院、2013 年、加納実紀代『女たちの〈銃後〉』筑摩書房、1987 年。

の他の生産に従事して戦争を支えるという形で進行したといえる。陝甘寧では 1940 年代から女性労働を室内や家庭に位置づけながら組織する方向へと転換したが、太岳では農村での男性労働力の不足によって農業への組織化が進展した。共和国において全面的に展開する女性の農業労働への組織化は、日中戦争期の戦時動員の経験を基礎として定着していったと考えられる。総じて、女性政策は実情に従って変化しており、中共の実用主義的な対応を反映したと考えられる。

女性だけでなく、児童などの社会的弱者が生産に動員され、前線地域である太岳根拠地はまさに全民抗戦の様相を呈した。1943 年に陝甘寧辺区は変工互助を中心として労働英雄運動を展開し、その影響を受けて太岳根拠地も労働英雄の互助を表彰し、延安の手法を導入した。

要するに、太岳根拠地の群衆英雄運動は陝甘寧辺区と異なり自らの特徴がある。1940 年から 1943 年にかけて生産を発展させるために労働英雄の表彰も行われたが、抗日英雄である薬炎明運動を展開して全民抗戦を呼びかけた。1944 年になると、延安の手法を導入し、陝甘寧辺区の労働英雄運動と合流したが、独自の特徴も維持し続けた。また、太岳根拠地において確認された、抗属、栄誉軍人といった弱者の模範、革命の模範を奨励する運動方式は、共和国の労働模範の運動にも継承され、全国的な顕彰運動も展開されるようになっている[89]。このような継承関係は、延安大生産運動以前の前線の根拠地の経験も含む労働英雄運動の全体像を捉えることで理解することができるのである。

[89]「中央人民政府内務部関於評選烈属、軍属、革命残廃軍人、復員軍人模範及擁軍優属模範的指示」『人民日報』1952 年 7 月 23 日、第 1 版、「全国烈属、軍属、残廃軍人、復員軍人社会主義建設積極分子大会開幕」『人民日報』1956 年 11 月 6 日、第 1 版、「一心革命，勤労生産―記烈属労働模範高万紅」『人民日報』1950 年 9 月 23 日、第 6 版、「永遠做労働人民的好児子―記一等革命残廃軍人徐英徳的模範事跡」『人民日報』1952 年 12 月 20 日、第 3 版。

## 第 3 章　スタハノフ運動・趙占魁運動と前線根拠地の模範労働者運動

前章までは農業に関する労働英雄運動について分析してきたが、本章では工場の模範労働者運動である陝甘寧辺区の趙占魁運動をその原型となったソ連のスタハノフ運動とを比較した上で、更に前線根拠地の労働英雄の模範労働者運動との比較を行い、それぞれの特徴について考察したい。

### 1．　スタハノフ運動

スタハノフ運動は、1930 年代半ばから後半にかけて、労働模範スタハノフの名を冠して行われたソ連の労働生産競争運動である。1935 年 8 月 31 日、スタハノフは 6 時間の勤務で規定生産額の 13 倍にあたる 102 トンの石炭を採掘し、よく知られるようになった。スタハノフ運動の目的は、新しい技術と労働者を結びつけて、労働生産性を高め、生産量を増大させることであった。

#### 1．1　スタハノフ運動の背景

##### 1．1．1　国内背景

十月革命後に内戦が勃発すると、1918 年後半からソビエト政権は「戦時共産主義」政策の実施を決定し、経済において厳格な中央集権体制を推進した。その政策は軍事需要を満たしたが、民衆の生産意欲を低下させた。1921 年、戦争が終了し、レーニンは新経済政策を実施し、資本主義経済の存在を認め、生産性を向上させようとした。1926 年、新経済政策によって国民経済が回復した後、スターリンは工業化と農業集団化の実現を求め、5 ヵ年計画を推し進めた[1]。

1931 年 2 月、スターリンは「経済活動家の任務について」と題する演説を行い、特に労働者が技術を習得することの重要性を強調し、産業発展の流れに乗るためには技術の専門家にならなければならないと語った[2]。1935 年 5 月、スターリンは赤軍士官学校の卒業式に出席し、目下の主要課題は優れた幹部と熟練の技術を持つ労働者を養成することだと強調した[3]。スターリンは 2 つの演説を通じ、当時

---

[1]王愛珠編著『蘇聯東欧経済改革概論』復旦大学出版社、1989 年、10－13 頁。
[2]スターリン全集刊行会『スターリン全集』第 13 巻、大月書店、1954 年、58－59 頁。
[3]「クレームリ宮殿における赤軍大学卒業式での演説」（1935 年 5 月 4 日）スターリン全集刊行会『レーニン主義の諸問題』大月書店、1953 年、694－701 頁。

のソ連が社会主義建設において直面していた顕著な問題、すなわち先進的な技術を持つ労働者の不足を指摘した。第1次5ヵ年計画では、約45万人の労働者や農民が4年制の工場訓練学校を卒業したが、そのほとんどが高等技術機関あるいは行政職に就いたりして第一線の熟練労働者が深刻に不足していた[4]。このような状況では、労働者の技術を全面的に引き上げる大衆運動が特に必要であると認識された。

### 1．1．2 国際背景

十月革命後、ソ連は世界で唯一の社会主義国であり、資本主義国家から孤立していた。その厳しい状況に直面し、ソ連は経済の発展と防衛力の構築を急がなければならなかった。また、1920年代後半から1930年代前半にかけて、資本主義世界は深刻な経済危機に見舞われ、先進資本主義諸国は資本、製品、人材の余剰から脱却するために、技術や資本の海外輸出を必要とするようになった。ソ連の工業発展に必要な機械設備の多くは、アメリカから供給された。1929年から1930年にかけて、36州の数百の会社がソ連の注文品の製造に携わった。1931年、ソ連が購入したアメリカ製の機械設備は、その輸出総額の約50%を占めていた[5]。第1次5ヵ年計画の終了まで、ソ連は輸入された機械設備をもとに、ほとんどの重要な分野で自立した企業を育成し、工業化の基礎を築いたのである。しかし、ソ連の労働者の技術が低すぎ、輸入された機器を効率的に扱えないという新たな問題が出てきた[6]。同時に、経済危機が広がり、ファシスト勢力が拡大していた。それに対して、ソ連は次第に警戒を強めていった。スターリンは、「党は戦争が近づき、重工業がなければ国を守れないことを知っていたので、[労働競争による工業化の推進に]早く取り掛からなければならなかった」([ ]内は筆者註、以下同様)と1946年に回想している[7]。

---

[4]Lewis H.Siegelbaum, *Stakhanovism and the Politics of Productivity in the USSR 1935-1941*, Cambridge University Press,1990, p.21.
[5]苑秀麗「国際要素対斯大林社会主義建設理論与実践的影響」『馬克思主義研究』2015年第2期。
[6]Antony C.Sutton著、安岡訳校『西方技術与蘇聯経済的発展：1930-1945』中国社会科学出版社、1980年、470頁。
[7]「モスクワ市スターリン選挙区選挙人の選挙前集会での演説」(1946年2月9日)スターリン全集刊行会『スターリン戦後著作集』大月書店、1965年、27頁。

## １．２　スタハノフ運動の概況

スタハノフ運動の概況について、ルイス･H・シーゲルバウムの著作[8]に基づいて以下に叙述する。

1935 年 9 月 1 日、『プラウダ』は最後のページに、スタハノフという炭鉱労働者が 6 時間の勤務で 102 トンの石炭を採掘して 200 ルーブルを得たという短い記事を掲載したが、これは鉱山全体の 1 日の生産量の 10%に相当するものであった。この一見短いニュースが、スタハノフ運動の端緒となった。

スタハノフが記録を破る以前は、中央イルミノフ炭鉱の業績は悪く、与えられた日産 1,000―1,100 トンの炭鉱生産目標を達成できないことがしばしばあった。そこで、1935 年 8 月 23 日、鉱山の党委員会は、後進性を克服し、年間計画を 1 ヵ月前倒しで完成させることを目的として、労働競争を開始することを決定した。しかし、このキャンペーンは大きな変化をもたらすことができなかった。党の組織者（Party organizer）のペトロフとニカノール東支部の責任者(the supervisor of the Nikanor-East section)のマシロフは、8 月 29 日の夜、スタハノフの自宅を訪れた。スタハノフ自身は彼が選ばれた理由がよくわからなかったが、前回の労働競争で最も優れた成果をあげたのではないかと後に回想している。その際、スタハノフが、混雑した作業環境、断続的に供給される圧縮空気など、生産に支障をきたす悪条件を説明すると、2 人はすぐに「最も理想的な作業環境を整えるためにベストを尽くす」と言い、スタハノフは新記録への挑戦を承諾した[9]。8 月 30 日の夜 10 時、スタハノフは、マシロフ、ペトロフと一人の新聞編集者、それに 2 人の助手がいる中、あらかじめ用意した環境で作業を開始した。それから 5 時間 45 分、スタハノフは休憩せず、100 トン以上(普通、1 シフトは 8 人、シフトごとの採掘量は 52 トン)の石炭を採掘し、200 ルーブルを得た。8 月 31 日朝 6 時、ペトロフは特別会議を開き、スタハノフが政治的に大きな意味を持つ世界記録を打ち立てたと語った。それは、スターリンが幹部に対して行った、年次計画を無条件で前倒しで終了させるという指示を実行するための最善の方法であった[10]。スタ

---

[8]Lewis H.Siegelbaum, *Op.cit.*
[9]Lewis H.Siegelbaum, *Ibid*, pp.68-69.
[10]Lewis H.Siegelbaum, *Ibid*, pp.69-71.

ハノフが記録を更新した後、彼の名前は鉱山の栄誉名簿に書き込まれ、アパートが割り当てられた。快適で便利な設備がすべて整っていた。さらに、炭鉱連合会は余暇の条件も改善し、彼と妻には映画館、労働者クラブ、リゾート施設の入場券が与えられた。同時に『プラウダ』は、スタハノフの実績を伝える記事を連載し、9 月 1 日にスタハノフに関する記事を巻末に掲載した後、6 日には「社会主義のヘラクレス：ドンバスの炭鉱夫ディカーノフとスタハノフ」と題する詳細な記事を第 1 面のトップで掲載した。8 日、『プラウダ』は「個人競争から群衆運動へ」と題する記事を掲載し、11 日、初めてスタハノフ運動という言葉を使った[11]。それから数週間、スタハノフ運動は、各産業へと広がっていった[12]。

### 1．3　スタハノフ運動の動員手法

ソ連の成立初期、レーニンは出来高払制を導入し、労働者の給与が生産成果と連動するようにする必要性を主張したが、内戦と外国の介入により、労働報酬は基本的に現物支給であったため、その制度の導入は非常に困難であった。それにもかかわらず、1926 年には既に 60％の労働者が出来高払いで給与をもらうようになった。この時期、出来払制は集団ごとの生産量を基準に、限定的に導入され、その形も完璧とは言い難かった[13]。スタハノフ運動において、集団ではなく、個人の業績による出来高払制の実施範囲はさらに拡大され、労働者を動員していた[14]。また、各種の奨励制度が採用された。例えば、生産ノルマの 1.1 倍を達成した場合、労働者は 2 倍の報酬を受け取り、1.1 倍を上回れば、給与が 3 倍になる[15]。物質的な給与のみならず、スタハノフ運動に大きく貢献した人に「社会主義労働英雄」などの称号が与えられた[16]。

スタハノフ労働者に奨励を与えた一方、スタハノフ運動に対する不満を持ち、運動の展開を妨害した者は処罰された。スタハノフ運動の展開につれ、ほとんどの工場で生産割当が大幅に引き上げられ、

---

[11]Lewis H.Siegelbaum, *Ibid*, pp.71-73.
[12]Lewis H.Siegelbaum, *Ibid*, pp.76-78.
[13]蘇聯部長会議国家労働工資委員会編、洛東渠訳『蘇聯労働与工資』商務印書館、1977 年、294 頁。
[14]同上書、295 頁。
[15]Lewis H.Siegelbaum, *Op. cit*, p.89.
[16]田雨「斯達漢諾夫運動：基於政治動員視角的分析」華東師範大学修士論文、2016 年、26 頁。

労働者の間に不満が噴出した。各地でスタハノフ労働者を攻撃する事件が起こったが、運動の展開を確保するため、スタハノフ運動に抵抗した者は反革命と見なされた[17]。

### 1．4　スタハノフ運動の影響

宣伝と動員を通じて、スタハノフ運動は各地、各領域で展開された。1935 年末から 1936 年にかけて、モスクワでは各領域のスタハノフ労働者を集め、彼らの経験と技術を交流する会議が数回開かれた。スタハノフ運動は第二次五ヵ年計画を前倒しで完成させる鍵となった。運動の展開に伴い、労働者の技術が徐々に高まり、生産効率が向上し、工業化が実現していった[18]。

しかし、スタハノフ労働者は、「労働者貴族」へと移行し始め、一般労働者の待遇と大きな差があった[19]。また、有名なスタハノフ労働者たちは、それぞれの企業の給料表には載っていたが、現実にはもう普通の労働者と同じように働く必要はなく、むしろ彼らの存在は神聖なシンボルとなった[20]。

## 2．陝甘寧辺区の模範労働者

陝甘寧辺区でも、スタハノフ運動に倣い、労働英雄の奨励制度を設けた。

### 2．1　スタハノフ運動の受け入れ

1935 年 12 月、南京で出版された『蘇俄評論』では「蘇聯挙国若狂之斯泰哈諾夫運動」という文章が掲載された。その文章では、スタハノフ運動の流れが紹介され、成功の原因は分業だと指摘された[21]。翌年 4 月、スタハノフ運動と国民政府の国民経済建設運動を比較し、その経験を受け入れ、労働者の熱意を高めて経済建設を推し進めようという文章が発表された[22]。中共もスタハノフ運動に大きな関心を寄せていた。1936 年、後に『解放日報』の編集長を務めた艾思奇

---

[17]Lewis H.Siegelbaum, *Op. cit*, pp.202-204.
[18]周尚文、葉書宗、王斯徳『蘇聯興亡史』上海人民出版社、2002 年、285－288 頁。
[19]Lewis H.Siegelbaum, *Op. cit*, p.146.
[20]Lewis H.Siegelbaum, *Ibid*, p.183.
[21]「蘇聯挙国若狂之斯泰哈諾夫運動」『蘇俄評論』第 9 巻第 6 期、1935 年 12 月 16 日。
[22]張錫齢「従蘇聯的斯達漢諾夫運動説到中国国民経済建設運動」『前途』1936 年 4 月 16 日。

は「斯達哈諾夫為什麽工作得很好」という文章を発表し、主体性が仕事の成果を大きく変えると結論を下したが[23]、これは毛沢東が一貫して強調してきた主体性と一致するものである[24]。

1938年10月、『聯共（布）党史簡明教程』（*История Всесоюзной Коммунистической Партии (Большевиков): Краткий курс*）（以下、『教程』）が出版され、1939年初めに中国に伝えられた。『教程』では、スタハノフ運動が紹介された[25]。1939年5月20日、「在延安在職幹部教育動員大会上的講話」において、毛沢東は『教程』が在職幹部学習運動の一環だと提起した。1940年1月3日、中共中央書記処はマルクス・レーニン主義とともに、『教程』を幹部の学習科目に入れた。同年3月24日、中共中央は「中央関於在職幹部教育的指示」を発し、在職幹部を文化・理論水準に応じて甲、乙、丙、丁の4つに分類し、『教程』は甲類幹部の学習科目に分類された。また、乙、丙に分類された幹部は、対応する科目を修了後、甲類幹部の科目へ移行すると決定した。1939年5月から1941年3月まで、中共の高級幹部と中級幹部の大半が『教程』を学習した。1941年5月19日、延安幹部会議が開かれ、毛沢東は「改造我們的学習」の報告を行い、『教程』を高く評価した。また、毛沢東は同年9月10月の「反対主観主義和宗派主義」、翌年2月8日の「反対党八股」、3月30日「如何研究中共党史」などの整風運動に関する重要な講話において、『教程』を用いて主観主義、教条主義を反対し、ソ連のようにマルクス主義と中国革命の実践を結合させようと主張した[26]。このように整風運動の展開に伴い、スタハノフ運動は中共党内でよく知られるようになったと考えられる。陝甘寧辺区で展開された労働英雄運動が、スタハノフの名前を使用せず、趙占魁運動と称したことについて、艾思奇は民衆に身近な人を典型とし、より効果的であるから

[23]艾思奇「斯達哈諾夫為什麽工作得很好」『通俗文化』1936年。
[24]高海波「斯達漢諾夫運動与典型報道」『国際新聞界』2011年11月。
[25]聯共（布）中央特設委員会編『聯共（布）党史簡明教程』、1949年、410－418頁。
[26]朱宝強「毛沢東与『聯共（布）党史簡明教程』在中共党内的伝播」『社科縦横』2012年第1期（総第389期）下。引用元：「反対主観主義和宗派主義」（1941年9月10日）中共中央文献研究室編『毛沢東文集』第2巻、人民出版社、1993年、372－377頁、「反対党八股」（1942年2月8日）文風出版社編輯『整頓三風—二十二個文件』1946年、26－41頁、「如何研究中共党史」（1942年3月30日）前掲『毛沢東文集』第2巻、399－408頁。

と指摘している[27]。

### 2．2 陝甘寧辺区の労働英雄運動の背景

1940 年代に入り、国民政府は辺区への経済援助を中止した上に、軍事封鎖と経済封鎖を実施し、陝甘寧辺区は深刻な経済困難に直面していた[28]。農業生産の発展が最優先であったことは間違いないが、辺区は厳しい封鎖の中で、大量の工業製品も切実に必要とされていた。

ソビエト革命時期において、中共は既にソビエト区で様々な労働競争を行い、模範労働者を奨励していた[29]。1938 年初め、抗日軍政大学で「延安工人製造品競賽展覧会」が開かれ、辺区労働者の生産成績を紹介した。同時に、先進工場、合作社及び 147 人の労働者を表彰し、毛沢東は彼らを「国民経済建設の先鋒」と評価した[30]。翌年 5 月には、第一回工業展覧会が開催され、団体と個人の労働英雄の表彰が行われ、彼らの役割がより重視するようになった[31]。1941 年 3 月 25 日、辺区の公営工場はメーデーを迎えるために生産競争を開始し、模範労働者の条件を設けて 5 月 1 日に奨励大会を開く予定であった[32]。代表的な模範労働者は、趙占魁である。

### 2．3 趙占魁の発見

趙占魁は模範労働者の典型であり、「狄徳建事件」の混乱を処理する中で発見された。その経緯は以下の通りである。1940 年以降、陝甘寧辺区は深刻な財政難に陥り、多くの公営工場に影響を及ぼすことになった。1941 年末の物価は戦争前の 44.2 倍に上り、物価の上昇による労働者生活水準の低下を防ぐため、1941 年 9 月、公営工場では労働者に衣服、食事、住居を提供する以外に、技術的な熟練度により一定の金銭賃金を提供する賃金制度が採用された。しかし、

---

[27]崇基「新辦法」『解放日報』1944 年 2 月 29 日、第 2 版（崇基は艾思奇の筆名である）。
[28]陝甘寧辺区財政経済史編写組編『抗日戦争時期陝甘寧辺区財政経済史料摘編』（1）総論、1980 年、127－131 頁。
[29]「儀式与生産：陝甘寧辺区的労働模範運動」岳謙厚『辺区的革命（1937-1949）：華北及陝甘寧根拠地社会史論』社会科学文献出版社、2014 年、95－96 頁。
[30]正義「延安工人製造品競賽展覧会志」中国革命博物館編『解放区展覧会資料』文物出版社、1988 年、1－4 頁。
[31]「誰坐了飛機？」同上書、20－21 頁。
[32]「陝甘寧辺区総工会関於迎接“五一”生産大競賽的各項弁法」（1941 年 3 月）陝西省総工会工運史研究室編『陝甘寧辺区工人運動史料選編』上冊、工人出版社、1988 年、527－528 頁。

1942年5月5日から9日にかけ、辺区総工会は公営工場工会幹部会議を開き、「陝甘寧辺区戦時公営工廠集体合同準則」を採択し、元の賃金基準と労働契約を変更することを決定した。新たな契約では、「一日十時間労働、休日・記念日の代休なし[休日や記念日が週末と重なる場合、振替の休暇は取得できない]、労働者の技能・習熟度・仕事への熱意に応じて評価委員会が賃金を決め、私用休暇には無給」などの条項があり、労働者の理解と納得が得られると思われたが、予想外に労働者の業務怠慢事件が多発することになった[33]。

1942年6月16日、工会主任を務める狄徳建は新たな労働契約が労働者の利益に反したものだと批判し、一部の労働者を率いてストライキを行った。この事件は、辺区で混乱を引き起こした。中央職工運動委員会は農具廠に人を派遣し、話を聞いて事件を調査し、騒動を鎮静化させた。その中で、誠実に仕事に尽力している趙占魁が発見された[34]。

### 2.4 趙占魁運動の展開

趙占魁は山西省定襄県の貧しい農家に生まれ、12歳で二人の兄と一緒に見習いとして働いた。16歳の時に鉄の鍛造技術を学び、後に太原銅元廠、兵器工場で働き、日中戦争の勃発とともに西安に逃れた。1938年初め、安呉堡青年訓練班（以下、青訓班）が戦争に協力できる者を募集した際、趙占魁は応募して青訓班職員大隊に入学した。同年5月、彼は職員大隊とともに延安に移住し、抗日軍政大学（以下、抗大）第二大隊に入学し、12月に入党した。1939年初め、中共中央は延安橋児溝に労働者学校を設立し、抗大職員大隊の労働者のほとんどは労働者学校に異動させられた。1939年6月、趙占魁は辺区農具廠に勤務することになった。趙占魁は、溶鉄炉を管理する仕事を引き受けた。夏でも2,000度以上の溶鉄炉の前で石綿の上着を着て、一日中汗をかくという過酷な仕事だったが、その苦労や疲れに不満や余計な要求などは一切なかったという。趙占魁が一生懸命に働くのは、「自分の運命は共産党と革命と不可分である」とはっきり自覚していたからであり、彼は公営工場が革命の財産であり、

[33]朱鴻召『延安日常生活中的歴史（1937-1947)』広西師範大学、2007年、48－49頁。
[34]游正林「革命的労働倫理的興起：以陝甘寧辺区“趙占魁運動”為中心的考察」『社会』37（5)、2017年、105－138頁。

それを大切にする責任と義務があることを深く認識していたと宣伝された[35]。

『解放日報』の記者張鉄夫、穆青は農具廠を訪れ、工場長、趙占魁の同僚、見習い、近くの民衆などにインタビューし、趙占魁の長所を紹介して彼の仕事の苦労を述べ、趙占魁が勤勉な労働者の典型であると結論づけた。工場長は趙占魁が仕事に熱心し、革命に忠誠を示し、辺区労働者の模範となるものだと語った[36]。1942 年 9 月 11 日、『解放日報』に「向模範工人趙占魁学習」という社論が掲載され、趙占魁の優れた資質を要約し、趙占魁のような模範労働者が何千人も現れることが提唱された[37]。中共中央職工運動委員会委員の朱宝庭は農 具廠の奨励大会で、「ソ連にはスタハノフがいて、我々には趙占魁がいる。ソ連にはスタハノフ運動があり、我々も趙占魁運動を展開すべきである」と発言した[38]。

1942 年 10 月 12 日、辺区総工会は指示を発表し、趙占魁の勤勉さと労働態度に学び、困難を乗り越えるために趙占魁運動を展開しようと呼びかけた。指示では、第一に、この運動は労働者の思想を改造する思想教育運動であり、第二に、工場での整風運動と合わせ、模範労働者趙占魁に学び、第三に、事前に調査をして各工場の状況により模範労働者を探し、第四に、各工場が具体的な評価基準と奨励方法を作成し、第五に、全ての人を動員して趙占魁運動を熱狂的に行おうと指示した[39]。その後、各工場では趙占魁運動を広く展開した。振華製紙廠は、10 月 19 日から 31 日にかけて生産競争を行い、それを定期的な運動にしようとしていた[40]。新華廠は 11 月 22 日に創立三周年記念大会を開催し趙占魁運動の成果をまとめた。労働者らは公営工場が革命の財産であり、仕事が革命のためであることを認識し、休憩の時間を減らして仕事に集中して生産量が大幅に向上したという[41]。1943 年になると、農具廠では、係対係、個人対

---

[35]「労働英雄像　辺区工人的旗幟―趙占魁」趙元明編『陝甘寧辺区的労働英雄』大衆書店、1946 年、166－179 頁。
[36]「人們都在談説着趙占魁」『解放日報』1942 年 9 月 7 日、第 2 版。
[37]「向模範工人趙占魁学習」『解放日報』1942 年 9 月 11 日、第 1 版。
[38]「農具工廠奨励模範工人趙占魁」『解放日報』1942 年 9 月 29 日、第 2 版。
[39]「総工会号召開展趙占魁運動」『解放日報』1942 年 10 月 12 日、第 2 版。
[40]「響応趙占魁運動！」『解放日報』1942 年 10 月 23 日、第 2 版。
[41]「新華廠成立三周年　生産提高八十四倍」『解放日報』1942 年 11 月 23 日、第 2 版。

個人の生産競争が行われ、労働者がそれぞれ生産、行政管理、思想改造、学習の面から計画を立てて競争を展開した[42]。

趙占魁運動は広く展開されたが、問題点も多く存在した。ある工場幹部は趙占魁に学ぶ理由を労働者に説明せず、思想の改造に十分に注意を払っていなかった。また、工場の工会、党と行政は互いに協力できず、趙占魁運動のやり方がわからず、運動をうまく展開できなかった。1942 年末、辺区総工会は趙占魁の勤務態度に基づき、模範労働者の基準を設けた。その基準は以下の通りである。①工場を愛し、規律を厳守する。②積極的に働く。③生産量が多く、質が良い。④道具を大切にし、材料を節約する。⑤苦労する時は一番先に立ち、楽しむ時は一番最後に回る。⑥一生懸命学習し、人を助ける。⑦自分の欲望を抑えて公に奉仕し、民衆を団結させる。今後、各工場は趙占魁運動に対する誤解を正し、民衆によって模範労働者を選出し、彼らを運動の中心として生産を発展すべきだと指摘した[43]。

1943 年 3 月 1 日から 4 月 21 日にかけて、辺区で工場長連席会議が開催され、生産品の質を高めて浪費を減らすことなどが検討された。朱徳は生産を発展させるため、一番重要なのは労働者の思想を改造することだと指摘した[44]。会議後、各工場は仕事の点検を行い、指導と管理を改善し、整風運動を徹底的に行い、趙占魁運動が一層推進された[45]。1943 年 11 月 26 日、辺区で労働英雄と模範生産工作者大会が開かれ、趙占魁は特等労働英雄に選ばれ、主席台の前に彼の肖像画が飾られた[46]。大会では、「工場で多くの趙占魁運動者を創造しよう。全ての労働者は趙占魁、袁光華、李鳳蓮などの労働英雄に学び、より多く生産し、工場を大切にし、原材料を節約しよう」と強調された[47]。趙占魁運動は辺区工業の発展に弾みをつけ、同時に趙占魁のような模範的労働者が多く出現した。

---

[42]「願把我的標準提高一歩」『解放日報』1943 年 4 月 9 日、第 2 版。
[43]高長久「継続展開趙占魁運動」『解放日報』1942 年 12 月 22 日、第 1 版。
[44]「工廠廠長聯席会開幕」『解放日報』1943 年 3 月 3 日、第 1 版。
[45]「迎接“五一”労働節辺区工厂発動競賽」『解放日報』1943 年 3 月 25 日、第 2 版。
[46]「中国労働人民空前栄典，両大盛会昨隆重開幕」『解放日報』1943 年 11 月 27 日、第 1 版。
[47]「陝甘寧辺区第一届労働英雄代表大会宣言」『解放日報』1943 年 12 月 17 日、第 1 版。

## ２．５　模範女性労働者

女性の労働者英雄も現れた。24 歳の李鳳蓮は辺区被服廠で働き、1935 年から革命に参加していた。彼女は靖辺県四区二郷の沙家溝出身であり、家が貧しいため 13 歳の時に金持ちの家に売られ、苦しい生活を送った。李鳳蓮は虐待に耐えられず、1935 年の土地革命の際に、紅軍の宣伝を聞いて革命に参加するようになった。1936 年後半、李鳳蓮は被服廠に派遣され、仕事がよくできた。彼女は熱心に仕事をしただけでなく、学習にも積極的に取り組み、時事問題や政治の授業も喜んで聞いていた。1937 年初め、李鳳蓮は被服廠の労働者と結婚し、夫に対して自分の仕事を手伝い、文化を向上させるために協力してほしいと話した。同年 6 月、彼女は夫の職場の移動に伴い、中央印刷廠に派遣された。翌年彼女は入党し、印刷廠の仕事を完成したのみならず、週末に荒地を開墾し、1940 年の国際婦人デーにおいて「模範婦女」として奨励された。1942 年 1 月、李鳳蓮は再び被服廠に派遣され、積極的に趙占魁運動に参加して生産を推進した。また、彼女は行政組長、党支部婦女幹事と工会の婦女幹事も務めていた。1943 年春、李鳳蓮は辺区一級模範工場の模範労働者に選ばれ、奨励金 2,000 元を得て、その後、辺区労働英雄と模範工作者大会の代表にも選出された。

李鳳連の特徴と業績は以下のとおりである。第一に、彼女は確固たる革命意志を持ち、規律を厳守し、一生懸命に働いている。第二に、生産の量と質が最も高く、原材料を節約し、生産用具を大切にしている。第三に、他人の生産を促し、「二流子」（正業に就かずぶらぶらしている者）を改造している。第四に、賢妻良母と言える。第五に、「反特務闘争」に積極的に参加している[48]。

李鳳蓮は辺区労働英雄と模範工作者大会で生産計画を立て、計画では自分の生産に尽力して他人の生産を促すのみならず、夫婦喧嘩を調停し、労働者の団結させるための教育を強化することも含まれていた。女性の家族親睦における役割も重視されていたものと思われる。

[48]「女工労働英雄李鳳蓮」『解放日報』1944 年 1 月 29 日、第 2 版。

## ２．６　陝甘寧辺区の模範労働者の特徴

表 3－1:陝甘寧辺区の模範労働者

| 名前 | 所属 | 英雄に選ばれた理由 |
|---|---|---|
| ①趙占魁 | 辺区農具廠 | 一貫性があり、前向きで責任感があり、正直で勤勉、一生懸命で自己犠牲的である。 |
| ②佟玉新 | 中央印刷廠 | 石炭を節約し、一人で二人分の仕事を担当し、個人の得失などてんびんにかけない。 |
| ③範耀武（党員） | 光華印刷廠 | 党の指示に従い、党の利益を優先し、仕事に尽力し、私心を捨てて公のために尽くす。 |
| ④袁広発（栄誉軍人（傷痍軍人）） | 難民紡織廠 | 工場の行政管理を改善し、労働力を合理的に配置する。 |
| ⑤閻吉 | 新塞工廠 | 公共の物を大切にし、他人を助け、仕事に尽力し、同僚にやさしい（「階級友愛」）。 |
| ⑥李鳳蓮（女性、党員） | 辺区被服廠 | 自分の生産に尽力し、他人の生産を促し、革命に忠誠を示し、規律を厳守し、賢妻良母である。 |
| ⑦曹国興 | 中央印刷廠 | 生産に努力し、原材料を節約し、個人の得失に拘らず、技術を積極的に学習する。 |
| ⑧蔡自挙 | 炭鉱 | 公のために自分の利益を犠牲にし、特務を粛清し、生産に尽力する。 |
| ⑨馮振僧 | 八路軍前進部の修械所 | 革命に忠誠であり、「公家」の利益を優先し、学習にも積極的である。 |
| ⑩瀋鴻 | 工芸実習工廠 | 謙遜であり、技術的な創造性があり、実際情況に応じて仕事をする。 |
| ⑪孫雲龍 | 辺区工廠第七股 | 技術が高く、原材料を節約し、よく給料を工場のために供出する。 |

①「向模範工人趙占魁学習」『解放日報』1942 年 9 月 11 日、第 1 版。②「我們的英雄―佟玉新」陝西省総工会工運史研究室編『陝甘寧辺区工人運

動史料選編』下冊、工人出版社、1988年、137－140頁。③「模範工人範耀武」、同上書、140－144頁。④「特等労働英雄袁広発」、同上書、144－153頁。⑤「労働英雄閻吉自述」、同上書、154－156頁。⑥「女工労働英雄李鳳蓮」、同上書、157－165頁。⑦「青工労働英雄曹国興」、同上書、165－169頁。⑧「炭工労働英雄蔡自挙」、同上書、170－178頁。⑨「工厂模範馮振僧」、同上書、178－185頁。⑩「模範工程師瀋鴻」、同上書、194－196頁。⑪「労働英雄孫雲龍」、同上書、198－200頁。

表3-1を見ればわかるように、模範労働者のほとんどが公営工場の労働者であり、唯一私営の炭鉱で働いていた蔡自挙も公のために自己犠牲を行うという道徳が評価されていた。公営工場の労働者が模範のほとんどを占めた原因は、辺区には私営工場が元々少なく、また私営工場の労働者にとって公正無私という基準が高すぎたからではないかと思われる。

今堀誠二は農業部門において、農民らが富農を目指して「深耕細作」をして労働力を無限に投入し、密度の高い労働を無償でつぎ込む状況や、工業部門においても病気になっても休憩せず、一日十数時間を費やして仕事に集中する状況を、アジア的労働と指摘した[49]。しかし、農民が富農になって豊かな生活を過ごせるようにという目標によって働き、奨励において物質的なインセンティブを享受していたのに対して、模範労働者には物質的なインセンティブより、革命勝利のために自己犠牲に徹して一生懸命に働くことが求められていたのである[50]。

### 3. 晋西北と太岳の模範労働者

晋西北では、1941年に以下のような労働者英雄（「工人英雄」）の条件を公表した。①政府と工会の呼びかけに応じ、具体的な成果を上げる。②仕事に対して高い熱意を示し、それによって他の労働者の生産性を高める。③生産量と質が他人を超える。④新しい生産方法の考案や生産用具の改善ができる。⑤生産用具を大切にし、原材料を節約する。⑥工場規律を守る[51]。以上から見ると、1941年の晋西北の労働者英雄の条件は、規律の遵守、仕事への熱意、増産、生産用具の愛護などについては、後の趙占魁運動と共通している。し

[49]今堀誠二『中国の民衆と権力』勁草書房、1973年、240頁、309－310頁。
[50]朱徳「建設革命家務」『解放日報』1943年5月1日、第1版。
[51]「行署抗聯指示各級為創造三百労働英雄而奮闘」『抗戦日報』1941年5月14日、第3版。

かし、趙占魁運動の模範の基準にはない、新しい生産方法の考案という技術改良に関する条件が上げられている一方で、趙占魁運動の特徴である自己犠牲や公正無私という道徳は求められなかった。晋西北では 1943 年から、陝甘寧の趙占魁運動の経験を受け入れ、張秋鳳という模範労働者が出現し、張秋鳳運動が展開された。

張秋鳳は 1913 年、河北省元氏県に生まれ、1931 年、借金とりから逃げて山西省にたどり着き、太原のある工場で労働者として働いた。1937 年、彼は山西犠牲救国同盟会（以下、犠盟会）に参加し、9 月に山西工人武装自衛総隊に入り、副班長を担当した。太原陥落後、彼は 40 回以上のゲリラ戦の戦闘に参加し、1938 年の冬に部隊修械所に移り、鋳造の技術を学んだ。1942 年、張秋鳳は既に熟練した鋳造労働者であり、修械所の工会委員も 3 期連続で務めた。彼は技術革新に積極的に取り組み、原材料を節約し、スピードを上げ、製造技術を改善して生産量を高めた。同年 12 月、彼は晋西北第二回労働英雄大会において、労働者特等労働英雄として表彰された[52]。『晋綏日報』では趙占魁運動に言及されないが、英雄の選抜にあたり、「晋西北の趙占魁を選ぼう」と呼びかけられている[53]。

1943 年 4 月 29 日、『晋綏日報』では「開展張秋鳳運動」という社論が掲載され、張秋鳳の特徴と業績が以下のようにまとめられた。第一に、同じ条件下で、生産量は平均を 20%も上回り、品質も平均以上である。第二に、 道具を大切にし、原材料を節約する。 第三に、規律を厳守し、休暇を取らず、遅刻や早退をせず、無報酬の仕事も多く、一貫して仕事に尽力する。第四に、根気よく見習いを指導し、熱心に技術の改良を研究し、途切れることなく文化を学びながら進歩に努めている[54]。張秋鳳は労働者の模範とされ、すべての労働者は張秋鳳をモデルに努力しなければならないと呼びかけられた[55]。

晋西北では、1943 年 5 月から整風運動が展開され、張秋鳳運動とともに、労働者らが自身の誤りの告白と内省を始めた[56]。同年 5 月

---

[52]「工人労働英雄張秋鳳」『晋綏日報』1942 年 12 月 24 日、第 4 版。
[53]「対生産展覧暨労働英雄検閲大会的希望」『晋綏日報』1942 年 12 月 10 日、第 1 版。
[54]「開展張秋鳳運動」『晋綏日報』1943 年 4 月 29 日、第 1 版。
[55]「記念五一慶祝労働英雄張秋鳳」『晋綏日報』1943 年 5 月 1 日、第 1 版。
[56]晋綏辺区財政経済史編写組編『晋綏辺区財政経済史資料選編』（工業編）、山西人民出版社、77 頁。

2 日、張秋鳳運動座談会が開催された。会議は、労働者一人ひとりが自分の労働態度を見直すことに重点を置き、整風の精神で行われた。まず、模範労働者である張秋鳳が、自らの歴史を報告し、労働態度の変更の過程を振り返った。その後、各工場の労働者がグループに分けられ、これまでの工場に対する認識、生産、学習、見習いの指導に対する考え方、張秋鳳からどのように学ぼうとしているのかなどを、自発的に会議で発言した[57]。洪濤印刷廠は、張秋鳳座談会の精神を伝えるため、すべての労働者を集めて会議を開いた。この伝達により、工場全体が告白と内省に入り、労働者は自分の出身、根拠地の工場に対するかつての間違った認識、自分の欠点などを隠さずに披露したのである[58]。以上のことから見ると、張秋鳳運動は趙占魁運動と同様に、整風運動の一環として展開され、「正しい」労働態度が強調され、延安の経験を受け入れたと考えられる。

1944 年 1 月、晋西北では第三回労働英雄大会が開かれ、農民特等労働英雄 5 人、甲等 16 人、乙等 10 人、合計 31 人、労働者特等労働英雄 3 人、甲等 9 人、合計 12 人、女性特等労働英雄 3 人、甲等 2 人、合計 5 人が表彰された。労働者英雄は全体の 25%を占めた[59]。

太岳でも模範労働者が表彰されたが、1945 年 1 月に開かれた太岳区殺敵英雄・労働英雄・模範工作者第一回大会及び太岳区戦績生産展覧大会において、労働英雄 150 人が奨励され、その中で工場労働者は車三千、王才義、郭高太、宋子斌のわずか 4 人であった[60]。不安定な太岳では、まともな工業が存在していなかったと考えられる。また、『太岳日報』では模範労働者についての紹介が少なく、その実態は十分に明らかにできない。

前線の軍需産業の部門においては、精神性を重視する一方で、戦争の緊迫性によって技術革新が強調されていた。晋西北では趙占魁運動の方針の導入以降も、技術改良に関わる模範が多く選出された。張秋鳳は部隊修械所で働き、技術革新に積極的に取り組んだことが、模範労働者に評価された一つの理由だと考えられる。それに対して、

---

[57]「大会挙行張秋鳳運動座談会　各廠工人深刻領悟了正確的労働態度」『晋綏日報』1943 年 5 月 8 日、第 2 版。
[58]「張秋鳳運動普遍展開」『晋綏日報』1943 年 6 月 15 日、第 2 版。
[59]「労働英雄大会挙行盛大閉幕典礼」『晋綏日報』1944 年 1 月 22 日、第 2 版。
[60]「英雄奨品一覧」『新華日報（太岳版）』1945 年 1 月 25 日、第 4 版。

趙占魁には技術に関する功績が強調されていない。また、表 3－2 に示すように、晋西北の軍需産業部門の労働英雄が全て技術改良に関わる功績を上げているのに対して、陝甘寧の模範労働者には、技術に関する功績のない者が半数近く存在する。

**表 3－2:晋西北と陝甘寧軍需産業部門の労働英雄**

| 晋西北 | 陝甘寧 |
|---|---|
| ① 鄧立三：炉室の改良、換気量の増加などにおいて、5 万キロの鉄くずを活用し、工業部特等労働功臣と評価された。 | a.王河海:火薬の生産を確保し、1940 年から 1944 年の間に 4 回も労働英雄と学習模範と評価された。 |
| ② 劉銀河：銃身、弾倉の溝加工を改善し、原材料の節約を実現し、1944 年 5 月 1 日に「生産戦線上的英雄」の表彰状が与えられた。 | b.華寿俊：馬蘭芝紙を発明し、辺区の紙供給問題を解決し、1944 年 5 月に甲等労働英雄と評価された。 |
| ③ 呉奎龍：爆弾投擲機の開発と改良を行い、晋綏辺区労働英雄と評価された。 | c.劉考生：他人より生産量と質が良く、1944 年 5 月に特等労働英雄と評価された。 |
| ④ 趙挙進：機械を改良し、生産率を 60%向上し、1944 年に晋綏辺区労働英雄と評価された。 | d.許雲峰:一生懸命に働き、1944 年 5 月に甲等労働英雄と評価された。 |
| | e.陳振夏：労働者を団結させ、困難を克服し、戦争を支援した。1944 年に特等労働英雄に選ばれた。 |
| | f.周鑒祥、郝希英：工場長、1944 年 5 月に甲等労働英雄と評価された。 |
| | g.銭志道：辺区基層化学工業の創始者、1944 年に辺区特等労働英雄に選ばれた。 |

① 薛幸福主編『晋綏根拠地軍工史料』1990年、305頁。②同上書、308－309頁。③同上書、310頁。④同上書、314頁。
a. 薛幸福主編『陝甘寧辺区』兵器工業出版社、1990年、210頁。b.同上書、211頁。c.同上書、212頁。d.同上書、214頁。e.同上書、218頁。f.同上書、218－219頁。g.同上書、220頁。

太岳のデータが確認できなかったため、隣接の太行区の史料を取り上げる。晋冀魯豫根拠地の太行区（図序－3）では、豊富な鉱物資源を有するため、軍需産業の発展に適応したと考えられる。1939年6月、軍工部が成立され、技術労働者、知識人を集め、その後の技術革新の土台を作った。1941年5月、軍工部は太行工業学校を設立し、機械、生産管理、化学三つの専門を開設し、技術人材の育成に努めた[61]。その間、劉貴福、孫永富、楊鴻章、張浩、教逢春などの労働英雄が出現した（表3－2）。

**表3－3:太行区軍需産業部門の労働英雄**

| | |
|---|---|
| ①劉貴福 | 軽兵器の修理を専門とし、「軍工部技術能手」に評価された。 |
| ②孫永富 | 砲弾作りの機械を設計した。 |
| ③楊鴻章 | 技術と生産用具を改良し、原材料を節約し、生産効率を高めた。 |
| ④張浩 | 硫酸、硝酸、塩酸の試作に成功し、太行山の化学工業のパイオニアとなった。 |
| ⑤ 教逢春 | 雷管、プライマー、導火線、その他の火薬製品の製造を専門とし、「火薬製品の外科医」と呼ばれた。 |

①呉東才編『晋冀豫根拠地』兵器工業出版社、1990年、269頁。②同上書、271頁。③同上書、272頁。④同上書、278頁。⑤同上書、283頁。

以上のことから見ると、前線根拠地の軍需産業部門においては、

[61]呉東才編『晋冀豫根拠地』兵器工業出版社、1990年、1－15頁。

趙占魁運動よりもより技術が強調された可能性があり、その原因は厳しい軍事状況の中で質の良い武器の重要性にあると考えられる。

### 4. 趙占魁運動とスタハノフ運動の比較

陝甘寧では、労働英雄の生産運動における役割が最優先され、次に模範労働者が中共の政策を支持することも重視される。スタハノフ運動と異なり、趙占魁運動は工場整風運動の一環であり、生産を推し進めるだけでなく、労働者の「経済主義」と「平均主義」を克服して彼らを生産に集中させることを目標とした。模範労働者に選ばれても賃上げはなく、2,000 元の奨励金[62]、服などの日用品が与えられた。余敏玲は、中共政権下においては、1949 年以前は労働英雄が得た奨励金などは大きく宣伝され、1949 年から大躍進までは、栄誉がより強調されるようになったと指摘している[63]。しかし、模範労働者を紹介する『解放日報』の記事では、労働者の得た奨励金が巨額であっても強調されず、むしろ奨励金を革命のために供出したことがよく報道された。例えば、模範労働者の馮振僧は 2 万元の奨励金をすべて「公家」(政府・お上)に渡し、献身的に仕事に打ち込み、工場を自分の家のように見なしていたと報道された[64]。それに対して、農民労働英雄の奨励品がよく宣伝され、例えば英雄大会において牛一頭が奨励されたという報道がよくあった。

中国の農民は「昇官発財」(官位に就き、金持ちになる)を理想とし、中共はそれに合わせ、労働英雄を「状元」と呼んで英雄を迎える儀式を行い、物質的な奨励としては牛、羊などの家畜を与えていた。また、多くの農民労働英雄が減租減息政策と自分の努力により、貧農から中農、または富農に上昇して「翻身」(抑圧から解放されること)でき、豊かになったこともよく報道されていた。中共は農民の

---

[62]辺区の生産に携わらない幹部の増加によって物質の需要と消費が拡大したのに対して、辺区の経済状況が元々脆弱であり、国民政府の封鎖によって辺区の需要と供給の矛盾が激化した上に、過度の通貨発行などの要素により、辺区では深刻なインフレを引き起こした。1942 年の延安では、麦一斗の価格が 80 元から 170 元、粟一斗が 60 元から 125 元に上昇したが、奨励金 2,000 元は 12 石から 25 の麦、16 石から 33 石の粟を購入できる。一年で一人当たりの食糧消費量は約 2 石であるため、2,000 元の奨励金は巨額だと考えられる(陝甘寧辺区財政経済史編写組編『抗日戦争時期陝甘寧辺区財政経済史料摘編』(4) 商業貿易、438 頁、457－468 頁)。

[63]余敏玲『形塑「新人」: 中共宣伝与蘇聯経験』中央研究院近代史研究所、2015 年、296 頁。

[64]「工厂模範馮振僧」前掲『陝甘寧辺区工人運動史料選編』下冊、183 頁。

「昇官発財」の心理をうまく利用し、相応したインセンティブを与えたと考えられる。それに対して、公営工場の模範労働者は「公家」のために働き、物質奨励より栄誉が与えられたのである。反対に、労働者の正当な利益を求めた狄徳建などの人は「破壊分子」、「反革命分子」と見なされ、厳しく批判された[65]。

その一方で、スタハノフ運動者は賃金が上がり、アパートが与えられ、映画館、リゾートなどの入場券が配られ、スタハノフ運動者も自分の収入を隠さず、堂々と大衆の前でそのことを話した。また、スターリンの考える模範労働者は決して全身全霊で仕事に打ち込む人ではなかった。1935 年 11 月、スターリンは全国第一回スタハノフ運動大会において、スタハノフ運動が社会主義競争の最高段階を示す者だと賞賛した。スターリンの演説では、模範労働者が技術と文化を持つ必要があると強調され、彼は労働者の文化と技術水準がエンジニアや技術者のレベルまで上昇することを期待していた。スターリンが言及した「文化素養がある」とは、単なる読み書きができることではなく、ロシアの古典文学が読め、音楽会、演劇などの活動に参加することである。スターリンの求める模範労働者像は 1 日 7 時間働いて仕事を完成し、よく映画を見に行ったり親友に会ったり運動をしたりし、エンジニアのように清潔で綺麗な服装をして下品な言葉を言わないのである[66]。

模範労働者を評価する基準は二つの運動で異なった。上述したように、1942 年末、辺区総工会は趙占魁の労働態度に基づいて模範労働者の条件を以下の通り設けた。①工場を愛し、規律を厳守する。②積極的に働く。③生産量が多く、質が良い。④道具を大切にし、材料を節約する。⑤苦労する時は一番先に立ち、楽しむ時は一番最後に回る。⑥一生懸命学習し、人を助ける。⑦自分の欲望を抑えて公に奉仕し、民衆を団結させる[67]。一方、ソ連では生産効率が高く、技術を持つ人がスタハノフ労働者として評価され、延安のような自己犠牲の精神や個人の道徳が強調されなかった。

趙占魁運動は労働者を少数の「破壊分子」(正当な権利と利益のた

---

[65]周海燕「“趙占魁運動”：新聞生産中工人模範的社会記憶重構」『新聞記者』2012 年 1 月。
[66]前掲余敏玲書、265－266 頁。
[67]「継続開展趙占魁運動」『解放日報』1942 年 12 月 12 日、第 1 版。

めにストライキをした労働者）と大多数の「よい人」に区分し、「破壊分子」を厳しく処罰することによって、労働規律を強化して労働者の思想を改造することに成功し、また、労働者が生産に集中して生産を推進した。生産量と質が向上したと宣伝されたが、記事やパンフレットでは負の側面に触れておらず、実態に即して評価することが困難である。スタハノフ運動は生産量を高めたが、労働者間の賃金格差が拡大して「労働者貴族」が現れた。突貫作業が引き起こされ、機械が摩損して故障や事故が増えた。計画経済を実施するソ連では、スタハノフ運動は成果中心主義に歪められ、スタハノフ労働者がノルマを超えるために定量であった原材料、燃料などを過度に使い、他の生産計画に支障をきたし、生産効率の低下を招いた[68]。

**表 3－4:趙占魁運動とスタハノフ運動の比較**

| | 趙占魁運動 | スタハノフ運動 |
|---|---|---|
| 目標 | 生産を推進し、労働者を教育し、新たな労働態度を樹立する。 | 労働者の技術を高め、生産効率を向上する。 |
| インセンティブ | 模範労働者に選ばれると、現金、衣服などの日用品が奨励された。また、工場、政府は大会を開いて彼らを奨励し、栄誉を与えた。『解放日報』では彼らの事績が大いに宣伝された。英雄を紹介する歌、詩なども作られ、彼らは辺区でよく知られる人物となった。<br>その一方、労働規律を守らない「怠け者」が批判され、処罰されることもあった。 | スタハノフ労働者の賃金が上昇し、アパートが割当てられ、映画館、労働者クラブ、リゾート施設の入場券が配られた。また、「社会主義労働英雄」などの称号が与えられた。その一方、スタハノフ運動を批判する者が処罰された。 |
| 宣 | 物質奨励が強調されず、記事 | スタハノフ労働者は自分の賃 |

[68]木村雅則「スターリン体制の制度的配置と再生産メカニズム：1930年代国営工業を中心に」『比較経済研究』第47巻第1号、2010年、7－8頁。

| | | |
|---|---|---|
| 伝の重点 | では主に労働者が困難を助け、奨励金を戦争のために供出したなどのことが報道された。逆に、給料を高めようという要求を出した人は「経済主義」として批判された。 | 金を腹蔵なく語り、記事でも彼らの得た奨励品がよく宣伝された。 |
| 評価基準 | ① 工場を愛し、規律を厳守する。<br>② 積極的に働く。<br>③ 生産量が多く、質が良い。<br>④ 道具を大切にし、材料を節約する。<br>⑤ 苦労する時は一番先に立ち、楽しむ時は一番最後に回る。<br>⑥ 一生懸命学習し、人を助ける。<br>⑦ 自分の欲望を抑えて公に奉仕し、民衆を団結させる。 | 生産量、技術革新 |
| 対象 | 公営工場を中心に運動が展開された。 | 国有工場、集団農場 |

## 5． まとめ

十月革命後、ソ連は世界で唯一の社会主義国であり、資本主義国家から孤立し、連年の戦争により経済状況が悪化した。その上、1920年代後半になると、資本主義世界は深刻な経済危機に見舞われ、ファシスト勢力も拡大していた。厳しい国際情勢に直面し、スターリンは経済発展と国防建設のため、工業化を目指した五ヵ年計画の実施を決定した。1930年から1935年にかけて第一次五ヵ年計画が行われ、先進資本主義諸国から技術、人材、機械が輸入されて工業化の基礎が築かれたが、ソ連の労働者は輸入された技術を効率的に扱えず、生産率の向上を導かなかった。スターリンはその問題に気づ

き、労働者が技術を習得することの重要性を繰り返し強調した。第二次五ヵ年計画は新しい技術と労働者を結び付けて生産効率を向上することを目標として、1930年第半ばから展開されるようになった。スタハノフ運動はその一環となった。スタハノフは分業の方法で労働効率を高めて以前より数倍の生産量を達成し、大いに宣伝され、各分野でスタハノフ運動が行われた。スタハノフ労働者は出来高払い賃金制度により収入が増え、アパートと映画館、リゾートなどの入場券が配られ、よい生活が過ごせるようになった。また、「社会主義労働英雄」などの称号が与えられ、大変名誉なことである。スタハノフ運動はソ連の工業化を一層推進したが、「労働者貴族」の出現、計画経済の混乱などを招いた。

1935年末、スタハノフ運動は中国に伝えられ、国民政府と中共に注目されるようになった。特に、スタハノフ運動の内容を含む『教程』は1939年に延安に紹介され、1942年からの延安整風運動で幹部の学習文献に入れられ、スタハノフ運動は中共党内でよく知られるようになったと思われる。中共は1939年既にスタハノフ運動に倣って生産成績の優れた者を表彰し、1943年1月から陝甘寧では労働英雄運動が大生産運動の一環として本格的に展開されていた。

中共は1939年既にスタハノフ運動に倣って生産成績の優れた者を表彰し、1943年から本格的に労働英雄運動を展開していた。工業部門では趙占魁運動が行われた。労働者技術と生産効率の向上を目標としたスタハノフ運動と比べ、趙占魁運動は工場整風運動の一環であり、生産を推進したのみならず、新たな労働態度を樹立することを目標としていた。延安では、物質的奨励はソ連のように大いに宣伝されず、記事において模範労働者の道徳がより強調された。共和国の労働模範顕彰は趙占魁運動の特徴を継承し、公正無私をより強調していた[69]。その特徴は先行研究が指摘するよりも早く、すでに趙占魁運動において出現しており、この問題はソ連の経験との比較によって、より明確にすることのできるのである。ただし、趙占魁運動に対して、前線根拠地の軍需産業部門では、厳しい軍事状況に直面し、質の良い武器の生産が重要され、趙占魁運動よりもより技術が強調された。

[69]前掲余敏玲書、305－306頁。

## 終章

従来の研究では、労働英雄運動は陝甘寧から始まり、生産を発展するために行われた運動であり、次第に他の根拠地でも展開されるようになったといわれる。日本軍の軍事行動などで経済的に窮地に追い込まれた晋西北も労働英雄の選抜を始めるが、延安と全く同様の方法で行ったわけではない。

晋西北と陝甘寧の労働英雄運動の比較を通じて、晋西北の労働英雄運動は延安とは異なり自らの特徴があることが理解できる。すべてが延安から始まるのではないと考えられる。晋西北根拠地の労働英雄運動は延安をモデルとしながらも、基層のレベルの選挙、英雄の序列化、特等労働英雄の選定、民俗利用などに関して、1943年以降の陝甘寧辺区の労働英雄運動に先行する形で様々な取組みが展開していた。晋西北根拠地は陝甘寧辺区と隣接しており、互いに影響を受けやすいと考えられる。晋西北が反対に陝甘寧に影響に与えた可能性も否定できない。また、「労武結合」の英雄とされる太行根拠地の李順達の履歴から見ると、「労武結合」という言葉自体は先に太行根拠地に使われており、晋西北は太行の経験を受け入れた可能性があると考えられる。その上で、1943年の延安の「組織起来」の呼びかけに呼応する形で、張初元の活動が「労武結合」の模範として顕彰されるようになったと推察できる。ここから従来の延安を中心とした中共根拠地の歴史叙述を見直すことの必要性が理解できる。

晋西北より不安定な状況にあった太岳根拠地の英雄運動は、陝甘寧、晋西北の二つの根拠地と比べて、群衆抗日英雄が重視されていた。1940年の掃蕩において、民兵であった薬炎明は一人の日本兵を殺して殺敵英雄と評価され、薬炎明運動が展開された。薬炎明式の英雄は片手に鋤、もう片手に銃を持ち、揺るがず勇敢に根拠地を守る群衆英雄であり、農作業に従事するのみならず、必要な時に敵と戦うことが求められた。工業においても薬炎明式の労働者英雄が奨励されていた。1945年元日に太岳区殺敵英雄・労働英雄・模範工作者第一回大会及び太岳区戦績生産展覧大会が開催され、31人の殺敵英雄が表彰された。厳しい軍事状況に直面し、太岳根拠地では生産の発展を重視するのみならず、勇敢に敵と戦う抗日英雄が評価された。

また、女性が一部の県の区レベルで第一位の労働英雄に選ばれるなど、女性労働英雄の活躍が重視され、ゲリラ戦への協力が顕彰されることもあった。陝甘寧辺区では、1938年に先駆的に女性の農業労働英雄の顕彰が開始されており、1940年になると、政府、学校などの公的機関の女性が表彰する対象となり、農業における女性労働英雄が見られなくなった。その原因は中共が女性の生理的差異を配慮し始め、彼女らが開墾のような重い肉体労働でなく、室内の仕事を任されたという女性運動の方針の変更にあると考えられる。それに対して、太岳では男性労働力の減少により、女性が農業に従事せざるを得ないという状況があり、女性の農業参加が顕彰されていた。また、前線のため、女性のゲリラ戦の協力も評価された。

従来の研究の多くは 1943 年以降の大生産運動を神格化する毛沢東を中心とした歴史観の影響により、初期の延安における女性労働の重視や前線における群衆英雄運動を根拠地全体の運動の中に位置づけることができなかった。戦時動員が女性の社会進出を促進することは、第一次世界大戦以降の先進資本主義国において認められるが[1]、中共根拠地においてそれは男性に代わって女性が農作業やその他の生産に従事して戦争を支えるという形で進行したといえる。女性だけでなく、児童などの社会的弱者が生産に動員され、前線地域である太岳はまさに全民抗戦の様相を呈した。1943年に陝甘寧では変工互助を中心として労働英雄運動を展開し、その影響を受けて太岳も労働英雄の互助を表彰し、延安の手法を導入した。また、太岳で見られた抗属（出征兵士の家族）、栄誉軍人（傷痍軍人）といった弱者の模範、革命の模範が顕彰されたことは、共和国の模範顕彰運動に継承された。このような継承関係は、延安大生産運動以前の前線の根拠地の経験も含む労働英雄運動の全体像を捉えることで理解することができるのである。

要するに、以上の比較によると、根拠地ごとに労働英雄運動はさまざまな特徴があり、毛沢東の権威の確立により形成された、労働英雄運動を特に 1942 年以降に本格化する延安大生産運動を中心に

[1]杉村使乃「工場と戦場における女性―第二次世界大戦下のイギリスにおける女性の戦時奉仕」『敬和学園大学研究紀要』（15）2006 年、167－187 頁、林田敏子『戦う女、戦えない女―第一次世界大戦期のジェンダーとセクシュアリティ』人文書院、2013 年、加納実紀代『女たちの〈銃後〉』筑摩書房、1987 年。

把握する従来の歴史叙述を見直す必要があると考えられる。高橋伸夫は中共の勝利の原因を日中戦争期以降の党組織の強化よりも、むしろ散漫な組織の持つ柔軟性に根拠を見出そうとしている[2]。延安整風運動以前は各根拠地がより自律性をもって労働英雄運動を展開し、その経験が各地に共有され、また整風運動以降延安からの統制は強化されていくものの、各根拠地が分散、分断された状況の中で、それぞれの状況に応じた労働英雄運動の特徴が維持され、散漫であるが故の柔軟さが示されたと考えられる。また、本稿では各根拠地の労働英雄運動の分析を通じ、労働英雄運動の全体像が明確にされ、共和国時期の労働模範表彰との継承関係を示すことができた。

農業労働英雄の表彰の他、工業では趙占魁運動が行われていた。趙占魁は辺区農具廠の労働者であり、「狄徳建事件」の混乱を処理する中で発見された。辺区農具廠の工会主任である狄徳建が新たな労働契約が労働者の利益に反したと強く批判したのに対して、趙占魁は過酷な仕事環境に不満を言わず、仕事に尽力し、革命に忠誠を示して工場を自分の家と見なしたため、模範労働者に選ばれた。彼の労働態度に学ぶ趙占魁運動が全辺区で展開され、次第に他の根拠地に伝えられ、晋西北では張秋鳳、太岳では車三千などの模範労働者が出現した。スタハノフ運動と比べ、趙占魁運動は工場整風運動の一環であり、生産を推進するのみならず、労働者の「経済主義」と「平均主義」を正し、新たな労働態度を樹立することを目標としていた。また、模範労働者は奨励金、衣服などの日用品が与えられたが、その物質的奨励はソ連のように大いに宣伝されず、記事において彼らの中共に対する忠誠心、自己犠牲の精神、献身的に仕事に打ち込み、工場を自分の家のように見なし、経済報酬を求めず、奨励金を革命のために供出する態度がよく報道された。模範労働者の選定基準でも労働者の道徳が重視されることが確認できる。共和国の労働模範顕彰運動は延安の趙占魁運動の特徴を継承し、公正無私をより強調し、また、階級闘争の激化とともに、出身階級まで評価の基準の一つとなったのである[3]。ただし、趙占魁運動に対して、前線根拠地の軍需産業部門では、厳しい軍事状況に直面し、質の良い武

[2]高橋伸夫『党と農民 中国革命の再検討』研文出版、2006年。
[3]余敏玲『形塑「新人」：中共宣伝与蘇聯経験』中央研究院近代史研究所、2015年、305－306頁。

器の生産が重要され、趙占魁運動よりもより技術が強調された。

今堀誠二によれば、労働英雄運動において、農業では深耕、多肥をこなし、「精耕細作」が強調され、工業では休まずに仕事に集中し、一日十数時間の長時間労働が評価され、いわゆるアジア的労働が行われていた。今堀は、労働力を無限に投入し、密度の高い労働を無償でつぎ込んでいたアジア的労働がアジア的社会の性格に癒着し、また、ブルジョア民主主義経済との矛盾を孕んでいたと指摘している[4]。ただし、農民が富農になって豊かな生活を過ごせるようにという目標によって働き、奨励において物質的なインセンティブを享受していた[5]のに対して、模範労働者には物質的なインセンティブより、革命勝利のために自己犠牲に徹して一生懸命に働くことが求められていた。つまり、労働力を無限に投入するという同じアジア的労働の性格を有しながらも、農民は私有財産拡大の可能性、物質的なインセンティブのより積極的な享受という点で、労働奨励の方向性が工場労働者とは明らかに異なっていたのである。

労働英雄運動は模範的な人物を作りだして積極的に宣伝することで、民衆を生産に動員することができ、農業と工業の生産量が増加し、戦争の勝利に貢献した。労働英雄は中共の支持によって基層幹部を担当したり互助組を組織したりし、農村の中心的な人物になり、「一攬子英雄」（多角的な指導任務を担う労働英雄）と呼ばれた。中共は労働英雄を基層幹部に育成し、従来の「郷紳」によって形成された農村秩序を破壊し、政策を農村レベルまで浸透させるようになった。工業部門では、趙占魁のような革命に忠誠を尽くし、自己犠牲に徹する公正無私の労働者が英雄として評価され、賃金と待遇の向上を求める労働者が「経済主義」と批判された。この運動を経て労働規律が正され、新たな労働態度を樹立することに成功した。

日中戦争期の労働英雄運動などを通じて形成された、基層幹部と中共の関係のその後を展望すると、以下のようになるであろう。日中戦争において、基層の大衆が中共によって幹部として登用されたが、彼らの権力の源泉は中共のみに由来するため、中共の支持を失うと地位がなくなるという不安定な状況に置かれた。このようにし

[4]今堀誠二『中国の民衆と権力』勁草書房、1973年、239－240頁。
[5]朱徳「建設革命家務」『解放日報』1943年5月1日、第1版。

て、次第に中共の社会に対する操作性が高まっていったものと考えられる[6]。戦後国共内戦期には、中共がより多くの資源を戦争に動員し、また社会を徹底的に改造するため、土地改革を行った。日中戦争期において育成された幹部は、土地改革の徹底を求める中央の指示の下、大衆の批判にさらされることになり、権力を失うことを恐れた幹部らは、各地の実情に基づかず、土地改革の急進化を導くこととなった[7]。

本稿では、主に新聞史料と刊行された史料集に依拠したが、政府文書など檔案史料を使用することができず、英雄の選抜過程などの実態を明らかにすることができなかった。根拠地の社会経済状況と労働英雄運動、互助合作運動の関係などについても分析できていない。日中戦争以前の閻錫山政権と中共政権との連続性が明らかにすることができなった。労働英雄運動における女性の家庭、社会経済的役割の分析については一定の研究蓄積があるが、これらを踏まえて根拠地間の比較や関連について検討することもできなかった。また、趙占魁運動の根拠地間の比較も今回十分にできていない。これらは、今後の課題としたい。

[6]佐藤宏「陝甘寧辺区の農村労働英雄と基層指導部―延安期の大衆路線」『中国研究月報』第 432 号、1984 年、張基輝「中共重塑下的晋西北鄉村―「張初元模式」与鄉村権威 1940-1945」山西大学修士論文、2007 年。

[7]三品英憲「華北農村社会と基層幹部―戦後内戦期の土地改革運動」笹川裕史編『戦時秩序に巣喰う「声」―日中戦争・国共内戦・朝鮮戦争と中国社会』創土社、2017 年、85－120 頁。

## 参考文献一覧（50音・ピンイン・アルファベット順）

［史料］

### １．新聞・雑誌

『解放日報』
『晋察冀日報』
『抗戦日報』
『人民日報』
『太岳日報』
『新華日報（太岳版）』
『新中華報』

### ２．史料集

陳学昭『延安訪問記』北極書店、1940年。
郭維明『晋綏革命根拠地政権建設』山西古籍出版社、1998年。
聯共（布）中央特設委員会編『聯共（布）党史簡明教程』、1949年。
晋綏辺区財政経済史編写組編『晋綏辺区財政経済史資料選編』(工業編)、山西人民出版社、1986年。
晋綏辺区財政経済史編写組、山西省檔案館編『晋綏辺区財政経済史資料選編』農業篇、山西人民出版社、1986年。
晋綏辺区財政経済史編写組、山西省檔案館編『晋綏辺区財政経済史資料選編』総論篇、山西人民出版社、1986年。
羅瓊編『婦女運動文献』東北書店、1948年。
毛沢東『新民主主義論』中原新華書店、1949年。
毛沢東『中国革命与中国共産党』新民主出版社、1949年。
毛沢東『組織起来』1949年。
民主出版社編絵『晋冀魯豫辺区分区詳解地図』華北新華書店、1947年。
李玉文編著『山西近現代人口統計与研究』中国経済出版社、1992年。
穆欣『晋綏解放区民兵抗日闘争散記』上海人民出版社、1959年。
民主出版社編絵『晋冀魯豫辺区分区詳解地図』華北新華書店、1947年。

陝甘寧辺区財政経済史編写組編『抗日戦争時期陝甘寧辺区財政経済史料摘編』(1) 総論、1980 年。
陝甘寧辺区財政経済史編写組編『抗日戦争時期陝甘寧辺区財政経済史料選編』第二篇農業、陝西人民出版社、1981 年。
陝甘寧辺区財政経済史編写組編『抗日戦争時期陝甘寧辺区財政経済史料摘編』(4) 商業貿易。
陝甘寧辺区財政経済史編写組、陝西省檔案館編『抗日戦争時期陝甘寧辺区財政経済史料摘編』7 互助合作、陝西人民出版社、1981 年。
陝甘寧辺区財政経済史編写組編『抗日戦争時期陝甘寧辺区財政経済史料摘編』(8) 生産自給。
陝甘寧辺区財政経済史編写組編『抗日戦争時期陝甘寧辺区財政経済史料摘編』9 人民生活。
陝西省地方志編纂委員会主編、曹占泉編『陝西省志』人口志、三秦出版社、1986 年。
陝西省総工会工運史研究室編『陝甘寧辺区工人運動史料選編』上冊、工人出版社、1988 年。
山西省沁源県史志弁公室『沁源県党史資料』第 3 集、山西省沁源県史志弁公室。
山西省史志研究院『太岳抗日根拠地重要文献選編』中央文献出版社。
太岳革命根拠地農業史編写組『太岳革命根拠地農業史資料選編』山西科学技術出版社、1991 年。
太岳行署編『発展新式富農経済　向石振明看斉』、1946 年。
王冰編『生産文献』山東新華書店、1946 年。
呉東才編『晋冀豫根拠地』兵器工業出版社、1990 年。
武月星主編『中国抗日戦争史地図集 1931-1945』中国地図出版社、2015 年。
香港新華分社編『怎様分析階級』中国出版社、1949 年。
薛幸福主編『晋綏根拠地軍工史料』1990 年。
薛幸福主編『陝甘寧辺区』兵器工業出版社、1990 年。
延安市婦女運動志編委会編『延安市婦女運動志』陝西人民出版社、2001 年。
張転芳編『晋冀魯豫辺区貨幣史（上冊）：晋東南革命根拠地貨幣

史』中国金融出版社、1996 年。
趙元明編『陝甘寧辺区的労働英雄』大衆書店、1946 年。
『政策選輯』新華書店、1949 年。
朱楚珠編『中国人口』陝西分冊、中国財政経済出版社、1988 年。
中共山西省委党史研究室、中共内蒙古自治区委党史資料徴研委弁公室、晋綏革命根拠地史料徴編指導組弁公室『晋綏革命根拠地大事記』山西人民出版社、1989 年。
中共中央組織部、中共中央党史研究室、中央檔案館編『中国共産党組織史資料第三巻（上、下）：抗日戦争時期（1937.7-1945.8)』中央党史出版社、2000 年。
中国革命博物館編『解放区展覧会資料』文物出版社、1988 年。
中国人民大学中共党史系資料室『中共党史教学参考資料』抗日戦争時期（中)、中国人民大学出版社、1980 年。
中央檔案館編『中共中央文件選集』中共中央党校、1991 年。
中央檔案館編『中国共産党関於西安事変檔案史料選編』中国檔案出版社、1997 年。
中央党史研究室、中央檔案館編『抗日戦争時期中国解放区人口傷亡和財産損失檔案選編』中共党史出版社、2015 年。

［著作・論文］

日本語

今堀誠二『中国の民衆と権力』勁草書房、1973 年。
内田知行『抗日戦争と民衆運動』創土社、2002 年。
加納実紀代『女たちの〈銃後〉』筑摩書房、1987 年。
木村雅則「スターリン体制の制度的配置と再生産メカニズム：1930 年代国営工業を中心に」『比較経済研究』第 47 巻第 1 号、2010 年。
小林弘二『二〇世紀の農民革命と共産主義運動―中国における農業集団化政策の生成と瓦解』勁草書房、1997 年。
小竹一彰「中国共産党の農民階級区分論―その生成期に関する一考察」小林弘二編『中国農村変革再考―伝統農村と変革』アジア研究経済所、1987 年。

佐藤宏「陝甘寧辺区の農村労働英雄と基層指導部―延安期の大衆路線」『中国研究月報』第 432 号、1984 年。
杉村使乃「工場と戦場における女性―第二次世界大戦下のイギリスにおける女性の戦時奉仕」『敬和学園大学研究紀要』(15) 2006 年。
スターリン全集刊行会『スターリン戦後著作集』大月書店、1965 年。
スターリン全集刊行会訳『スターリン全集』第 13 巻、大月書店、1953 年。
スターリン全集刊行会『レーニン主義の諸問題』大月書店、1953 年。
高橋伸夫『党と農民 中国革命の再検討』研文出版、2006 年。
田中仁「路線転換期における中国共産党の根拠地構想」横山英、曽田三郎編『中国の近代化と政治的統合』溪水社、1992 年。
田原史起「中国一九五〇年期土地改革における「階級」と農村社会―階級区分工作の実施過程についての考察」『アジア研究』第 43 巻第 1 号、1996 年。
中井明「現代中国農村における政策浸透―1940 年代後半から 1950 年代初期の階級区分基準の操作実態の分析」『アジア研究』第 51 巻第 4 号、2005 年。
林田敏子『戦う女、戦えない女―第一次世界大戦期のジェンダーとセクシュアリティ』人文書院、2013 年。
防衛庁防衛研修所戦史部著『北支の治安戦』〈1〉朝雲新聞社、1968 年。
馬場毅『日中戦争と中国の抗戦―山東抗日根拠地を中心に』集広舎、2021 年。
丸田孝志『革命の儀礼－中国共産党根拠地の政治動員と民俗』汲古書院、2013 年。
丸田孝志「人民に奉仕する身体―中華人民共和国成立前夜の華東栄誉軍人学校における兵士の生活」、笹川裕史編『現地資料が語る基層社会像―20 世紀中葉東アジアの戦争と戦後』汲古書院、2020 年。
三品英憲「華北農村社会と基層幹部―戦後内戦期の土地改革運動」笹川裕史編『戦時秩序に巣喰う「声」―日中戦争・国共内戦・朝鮮戦争と中国社会』創土社、2017 年

宮下誠一郎『ソ連・ロシア，東欧の政治と経済』専修大学出版局、2001年。
安井三吉「ナショナリズムと抗戦期の地域権力」西村成雄編『現代中国の構造変動』3ナショナリズム—歴史からの接近、東京大学出版社、2000年。

**中国語**

艾亮「陝甘寧辺区趙占魁運動研究」延安大学修士論文、2011年。
Antony C.Sutton著、安岡訳『西方技術与蘇聯経済的発展：1930-1945』中国社会科学出版社、1980年。
房成祥、黄兆安主編『陝甘寧辺区革命史』陝西師範大学出版社、1991年。
方慧容「“無事件境”与生活世界中的“真実”—西村農民土地改革時期社会生活的記憶」、楊念群主編『空間・記憶・社会転型—“新社会史” 研究論文精選集』上海人民出版社、2001年。
韓暁莉『革命与節日—華北根拠地節日文化生活 1937-1949』社会科学文献出版社、2019年。
韓暁莉「抗戦時期山西根拠地労働英雄運動研究」『抗日戦争研究』2012年第3期。
高海波「斯達漢諾夫運動与典型報道」『国際新聞界』2011年11月。
高正暁「太岳革命根拠地婦女生産労働研究」山西師範大学修士論文、2014年。
黄宗智『華北的小農経済与社会変遷』中華書局出版、1986年。
霍雅琴「陝甘寧辺区政府体制研究」西北大学博士論文、2012年。
霍雅琴『陝甘寧辺区政府体制研究』中国社会科学出版社、2017年。
賈莉「抗戦時期晋綏労働英雄研究」延安大学修士論文、2017年。
李燕、何宛昱「経済学不能完整地解釈歴史—対斯達漢諾夫運動起因的思考」『史学理論研究』2012年第2期。
李燕、王立強「社会主義価値観与斯達漢諾夫運動之辨」『檔案与争鳴』2009年第5期。
呂美頤、鄭永福「近代中国：大変局中的性別関係与婦女」、杜芳琴、王政主編『中国歴史中的婦女与性別』天津人民出版社、2004年。

蘇聯部長会議国家労働工資委員会編、洛東渠訳『蘇聯労働与工資』商務印書館、1977 年。
田雨「斯達漢諾夫運動：基於政治動員視角的分析」華東師範大学修士論文、2016 年。
王愛珠編著『蘇聯東欧経済改革概論』復旦大学出版社、1989 年。
王彩霞『抗日戦争時期陝甘寧辺区労模運動研究』中国社会科学出版社、2014 年。
王建華「革命的理想人格：延安時期労働英雄的生産邏輯」『南京大学学報：哲学、人文科学、社会科学』2016 年第 5 期。
王湄、張鈺著『金星英雄李順達伝』山西出版集団北岳文芸出版社、2008 年。
王智「晋西北抗日根拠地労働英模群体研究」山西大学修士論文、2011 年。
衛鍇、張文俊「抗日戦争時期沁源県的参軍動員」『山西高等学校社会科学学報』第 30 巻第 8 期、2018 年。
行龍「在村庄与国家之間-労働模範李順達的個人生活史」『山西大学学報（哲学社会科学版）』第 30 巻第 3 期
許淑賢「抗日戦争時期婦女紡織運動及其意義—以山西省武郷県為例」『婦女研究論叢』第 3 期総第 111 期、2012 年。
「儀式与生産：陝甘寧辺区的労働模範運動」岳謙厚『辺区的革命（1937-1949）：華北及陝甘寧根拠地社会史論』社会科学文献出版社、2014 年。
游正林「革命的労働倫理的興起：以陝甘寧辺区“趙占魁運動”為中心的考察」『社会』37（5）、2017 年。
苑秀麗「国際要素対斯大林社会主義建設理論与実践的影響」『馬克思主義研究』2015 年第 2 期。
岳謙厚、張瑋『黄土・革命与日本入侵：20 世紀三四十年代的晋西北農村社会』書海出版社、2005 年。
余敏玲『形塑「新人」：中共宣伝与蘇聯経験』中央研究院近代史研究所、2015 年。
張基輝「中共重塑下的晋西北郷村—「張初元模式」与郷村権威 1940-1945」山西大学修士論文、2007 年。
張静「陝甘寧辺区趙占魁運動述論」湘潭大学修士論文、2007 年。

張松斌『西溝村志』中華書局、2002年。
張瑋、王瑩「華北及陝甘寧抗日根拠地女性英模的生活」『安徽史学』2016年第5期。
張文燦『解放的限界』中国政法大学出版社、2013年。
趙超構『延安一月』上海書店出版社、1992年。
鄭永福、呂美頤『近代中国婦女与社会』大象出版社、2013年。
智効民『劉少奇与晋綏土改』秀威資訊科技、2008年。
周海燕「“趙占魁運動”:新聞生産中工人模範的社会記憶重構」『新聞記者』2012年1月。
周尚文、葉書宗、王斯徳『蘇聯興亡史』上海人民出版社、2002年。
朱宝強「毛沢東与『聯共（布）党史簡明教程』在中共党内的伝播」『社科縦横』2012年第1期（総第389期）下。
朱鴻召『延安日常生活中的歴史（1937-1947)』広西師範大学、2007年。

**英語**

Lewis H.Siegelbaum, *Stakhanovism and the Politics of Productivity in the USSR 1935-1941*, Cambridge University Press,1990.